
桶 川 市 ・ 上 尾 市

楽 上／楽上Ⅱ／薬師堂／ 石神／石神Ⅲ

一般国道17号上尾道路新設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

2017

国土交通省 関東地方整備局

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 遺跡遠景（南から）



1 薬師堂遺跡出土遺物



2 石神遺跡出土遺物

序

埼玉県中央部を南北に縦貫する一般国道17号は、県民生活に欠かすことのできない主要幹線道路の一つです。国土交通省では、その機能を最大限に発揮できるよう、各所で改良工事やバイパス化などを進めています。その一つである上尾道路は、一般国道17号の渋滞緩和、圏央道へのアクセスの利便性を目的として、平成元年に計画され、平成28年にさいたま市西区宮前町から桶川市川田谷までのⅠ期区間全線が開通しました。

上尾道路の建設予定地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回発掘調査を実施した桶川市楽上遺跡・楽上Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡、上尾市石神遺跡・石神Ⅲ遺跡の5遺跡もその一つです。発掘調査は上尾道路新設事業に伴う事前調査であり、関係機関での協議の結果、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施しました。

発掘調査の結果、楽上遺跡と楽上Ⅱ遺跡からは火災を受けた古墳時代の竪穴住居跡が発見され、焼け落ちた屋根材が出土しました。薬師堂遺跡からは土地を区画した中世の大溝が発見され、石製の供養塔が多く出土しました。江戸時代までこの地に存在したと伝わる西光寺との関係が考えられます。石神遺跡と石神Ⅲ遺跡からは奈良時代の竪穴住居跡が発見され、この地域の歴史を紐解くうえで貴重な成果となりました。

本書は、これらの発掘成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整にご尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所、桶川市教育委員会、上尾市教育委員会、並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 塩 野 谷 孝 志

例 言

1. 本書は桶川市川田谷地内に所在する楽上遺跡第1・2次調査、楽上Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡第1・2次調査、上尾市領家地内に所在する石神遺跡第2次調査、石神Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。

2. 各遺跡の代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

楽上遺跡（No.15-056）

第1次調査

桶川市大字川田谷字狐塚南1153-1

平成25年12月10日付け教生文第2-52号

第2次調査

桶川市大字川田谷字松原1512-1

平成26年2月27日付け教生文第2-56号

楽上Ⅱ遺跡（No. 15-057）

桶川市大字川田谷字小在家1524他

平成25年12月9日付け教生文第2-54号

薬師堂遺跡（No.15-051）

第1次調査

桶川市大字川田谷字楽上1184-1

平成25年5月24日付け教生文第2-11号

第2次調査

桶川市大字川田谷字楽上1172

平成25年8月29日付け教生文第2-27号

石神遺跡（No. 14-178）

第2次調査

上尾市大字領家字石神246-1他

平成24年5月24日付け教生文第2-13号

石神Ⅲ遺跡（No. 14-263）

上尾市大字領家字石神137

平成26年2月27日付け教生文第2-29号

3. 発掘調査は、一般国道17号上尾道路新設工事に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、国土交通省関東地方整備局の

委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 各事業の委託事業名は下記のとおりである。

発掘調査事業（平成24年度）

「一般国道17号上尾道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」

発掘調査事業（平成25年度）

「一般国道17号上尾道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の平成25年度契約」

報告書作成事業（平成28年度）

「一般国道17号上尾道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の平成28年度契約」

5. 発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ-3に示した組織により実施した。各遺跡の発掘調査期間と担当者は以下のとおりである。

発掘調査

楽上遺跡第1次調査

平成25年11月1日～平成25年12月31日

担当：上野真由美・滝澤 誠

楽上遺跡第2次調査

平成25年12月1日～平成26年3月31日

担当：上野真由美・滝澤 誠

楽上Ⅱ遺跡第1次調査

平成25年12月1日～平成26年3月31日

担当：上野真由美・滝澤 誠

薬師堂遺跡第1次調査

平成25年5月1日～平成25年6月18日

平成25年8月1日～平成25年8月31日

担当：青木 弘・魚水 環

薬師堂遺跡第2次調査

平成25年6月19日～平成25年7月31日

担当：青木 弘・魚水 環

石神遺跡第2次調査

平成24年4月9日～平成24年7月31日

担当：瀧瀬芳之・青木 弘

石神Ⅲ遺跡第1次調査

平成25年8月1日～平成25年10月31日

担当：上野真由美・滝澤 誠

整理報告書作成事業

平成28年4月1日～平成29年3月31日

担当：滝澤 誠

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第432集
を印刷・刊行。

6. 発掘調査における基準点測量と空中写真撮影
は、以下のとおり委託した。

楽上遺跡第1・2次調査

基準点測量 株式会社ヤマト測建

空中写真撮影 中央航業株式会社

楽上Ⅱ遺跡第1次調査

基準点測量 株式会社ヤマト測建

空中写真撮影 中央航業株式会社

薬師堂遺跡第1・2次調査

基準点測量 中央航業株式会社

空中写真撮影 シン技術コンサル

石神遺跡第2次調査

基準点測量 株式会社ヤマト測建

空中写真撮影 中央航業株式会社

石神Ⅲ遺跡第1次調査

基準点測量 中央航業株式会社

空中写真撮影 中央航業株式会社

7. 発掘調査における写真撮影は各担当者が、出
土遺物の写真撮影は滝澤が行った。

8. 巻頭図版2の遺物写真撮影は、合資会社池澤
に委託した。

9. 出土品の整理・図版作成は滝澤が行い、金子
直行・西井幸雄・上野・福田聖・村山卓の協力
を得た。

10. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町
村支援部生涯学習文化財課が、中・近世の陶磁
器・石製品は村山が行い、他は金子・西井の助
言を得て滝澤が行った。

11. 本書の編集は滝澤が行った。

12. 本書にかかる諸資料は、平成29年4月以降、
埼玉県教育委員会が管理・保管する。

13. 発掘調査や本書の作成にあたり下記の方々・
機関から御教示・ご指導・御協力を賜った。記
して感謝いたします。

桶川市教育委員会 上尾市教育委員会

凡 例

1. 楽上・楽上Ⅱ・薬師堂・石神・石神Ⅲ遺跡におけるX・Yの数値は、世界測地系国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位はすべて座標北を示す。各遺跡の座標値と北緯・東経は、次頁に表記したとおりである。

2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、各遺跡に調査区全体をカバーする方眼を組んだ。

3. グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばRー8グリッド等と呼称した。

4. 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は、以下のとおりである。

SJ 住居跡 SB 掘立柱建物跡
SD 溝跡 SE 井戸跡 SK 土壌
SA 柵列跡 ST 火葬遺構 FP 炉穴
SI 竪穴状遺構 P ピット・柱穴

5. 本書に掲載した遺構番号は、発掘調査時に付した番号を一部振り替え、新旧対照は各遺構の一覧表に記した。

6. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。但し、一部例外もあり、それについては図中に縮尺とスケールを示した。

調査区位置図 1：15000

調査区全体図 1：500

遺構図

住居跡・掘立柱建物跡・炉穴・地下式坑・
井戸跡・火葬遺構・柵列跡・竪穴状遺構

1：60

溝跡・土壌・畝跡群 1：60 1：80

基本層序 1：40

遺物実測図

縄文土器・石器 1：4 1：3 2：3

土師器・須恵器・石製品・拓影図・鉄滓
1：4

陶磁器 1：3 鉄製品 1：2

銭貨 2：3

7. 遺物実測図の表記方法は以下のとおりである。

須恵器（断面黒塗り） 赤彩範囲（網10%）

油煙付着範囲（網50%） 被熱範囲（網50%）

・板碑のケガキ線は拓本の横に┐で示した。

・土器・陶磁器・板碑の2次利用範囲は拓本または断面図に└──┘で示した。

8. 遺構図中の網掛けは各遺構図に内容を示した。

9. 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

10. 遺構一覧表の表記は以下のとおりである。

・長さ・幅・深さ・短径・長径はm単位である。

11. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・大きさはcm・重さはg単位である。

・銭貨はmmである。

・（ ）内の数値は推定値を示す。

・[]内の数値は残存値を示す。

・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：長石

E：石英 F：軽石 G：砂粒子 H：赤色

粒子 I：白色粒子 J：白色針状物質

K：黒色粒子 L：その他

・残存率は、図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けて示した。

・色調は『新版標準土色帖』に従った。

・備考には、注記No.・煤の付着・生産地・年代

等を示した。

- ・土器・陶磁器の生産地については、胎土によって判断した。特定できないものについては、瀬戸美濃系など「系」を付けて表記した。

12. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50,000地形図、桶川市都市計画図1/2,500を編集の上使用した。

遺跡名	グリッド名	X座標	Y座標	北緯	東経
楽上遺跡	H-10	-1700.000m	-27040.000m	35° 59' 03.4899"	139° 32' 00.4711"
楽上Ⅱ遺跡	E-4	-1600.000m	-27120.000m	35° 59' 06.7266"	139° 31' 57.2649"
薬師堂遺跡	B-1	-2000.000m	-26930.000m	35° 58' 53.7666"	139° 32' 04.8993"
石神遺跡	D-6	-3100.000m	-26080.000m	35° 58' 18.1576"	139° 32' 38.9628"
石神Ⅲ遺跡	D-6	-3310.000m	-25910.000m	35° 58' 11.3600"	139° 32' 45.7733"

目 次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	(1) 溝跡	45
1. 発掘調査に至る経過	1	(2) 火葬遺構	48
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(3) 土壌	49
3. 発掘調査・報告書作成の組織	4	VI 薬師堂遺跡の調査	51
II 遺跡の立地と環境	5	1. 調査の概要	51
1. 地理的環境	5	2. 縄文時代の遺物	53
2. 歴史的環境	6	(1) グリッド出土遺物	53
III 遺跡の概要	9	3. 平安時代の遺構と遺物	60
IV 楽上遺跡の調査	11	(1) 住居跡	60
1. 調査の概要	11	4. 中・近世の遺構と遺物	60
2. 縄文時代の遺構と遺物	13	(1) 井戸跡	60
(1) 炉穴	13	(2) 溝跡	69
(2) グリッド出土遺物	13	(3) 地下式坑	90
3. 古墳時代の遺構と遺物	18	(4) 土壌	104
(1) 住居跡	18	(5) 竪穴状遺構	124
(2) グリッド出土遺物	25	(6) グリッド出土遺物	124
4. 中・近世の遺構と遺物	27	VII 石神遺跡の調査	132
(1) 井戸跡	27	1. 調査の概要	132
(2) 溝跡	27	2. 縄文時代の遺構と遺物	132
(3) 畝跡群	32	(1) 土壌	132
(4) 土壌	36	(2) グリッド出土遺物	134
(5) グリッド出土遺物	38	3. 奈良・平安時代の遺構と遺物	140
V 楽上II遺跡の調査	39	(1) 住居跡	140
1. 調査の概要	39	(2) 掘立柱建物跡	152
2. 縄文時代の遺物	41	(3) グリッド出土遺物	152
(1) グリッド出土遺物	41	4. 中・近世の遺構と遺物	152
3. 古墳時代の遺構と遺物	42	(1) 井戸跡	152
(1) 住居跡	42	(2) 溝跡	154
4. 中・近世の遺構と遺物	45	(3) 火葬遺構	157

(4) 土壇	159	(2) 掘立柱建物跡	187
(5) 柵列跡	169	(3) 井戸跡	189
VIII 石神Ⅲ遺跡の調査	170	4. 中・近世の遺構と遺物	190
1. 調査の概要	170	(1) 溝跡	190
2. 縄文時代の遺物	170	(2) 土壇	193
(1) グリッド出土遺物	170	IX 調査のまとめ	196
3. 奈良時代の遺構と遺物	173		
(1) 住居跡	173	写真図版	

挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形	5	第26図 第1号畝跡群	33
第2図 周辺の遺跡	7	第27図 第3号畝跡群	34
第3図 遺跡位置図	10	第28図 第2・4号畝跡群	35
楽上遺跡		第29図 土壇	37
第4図 基本層序	11	第30図 土壇・グリッド出土遺物	38
第5図 全体図	12	楽上Ⅱ遺跡	
第6図 第1号炉穴	13	第31図 基本層序	39
第7図 第1号炉穴出土遺物	14	第32図 全体図	40
第8図 グリッド出土遺物(1)	15	第33図 グリッド出土遺物	41
第9図 グリッド出土遺物(2)	16	第34図 第1号住居跡・出土遺物	42
第10図 グリッド出土遺物(3)	17	第35図 第2号住居跡	43
第11図 グリッド出土遺物(4)	17	第36図 第2号住居跡遺物出土状況	44
第12図 第1号住居跡・出土遺物	19	第37図 第2号住居跡出土遺物	45
第13図 第2号住居跡	20	第38図 第1号溝跡	46
第14図 第2号住居跡出土遺物	21	第39図 第2～7号溝跡	47
第15図 第3号住居跡(1)・出土遺物	22	第40図 第1～4号火葬遺構	49
第16図 第3号住居跡(2)	23	第41図 土壇	50
第17図 第4号住居跡	24	薬師堂遺跡	
第18図 第4号住居跡出土遺物	25	第42図 基本層序	51
第19図 第5号住居跡・出土遺物	26	第43図 全体図	52
第20図 グリッド出土遺物	26	第44図 グリッド出土遺物(1)	53
第21図 第1号井戸跡	27	第45図 グリッド出土遺物(2)	54
第22図 第1～3号溝跡	28	第46図 グリッド出土遺物(3)	55
第23図 第4・5・11～13・18号溝跡	29	第47図 グリッド出土遺物(4)	56
第24図 第9・10・14～17号溝跡	30	第48図 グリッド出土遺物(5)	57
第25図 第6～8号溝跡	31	第49図 グリッド出土遺物(6)	58

第50図	第1号住居跡	61
第51図	井戸跡(1)	63
第52図	井戸跡(2)	64
第53図	井戸跡(3)	65
第54図	井戸跡出土遺物(1)	66
第55図	井戸跡出土遺物(2)	67
第56図	井戸跡出土遺物(3)	68
第57図	井戸跡出土遺物(4)	69
第58図	溝跡(1)	73
第59図	溝跡(2)	74
第60図	溝跡(3)	75
第61図	溝跡(4)	75
第62図	溝跡(5)	76
第63図	溝跡(6)	77
第64図	溝跡出土遺物(1)	80
第65図	溝跡出土遺物(2)	81
第66図	溝跡出土遺物(3)	82
第67図	溝跡出土遺物(4)	83
第68図	溝跡出土遺物(5)	84
第69図	溝跡出土遺物(6)	85
第70図	溝跡出土遺物(7)	86
第71図	地下式坑(1)	92
第72図	地下式坑(2)	93
第73図	地下式坑(3)	94
第74図	地下式坑(4)	95
第75図	地下式坑出土遺物(1)	96
第76図	地下式坑出土遺物(2)	97
第77図	地下式坑出土遺物(3)	98
第78図	地下式坑出土遺物(4)	99
第79図	地下式坑出土遺物(5)	100
第80図	地下式坑出土遺物(6)	101
第81図	土壌(1)	105
第82図	土壌(2)	106
第83図	土壌(3)	107
第84図	土壌(4)	108
第85図	土壌(5)	109
第86図	土壌(6)	110

第87図	土壌(7)	111
第88図	土壌(8)	112
第89図	土壌(9)	113
第90図	土壌(10)	114
第91図	土壌出土遺物(1)	118
第92図	土壌出土遺物(2)	119
第93図	土壌出土遺物(3)	120
第94図	土壌出土遺物(4)	121
第95図	竪穴状遺構・出土遺物	125
第96図	グリッド出土遺物(1)	125
第97図	グリッド出土遺物(2)	126
第98図	グリッド出土遺物(3)	127
第99図	グリッド出土遺物(4)	128

石神遺跡

第100図	基本層序	132
第101図	全体図	133
第102図	土壌	134
第103図	土壌出土遺物	135
第104図	グリッド出土遺物(1)	136
第105図	グリッド出土遺物(2)	137
第106図	グリッド出土遺物(3)	138
第107図	グリッド出土遺物(4)	139
第108図	第1号住居跡	140
第109図	第1号住居跡出土遺物	141
第110図	第2号住居跡	142
第111図	第2号住居跡出土遺物	143
第112図	第3号住居跡	144
第113図	第3号住居跡出土遺物	145
第114図	第4号住居跡	145
第115図	第6号住居跡	146
第116図	第6号住居跡出土遺物	147
第117図	第7号住居跡	148
第118図	第7号住居跡遺物出土状況	149
第119図	第7号住居跡出土遺物(1)	150
第120図	第7号住居跡出土遺物(2)	151
第121図	第1号掘立柱建物跡	153
第122図	グリッド出土遺物	154

第123図	井戸跡	155
第124図	井戸跡出土遺物	156
第125図	溝跡（1）	157
第126図	溝跡（2）	158
第127図	第4号溝跡出土遺物	159
第128図	火葬遺構	159
第129図	土壇（1）	160
第130図	土壇（2）	161
第131図	土壇（3）	162
第132図	土壇（4）	163
第133図	土壇（5）	164
第134図	土壇（6）	165
第135図	土壇（7）	166
第136図	土壇出土遺物	168
第137図	第1号柵列跡	169
石神Ⅲ遺跡		
第138図	基本層序	170
第139図	全体図	171
第140図	グリッド出土遺物	172
第141図	第1号住居跡（1）	174

第142図	第1号住居跡（2）	175
第143図	第1号住居跡出土遺物（1）	176
第144図	第1号住居跡出土遺物（2）	177
第145図	第2号住居跡	178
第146図	第2号住居跡出土遺物	179
第147図	第3号住居跡	180
第148図	第3号住居跡出土遺物	181
第149図	第4号住居跡	182
第150図	第4号住居跡出土遺物	183
第151図	第5号住居跡（1）	184
第152図	第5号住居跡（2）	185
第153図	第5号住居跡出土遺物	186
第154図	第1号掘立柱建物跡	188
第155図	第1号井戸跡	189
第156図	溝跡（1）	191
第157図	溝跡（2）	192
第158図	溝跡出土遺物	193
第159図	土壇（1）	194
第160図	土壇（2）	195

表 目 次

第1表	発掘調査工程表	2
楽上遺跡		
第2表	グリッド出土石器観察表	18
第3表	第1号住居跡出土遺物観察表	19
第4表	第2号住居跡出土遺物観察表	21
第5表	第3号住居跡出土遺物観察表	23
第6表	第4号住居跡出土遺物観察表	25
第7表	第5号住居跡出土遺物観察表	26
第8表	グリッド出土遺物観察表	26
第9表	溝跡一覧表	32
第10表	第1号畝跡群一覧表	33
第11表	第3号畝跡群一覧表	35
第12表	第2号畝跡群一覧表	35
第13表	第4号畝跡群一覧表	35

第14表	土壇・グリッド出土石製品観察表	38
楽上Ⅱ遺跡		
第15表	第1号住居跡出土遺物観察表	42
第16表	第2号住居跡出土遺物観察表	45
第17表	溝跡一覧表	48
第18表	火葬遺構一覧表	49
第19表	土壇一覧表	50
薬師堂遺跡		
第20表	グリッド出土石器観察表	59
第21表	井戸跡出土遺物観察表	70・71
第22表	溝跡一覧表	78・79
第23表	第1・22号溝跡内ピット一覧表	79
第24表	溝跡出土遺物観察表	87～90
第25表	地下式坑出土遺物観察表	102～104

第26表	土壌一覧表	115～117
第27表	土壌出土遺物観察表	122～124
第28表	グリッド出土遺物観察表	129～131

石神遺跡

第29表	グリッド出土石器観察表	139
第30表	第1号住居跡出土遺物観察表	141
第31表	第2号住居跡出土遺物観察表	143
第32表	第3号住居跡出土遺物観察表	145
第33表	第6号住居跡出土遺物観察表	147
第34表	第7号住居跡出土遺物観察表	151
第35表	グリッド出土遺物観察表	154
第36表	井戸跡出土遺物観察表	156
第37表	溝跡一覧表	158

第38表	第4号溝跡出土遺物観察表	159
第39表	土壌一覧表	167・168
第40表	土壌出土遺物観察表	169

石神Ⅲ遺跡

第41表	グリッド出土石器観察表	173
第42表	第1号住居跡出土遺物観察表	177
第43表	第2号住居跡出土遺物観察表	179
第44表	第3号住居跡出土遺物観察表	181
第45表	第4号住居跡出土遺物観察表	183
第46表	第5号住居跡出土遺物観察表	187
第47表	溝跡一覧表	190
第48表	溝跡出土遺物観察表	193
第49表	土壌一覧表	195

写真図版目次

巻頭図版 1	1 遺跡遠景（南から）
巻頭図版 2	1 薬師堂遺跡出土遺物 2 石神遺跡出土遺物

楽上遺跡

図版 1	1 調査区遠景（南から） 2 楽上遺跡全景（上から） 3 楽上遺跡第1次調査区全景（北から） 4 第1号炉穴 5 第1号炉穴炉床3遺物出土状況
図版 2	1 第1号住居跡 2 第1号住居跡炉 3 第2号住居跡 4 第2号住居跡炉遺物出土状況（1） 5 第2号住居跡炉遺物出土状況（2） 6 第3号住居跡 7 第3号住居跡遺物出土状況（1） 8 第3号住居跡遺物出土状況（2）
図版 3	1 第3号住居跡遺物出土状況（3） 2 第4号住居跡 3 第4号住居跡遺物出土状況 4 第4号住居跡炉

	5	第5号住居跡			
	6	第5号住居跡炉			
	7	第1号井戸跡	8	第1号溝跡	
図版 4	1	第5号溝跡	2	第7号溝跡	
	3	第9号溝跡	4	第12・13号溝跡	
	5	第3号畝跡群	6	第4号土壌	
	7	第8号土壌	8	第10・11号土壌	
図版 5	1	第12号土壌			
	2	第3・13号土壌			
	3	第1号炉穴出土遺物			
	4	グリッド出土遺物（1）			
図版 6	1	グリッド出土遺物（2）			
	2	グリッド出土遺物（3）			
図版 7	1	楽上遺跡出土石器（1）			
	2	楽上遺跡出土石器（2）			
図版 8	1・2	第2号住居跡出土遺物			
	3・4	第3号住居跡出土遺物			
	5～7	第4号住居跡出土遺物			
	8	グリッド出土遺物			

楽上Ⅱ遺跡

図版 9	1 楽上Ⅱ遺跡全景（上から）
------	----------------

	2	第1号住居跡	6	第1号溝跡
	3	第1号住居跡炉	7	第1・22号溝跡遺物出土状況
	4	第2号住居跡	8	第5・42・43号溝跡
	5～8	第2号住居跡遺物出土状況 (1)～(4)	図版16	1 第12・13号溝跡
図版10	1	第2号住居跡遺物出土状況(5)	2	第14号溝跡
	2	第2号住居跡焼土検出状況	3	第21号溝跡
	3・4	第1号溝跡(1)・(2)	4	第23号溝跡・第93号土壇
	5	第3・4・6号溝跡	5	第24号溝跡 6 第25号溝跡
	6	第7号溝跡	7	第27～29号溝跡
	7	第1～4号火葬遺構	8	第1・30・32号溝跡
	8	第1号火葬遺構	図版17	1 第31号溝跡 2 第32号溝跡
図版11	1	第2号火葬遺構・第4号土壇	3	第34号溝跡 4 第35号溝跡
	2	第3号火葬遺構	5	第36号溝跡 6 第44号溝跡
	3	第4号火葬遺構	7	第1号地下式坑
	4	グリッド出土石器	8	第2号地下式坑
	5	グリッド出土遺物	図版18	1・2 第3号地下式坑(1)・(2)
図版12	1	第1号住居跡出土遺物	3	第4号地下式坑
	2～7	第2号住居跡出土遺物	4	第5号地下式坑
			5	第6号地下式坑
			6・7	第6号地下式坑遺物出土状況 (1)・(2)
			8	第7号地下式坑
薬師堂遺跡			図版19	1 第1・22号溝跡東側土壇群
図版13	1	薬師堂遺跡遠景(南東から)	2	第1号土壇
	2	薬師堂遺跡全景(上から)	3	第2・208号土壇
	3	薬師堂遺跡第1次調査区全景 (南から)	4	第3号土壇
	4	薬師堂遺跡第2次調査区全景 (西から)	5	第4・5号土壇
	5	薬師堂遺跡第2次調査区北部	6	第6・114号土壇
	6	第1号住居跡	7	第7・8・121号土壇
	7	第1号住居跡カマド	8	第9号土壇
	8	第1号井戸跡	9	第10・11・97号土壇
図版14	1	第2号井戸跡 2 第3号井戸跡	10	第12号土壇
	3	第4号井戸跡 4 第5号井戸跡	図版20	1 第13号土壇
	5	第6号井戸跡 6 第7号井戸跡	2	第15・122号土壇
	7	第8号井戸跡 8 第9号井戸跡	3	第16・17号土壇
図版15	1	第10号井戸跡 2 第11号井戸跡	4	第18・116号土壇
	3	第12号井戸跡	5	第19・20号土壇
	4・5	第1・22号溝跡(1)・(2)		

	6	第21号土壙		10	第88号土壙
	7	第22・23号土壙		11	第89号土壙 12 第90号土壙
	8	第24・101号土壙		13	第91号土壙 14 第92号土壙
	9	第26・115号土壙		15	第93号土壙
	10	第27号土壙		16	第95・112・192号土壙
	11	第28・177・220号土壙		17	第96号土壙
	12	第29・31・99号土壙		18	第96号土壙遺物出土状況
	13	第30号土壙	図版23	1	第102号土壙
	14	第32・33・211号土壙		2	第107・205号土壙
	15	第34号土壙 16 第35号土壙		3	第108号土壙 4 第109号土壙
	17	第36～38号土壙		5	第110号土壙
	18	第40号土壙		6	第117・118号土壙
図版21	1	第41・71・202号土壙		7	第119号土壙 8 第120号土壙
	2	第42・43号土壙		9	第123号土壙
	3	第44号土壙 4 第45号土壙		10	第123号土壙遺物出土状況
	5	第46号土壙 6 第47号土壙		11	第125号土壙
	7	第48・103号土壙		12	第125号土壙遺物出土状況
	8	第49・113・213・214号土壙		13	第126号土壙 14 第128号土壙
	9	第50・51号土壙		15・16	第128号土壙遺物出土状況
	10	第52・67号土壙			(1)・(2)
	11	第55・56・68・189・196・197号 土壙		17	第129号土壙
	12	第58・59号土壙	図版24	1	第131号土壙
	13	第64号土壙		2	第132・140号土壙
	14	第65・106号土壙		3	第134号土壙 4 第135号土壙
	15	第69号土壙		5	第139号土壙
	16・17	第69号土壙遺物出土状況 (1)・(2)		6・7	第139号土壙遺物出土状況 (1)・(2)
	18	第69号土壙焼土検出状況		8	第142号土壙 9 第143号土壙
図版22	1	第70号土壙		10	第144号土壙 11 第146号土壙
	2	第72・73号土壙		12	第147号土壙 13 第148号土壙
	3	第74・75号土壙		14	第152号土壙
	4	第76～78号土壙		15	第153・154号土壙
	5	第79・83号土壙		16	第155・156・160号土壙
	6	第81号土壙		17	第158号土壙 18 第159号土壙
	7	第82号土壙 8 第84号土壙	図版25	1	第160号土壙
	9	第85・86号土壙		2	第161～163号土壙

3 第164・165・199号土壙
4 第166・167号土壙
5 第168号土壙 6 第169号土壙
7 第170号土壙 8 第171号土壙
9 第172号土壙 10 第174号土壙
11 第175号土壙 12 第176号土壙
13 第178号土壙 14 第179号土壙
15 第181号土壙 16 第182号土壙
17 第183号土壙
18 第185・186号土壙
図版26 1 第187・188号土壙
2 第190号土壙
3 第193号土壙
4 第194・201号土壙
5 第195号土壙 6 第200号土壙
7 第206・207号土壙
8 第209号土壙
9 第210号土壙 10 第212号土壙
11 第215号土壙 12 第216号土壙
13 第217号土壙
14 第218・219号土壙
15 第221号土壙 16 第222号土壙
17 第223号土壙 18 第224号土壙
図版27 1・2 グリッド出土遺物
3 グリッド出土遺物（1）
図版28 1・2 グリッド出土遺物（2）・（3）
図版29 1 グリッド出土遺物（4）
2 グリッド出土石器（1）
図版30 1・2 グリッド出土石器（2）・（3）
図版31 1～3 第3号井戸跡出土遺物
4 第6号井戸跡出土遺物
5 第7号井戸跡出土遺物
6 第8号井戸跡出土遺物
7 第11号井戸跡出土遺物
8 第12号井戸跡出土遺物
9～16 第1号溝跡出土遺物
17・18 第22号溝跡出土遺物

図版32 1 第13号溝跡出土遺物
2 第34号溝跡出土遺物
3・4 第36号溝跡出土遺物
5・6 第1号地下式坑出土遺物
7～9 第2号地下式坑出土遺物
10・12 第5号地下式坑
11 第4号地下式坑出土遺物
13～16 第6号地下式坑出土遺物

図版33 1 第7号地下式坑出土遺物
2 第11号土壙出土遺物
3 第96号土壙出土遺物
4 第126号土壙出土遺物
5～7 第145号土壙出土遺物
8 第220号土壙出土遺物
9 第1号竪穴状遺構出土遺物
10～17 グリッド出土遺物

図版34 1 青磁 2 白磁・青花
3 瀬戸美濃系陶器

図版35 1 第1号溝跡出土陶磁器
2・3 陶器（1）・（2）

図版36 1 陶器（3）
2・3 瓦質土器（1）・（2）

図版37 1 瓦質土器（3）
2 かわらけ 3 鉄製品

図版38 1～5 石製品（1）～（5）
6 鉄滓 7 銭貨

図版39 1 第7号井戸跡出土遺物
2 第10号井戸跡出土遺物
3 第13号溝跡出土遺物
4 第34号溝跡出土遺物
5～8 第5号地下式坑出土遺物

図版40 1～3 第6号地下式坑出土遺物
4 第139号土壙出土遺物
5～8 グリッド出土遺物

石神遺跡

図版41 1～2 石神遺跡第2次調査遠景
3 石神遺跡第2次調査全景（北から）

	4	第1号土壇遺物出土状況	11	第15号土壇	12	第19号土壇	
	5	第71号土壇	6	第109号土壇	13	第20号土壇	
	7	第1号住居跡	14	第21号土壇	15	第22～26号土壇	
	8	第1号住居跡カマド	16	第24号土壇	17	第27号土壇	
図版42	1・2	第1号住居跡遺物出土状況 (1)・(2)	18	第30・31号土壇			
	3	第2号住居跡	図版47	1	第32号土壇	2	第33号土壇
	4	第2号住居跡カマド	3	第34号土壇			
	5	第3号住居跡	4	第35・36号土壇			
	6	第3号住居跡カマド	5	第37・38号土壇			
	7	第3号住居跡遺物出土状況	6	第39・40号土壇			
	8	第4号住居跡	7	第41号土壇	8	第42号土壇	
図版43	1	第4号住居跡カマド	9	第43～46号土壇			
	2	第6号住居跡	10	第47号土壇			
	3	第7号住居跡	11	第48号土壇			
	4	第7号住居跡カマド1・2	12	第47・49・51～53号土壇			
	5	第7号住居跡カマド3	13	第50号土壇	14	第54号土壇	
	6～8	第7号住居跡遺物出土状況 (1)・(2)・(3)	15	第55・56号土壇			
			16	第59・60号土壇			
図版44	1	第1号掘立柱建物跡	17	第61号土壇	18	第65号土壇	
	2	第1号井戸跡	図版48	1	第66号土壇	2	第67号土壇
	3	第2号井戸跡	4	第69号土壇	3	第72号土壇	
	4	第3号井戸跡	5	第74号土壇	4	第75号土壇	
	5	第4号井戸跡	6	第76号土壇			
	6	第5号井戸跡	7	第77・78号土壇			
	7	第1・7号溝跡	8	第79号土壇	9	第80号土壇	
	8	第2・5号溝跡	10	第81号土壇	11	第82号土壇	
図版45	1	第4号溝跡	12	第83号土壇	13	第84号土壇	
	2	第6号溝跡	14	第85号土壇	15	第86号土壇	
	3	第8号溝跡	16	第87号土壇	17	第88号土壇	
	4	第9号溝跡	18	第89号土壇	1	第90号土壇	
	5	第10号溝跡	2	第91号土壇	3	第92号土壇	
	6	第13号溝跡	4	第93～95号土壇			
	7	第1号火葬遺構	5	第96号土壇			
	8	第2号火葬遺構	6	第97号土壇	7	第98号土壇	
図版46	1	第2号土壇	8	第99号土壇			
	2	第3号土壇	9	第100・101号土壇			
	3・4	第3号土壇遺物出土状況 (1)・(2)					
	5	第4号土壇					
	6	第5号土壇					
	7	第6～9・16号土壇					
	8	第10・11号土壇					
	9	第12号土壇					
	10	第14号土壇					

11	第102～104号土壙	5	第4号住居跡カマド
12	第105号土壙	6	第4号住居跡遺物出土状況
13	第106号土壙	7	第5号住居跡
14	第107号土壙	8	第5号住居跡カマド
15	第108号土壙	図版59	1 第5号住居跡遺物出土状況
16	第110号土壙	2	第1号掘立柱建物跡
17	第111号土壙	3	第1号溝跡
18	第1号柵列跡	4	第2号溝跡
図版50	1 土壙出土遺物	5	第3号溝跡
	2 グリッド出土遺物（1）	6	第3・4号溝跡
図版51	1 グリッド出土遺物（2）	7	第4号溝跡
	2 グリッド出土石器（1）	8	第5号溝跡
図版52	1 グリッド出土石器（2）	図版60	1 第6・7号溝跡
	2～4 第1号住居跡出土遺物	2	第8・9号溝跡
図版53	1～3 第1号住居跡出土遺物	3	第10号溝跡
図版54	1～4 第3号住居跡出土遺物	4	第11号溝跡
	5 第6号住居跡出土遺物	5	第1号土壙
	6～8 第7号住居跡出土遺物	6	第2・4号土壙
図版55	1～9 第7号住居跡出土遺物	7	第5・6号土壙
図版56	1～5 第7号住居跡出土遺物	8	第7号土壙
	6 第4号溝跡出土遺物	図版61	1 第8号土壙
	7 第1・5号井戸跡出土遺物	2	第9号土壙
	8 グリッド・土壙出土鉄製品	3	第10号土壙
	9 土壙出土銭貨	4	第11号土壙
		5	第12号土壙
		6	第13号土壙
		7	第14号土壙
		8	第15号土壙
石神Ⅲ遺跡		図版62	1 グリッド出土遺物
図版57	1 石神Ⅲ遺跡遠景（北から）	2	グリッド出土石器
	2・3 石神Ⅲ遺跡全景	図版63	1～8 第1号住居跡出土遺物
	4 第1号住居跡	図版64	1～3 第1号住居跡出土遺物
	5 第1号住居跡カマド遺物出土状況	4	第2号住居跡出土遺物
	6 第1号住居跡カマド支脚出土状況	5～7	第3号住居跡出土遺物
	7 第2号住居跡	図版65	1～4 第4号住居跡出土遺物
	8 第2号住居跡カマド	5～10	第5号住居跡出土遺物
図版58	1・2 第3号住居跡（1）・（2）	図版66	1 第5号住居跡出土遺物
	3 第3号住居跡カマド	2・3	溝跡出土遺物（1）・（2）
	4 第4号住居跡	4	第5号住居跡出土鉄製品

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、『埼玉県5か年計画—安心・成長・自立自尊の埼玉へ—』において「埼玉の活力を高める道路整備」という基本目標を掲げている。こうした中で国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所は、県内において、一般国道17号（上尾道路）建設工事を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課（以下、当課）では、一般国道17号（上尾道路）建設事業に係る埋蔵文化財の保護について、国土交通省と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

本書で報告される箇所については工事計画に先立ち、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所長より平成16年1月26日付け大宮工第149号において、一般国道17号（上尾道路）建設事業に伴う埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて県教育委員会教育長（以下「県教育長」）あての照会があった。

当課は、平成24年1月23～25日、2月16・17日、平成25年3月7日、同年6月4・5日に試掘調査を実施し、遺構及び遺物を検出した。その結果を受けて平成24年2月24日付け教生文第2222号にて国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所長あて以下の通り回答した。

1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
楽上遺跡 (No. 15-056)	集落跡	旧石器・縄文・弥生・古墳	桶川市大字川田谷地内
楽上Ⅱ遺跡 (No. 15-057)	集落跡	縄文・弥生・古墳	桶川市大字川田谷地内
薬師堂遺跡 (No. 15-051)	集落跡	縄文・弥生・古墳	桶川市大字川田谷地内
石神遺跡 (No. 14-178)	集落跡	縄文・平安	上尾市大字領家地内

石神Ⅲ遺跡 (No. 14-263)	集落跡	縄文・江戸	上尾市大字領家地内
-----------------------	-----	-------	-----------

2 取扱いについて

「発掘調査を要する区域」については、計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施して下さい。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（現在は公益財団法人）と国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所、当課の三者により調査方法、期間、経費等の問題を中心に協議が行われた。その結果、石神遺跡は、平成24年4月9日から7月31日まで、他の遺跡は、平成25年4月8日から平成26年3月31日までの期間で発掘調査を実施することになった。

文化財保護法第94条による発掘通知は国土交通省関東地方整備局長から平成24年2月28日付け大宮工第141号で提出された。それに対する埋蔵文化財の保護上必要な勧告は県教育長から平成24年3月19日付け教生文第4-1098号で行われた。

文化財保護法第92条の規定による発掘調査届については公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から県教育長あてに提出された。これに対する発掘調査の指示通知は以下の通りである。

（石神遺跡）

平成24年5月24日付け教生文第2-13号

（楽上遺跡）

平成25年12月10日付け教生文第2-52号

平成26年2月27日付け教生文第2-56号

（楽上Ⅱ遺跡）

平成25年12月9日付け教生文第2-54号

(薬師堂遺跡)

平成25年5月24日付け教生文第2-11号

平成25年8月29日付け教生文第2-27号

(石神Ⅲ遺跡)

平成26年2月27日付け教生文第2-29号

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

楽上遺跡第1・2次、楽上Ⅱ遺跡、薬師堂遺跡第1・2次、石神遺跡第2次、石神Ⅲ遺跡の発掘調査は、一般国道17号上尾道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に先立ち、平成24・25年度に実施した。

楽上遺跡第1・2次

発掘調査は、平成25年11月1日から平成26年3月31日まで、第1次調査と第2次調査を連続して実施した。調査面積は第1次調査850㎡、第2次調査3,400㎡である。

第1次調査は、平成25年11月1日から12月31日まで行った。11月上旬に発掘事務所の設営と重機による表土掘削を行った。その後、人力による遺構確認を行い、古墳時代の住居跡、中・近世の溝跡・畝跡群・土壌等を検出した。順次遺構の精査に着手し、土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図の作成、写真撮影等の記録作業を実施した。11月下旬に高所作業車を使用して、全景写真撮影を行った。遺跡の調査終了後、埋戻しを行った。

第2次調査は、平成25年12月1日から平成

26年3月31日まで行った。12月中旬と1月下旬の2回に分けて表土掘削を実施した。掘削後、人力による遺構確認を行い、縄文時代の炉穴、古墳時代の住居跡、中・近世の井戸跡・溝跡・畝跡群・土壌等を検出した。順次、遺構の精査を開始し、図面や写真等の記録作成作業の後、2月下旬に楽上Ⅱ遺跡と合わせて空中写真撮影を行った。3月下旬に発掘事務所の撤収と事務手続きを行い、調査を終了した。

楽上Ⅱ遺跡

発掘調査は、平成25年12月1日から平成26年3月31日まで実施した。調査面積は2,400㎡である。12月に重機による表土掘削を実施し、その後、人力による遺構確認と精査を行った。調査区域内からは古墳時代の住居跡、中・近世の火葬遺構・溝跡等を検出した。遺構については順次、土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図の作成、写真撮影を行い、遺構の記録作業を終了した。2月下旬に楽上遺跡第2次調査と併せて空中写真撮影を行った。その後、事務手続き等を行い、3月下旬に調査を終了した。

薬師堂遺跡第1・2次

第1表 発掘調査工程表

遺跡名	調査回数	調査面積	平成24年度												平成25年度											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
楽上遺跡	第1次	850㎡																								
	第2次	3,400㎡																								
楽上Ⅱ遺跡	第1次	2,400㎡																								
	第2次	700㎡																								
石神遺跡	第2次	4,950㎡																								
石神Ⅲ遺跡	第1次	5,300㎡																								

発掘調査は、平成 25 年 5 月 1 日から平成 25 年 6 月 18 日まで第 1 次調査、平成 25 年 6 月 19 日から平成 25 年 7 月 31 日まで第 2 次調査、平成 25 年 8 月 1 日から平成 25 年 8 月 31 日まで第 1 次調査を実施した。調査面積は第 1 次調査 3,140 m²、第 2 次調査 700 m²である。

第 1 次調査は 5 月上旬に発掘事務所の設営と重機による表土掘削を開始した。その後、人力による遺構確認作業を開始し、調査区内から平安時代の住居跡、中・近世の井戸跡・溝跡・地下式坑・土壇・竪穴状遺構などを検出した。遺構については順次精査及び、土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図の作成、写真撮影を行った。7 月下旬に第 2 次調査と併せて空中写真撮影を実施した。遺構の調査終了後、8 月下旬に発掘事務所の撤収と事務手続きを行い、調査を終了した。

第 2 次調査は、6 月下旬に重機による表土掘削を行い、終了後、人力による遺構確認と精査を行った。調査区内からは中・近世の井戸跡・溝跡・地下式坑・土壇などを検出した。順次、遺構の土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図などを作成し、写真撮影を行った。8 月下旬に第 1 次調査と併せて空中写真撮影を実施した。

石神遺跡

発掘調査は、平成 24 年 4 月 9 日から平成 24 年 7 月 31 日まで実施した。実施面積は 4,950 m²である。4 月中旬から、重機による表土除去に着手し、その後、遺構確認と精査を開始し、調査区内からは縄文時代の土壇、奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、中・近世の井戸跡・溝跡・土壇・柵列跡などを検出した。順次、土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図を作成し、写真撮影を行った。7 月中旬までに記録作業を終了し、空中写真撮影を実施した。7 月下旬に事務手続きを行い、調査を終了した。

石神Ⅲ遺跡

発掘調査は、平成 25 年 8 月 1 日から平成 25 年

10 月 31 日まで実施した。実施面積は 5,300 m²である。8 月初旬に発掘事務所の設置を行い、重機による表土除去に着手した。その後、遺構確認と精査を開始し、調査区内からは奈良時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世の溝跡・土壇などを検出した。順次、遺構の土層断面図・遺構平面図・遺物出土状況図等の作成、写真撮影を行い、10 月中旬に空中写真撮影を実施した。10 月下旬に発掘事務所の撤収と事務手続きを行い、調査を終了した。

(2) 整理・報告書作成

整理・報告書作成事業は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで実施した。

遺物は、4 月から水洗・注記を行い、続いて接合作業を行った。接合した遺物は実測図を作成し、計測値や特徴なども記入した。遺物実測図はトレースを行い、必要に応じて拓本を採った。これらはスキャナを使用してデジタル・データ化し、レイアウト編集して印刷用の挿図版下データを作成した。また 12 月に遺物写真を撮影し、写真図版の版下データを編集・作成した。

遺構は、発掘調査で作成された平面図・土層断面図等を修正・編集して第二原図を作成した。パソコンを使用してデジタル・トレースと編集作業を行い、印刷用の挿図版下データを作成した。遺構写真は、発掘調査で撮影されたものの中から選択・編集し、写真図版用の版下データを作成した。

9 月上旬から作成した遺構・遺物のデータ等をもとに原稿を執筆し、遺構・遺物の挿図と写真図版などを組み合わせて割付を作成した。完了後印刷業者に入稿し、校正を 3 回を行い、平成 29 年 3 月下旬に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 432 集を刊行した。

図面や写真などの記録類や遺物は、2 月後半から整理・分類を行い、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調査監兼調査第一課長	瀧 瀬 芳 之
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 事	青 木 弘

平成25年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳一郎	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	劔 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	主幹兼整理第二課長	赤 熊 浩 一
総 務 課 長	藤 倉 英 明	主 査	上 野 真由美
		主 事	青 木 弘
		主 事	魚 水 環
		主 事	滝 澤 誠

平成28年度（整理・報告書作成）

理 事 長	塩野谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭	調 査 部 長	金 子 直 行
総務部		調 査 部 副 部 長	細 田 勝
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主幹兼整理第二課長	山 本 靖
総 務 課 長	曾 川 浩 二	主 事	滝 澤 誠

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

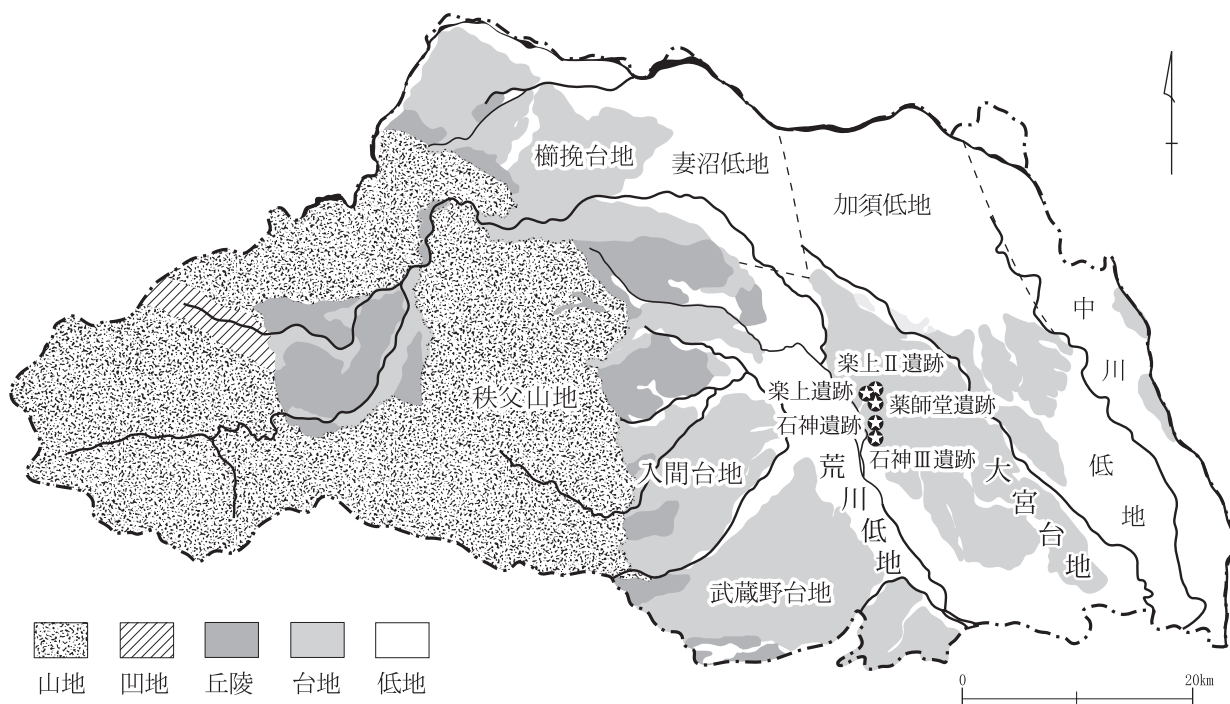
楽上遺跡・楽上Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡は桶川市川田谷に所在し、JR桶川駅から西方約4kmに位置する。石神遺跡・石神Ⅲ遺跡は薬師堂遺跡の南方約1.5～2kmの上尾市領家に立地し、JR北上尾駅から西方約4kmにある。

これらの遺跡は、大宮台地北西部に立地する。大宮台地は、北を利根川の右岸に発達した加須低地、東を中川流域に形成された中川低地、西を荒川流域に広がる荒川低地に囲まれた長大な台地である。荒川低地に面した西縁部は、比高差10mを超える急崖を成す。大宮台地の標高は、北本市高尾付近が標高26m前後と最も高い。北方と南方に向かって順次低くなり、楽上遺跡付近及び石神遺跡周辺では標高15～16m前後である。

桶川市周辺の台地は、台地内を流れる河川によ

って樹枝状に開析される。中でも全長9km程の江川は、楽上遺跡の東から南方に流下して荒川と合流する比較的規模の大きな河川である。鴻巣市原馬室に源を発して北本市西部を南流し、北本市石戸宿・桶川市日出谷地区周辺から数多くの支流を集め、湿地帯が形成されている。江川を臨む台地内部に立地する楽上遺跡・楽上Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡と石神遺跡・石神Ⅲ遺跡は、江川の谷を挟んで対峙する。

遺跡の所在する桶川市川田谷付近や上尾市領家付近では、近世以降土地改良に「ドロツケ」手法が行われ、荒川の沖積地から持ち込まれた「ヤドロ」と呼ばれる砂質氾濫土が田畑に敷かれていた。そのため表土下には灰色の「ヤドロ」が厚く堆積している。



第1図 埼玉県の地形

2. 歴史的環境

旧石器時代

石川堀流域の桶川市川田谷狐塚遺跡（10）・大沼遺跡（29）・大平遺跡（30）と、江川流域の桶川市高井東遺跡（53）・諏訪野遺跡（36）等から旧石器時代の遺物が出土した。

縄文時代

早期の遺跡は少ない。桶川市西台遺跡（21）・楽中遺跡（45）から撚糸文土器が、江川中流左岸の桶川市愛宕遺跡（55）や高井遺跡（57）から有舌尖頭器が出土した。早期後葉は、大平遺跡や楽中遺跡で炉穴群が調査され、石川堀左岸の桶川市小在家遺跡（37）では条痕文土器が出土した。江川上流域には、荒川最奥の桶川市谷津貝塚（35）が所在する。

前期に入ると、江川流域を中心に遺跡数が増加し、滝の宮坂遺跡（60）や後山遺跡（61）で住居跡が検出された。また荒川低地では、川島町東野遺跡（24）や芝沼堤外遺跡（15）などが現地表下約5mから前期後葉から末葉の住居跡が発見された。桶川市前原遺跡（22）では、前期末の甕張り葬とみられる例も報告された。

中期の集落も、江川・石川堀流域及びその支谷の奥に集中する。江川中流部の川田谷・上日出谷地区には広い沖積地が形成され、これを臨む台地上には環状集落が集中する。諏訪野遺跡・高井遺跡・北本市デーノタメ遺跡（48）等は、中期中葉から後葉にかけて営まれ、江川の本流からやや奥まった支谷沿いに立地する。こうした大規模集落を取り巻くように、桶川市諏訪南遺跡（28）等の小規模集落も出現している。また江川と荒川の合流点付近の、上尾市中井遺跡（7）では、80軒もの住居跡が検出された。

後期は、遺跡数の減少が著しい。大規模集落は姿を消し、周辺地域に数軒単位の小規模な集落が営まれる。後期中葉以降になると、拠点的な大集落が再び営まれるようになり、多くは後期中葉ま

で継続する。江川の支谷奥の台地上には集落の全面発掘が実施された高井東遺跡があり、近隣の低地部には高井泥炭層遺跡（58）が所在する。赤堀川流域の桶川市後谷遺跡では中期から晩期の遺構が発見され、低地部からは土偶・木製品が多く出土した。

晩期には遺跡の減少がより顕著となる。桶川市後谷遺跡や高井東遺跡で後期から後期中葉の遺物が出土した。また上尾市在家遺跡（79）では、晩期末葉の土器を伴う住居跡が検出された。

弥生時代

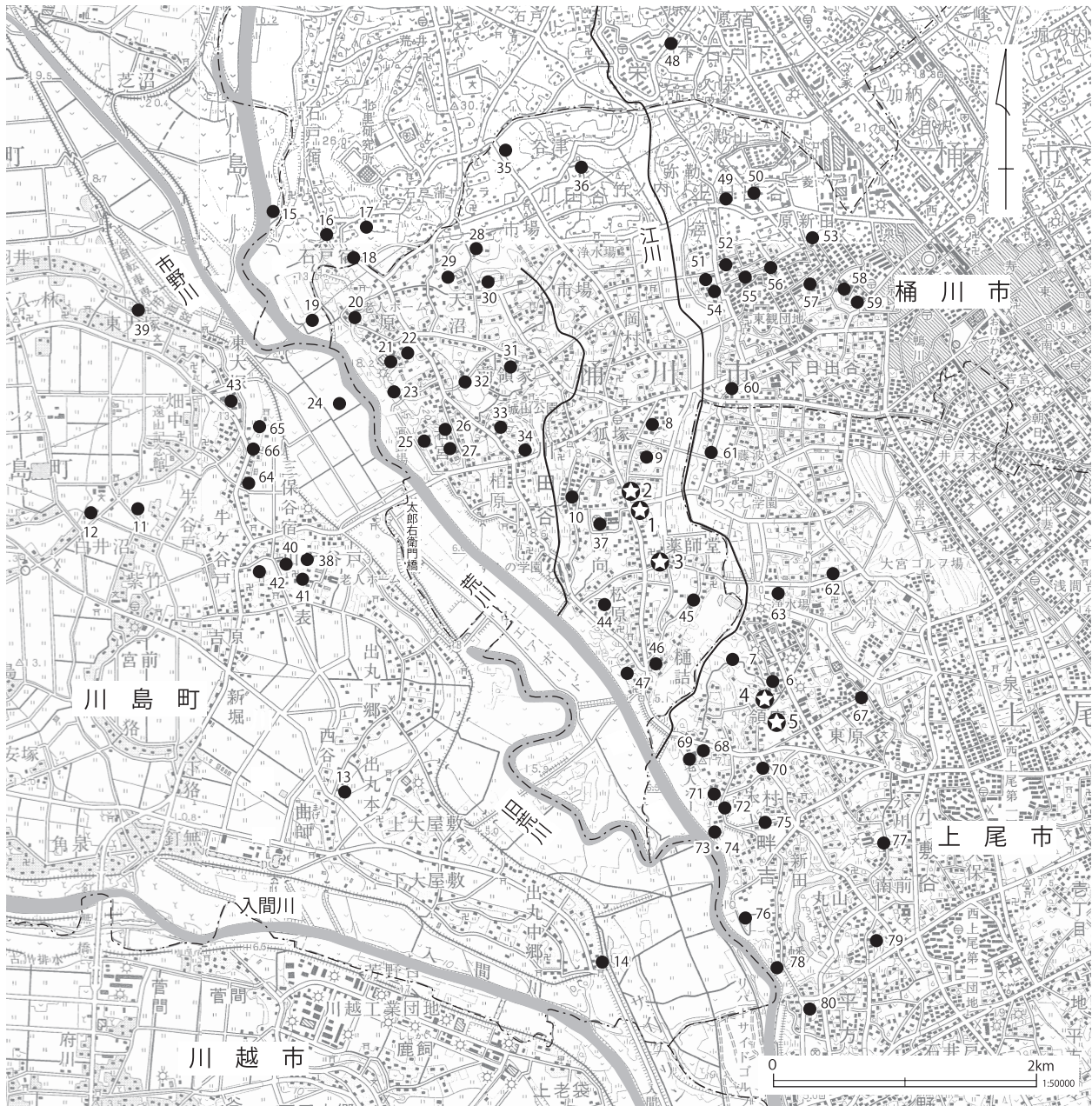
弥生時代の遺跡は後期以降に出現するが、調査例が少ない。桶川市砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡（8）や吉ヶ谷式系の土器が出土した八幡耕地遺跡（44）から住居跡が確認された。砂ヶ谷戸Ⅱ遺跡（9）では住居跡と方形周溝墓が検出されたが、方形周溝墓は後出する可能性がある。

楽上遺跡（1）・楽上Ⅱ遺跡（2）は、砂ヶ谷戸Ⅱ遺跡の南西に位置する。昭和50年の調査地点では多数の住居跡が発掘された。今回の調査地点は集落の周縁部に当たり、集落の中心が江川の谷寄りにあったと考えられる。

古墳時代

前期の遺跡は荒川・江川・元荒川に面した台地縁辺部に点在し、遺跡数が飛躍的に増加する。西台遺跡や上尾市領家・宮下遺跡（69）では住居跡と方形周溝墓、桶川市三ツ木遺跡（33）では東海西部系の土器を伴う集落跡が調査された。また4世紀半ばには、碧玉製石製品等の豊富な副葬品が重要文化財に指定されている桶川市熊野神社古墳（46）が築造される。荒川低地の自然堤防上には、川島町元宿遺跡（64）・尾崎遺跡（43）・西谷遺跡（13）・富田後遺跡（11）等がみられ、集落が低地部にも広がっている。

中期の遺跡は桶川市愛宕遺跡・高井遺跡・川田谷狐塚遺跡等が確認されているが、減少傾向を示



- | | | | | |
|-----------|-----------|------------|------------|------------|
| 1 楽上遺跡 | 17 元屋敷遺跡 | 33 三ツ木遺跡 | 49 愛宕西遺跡 | 65 富士浅間塚遺跡 |
| 2 楽上Ⅱ遺跡 | 18 庚塚遺跡 | 34 三ツ木城跡 | 50 愛宕東遺跡 | 66 愛宕塚遺跡 |
| 3 薬師堂遺跡 | 19 東台Ⅰ遺跡 | 35 谷津貝塚 | 51 前宮遺跡 | 67 堀口遺跡 |
| 4 石神遺跡 | 20 台原遺跡 | 36 諏訪野遺跡 | 52 愛宕耕地遺跡 | 68 宮内Ⅱ遺跡 |
| 5 石神Ⅲ遺跡 | 21 西台遺跡 | 37 小在家遺跡 | 53 高井東遺跡 | 69 領家・宮下遺跡 |
| 6 山下遺跡 | 22 前原遺跡 | 38 廣徳寺遺跡 | 54 氷川神社裏古墳 | 70 雲雀Ⅰ遺跡 |
| 7 中井遺跡 | 23 川田谷古墳群 | 39 大塚遺跡 | 55 愛宕遺跡 | 71 宮内Ⅳ遺跡 |
| 8 砂ヶ谷戸Ⅰ遺跡 | 24 東野遺跡 | 40 廣徳寺古墳 | 56 高井北遺跡 | 72 雲雀遺跡 |
| 9 砂ヶ谷戸Ⅱ遺跡 | 25 若宮台遺跡 | 41 慶徳寺古墳 | 57 高井遺跡 | 73 殿山遺跡 |
| 10 狐塚遺跡 | 26 パチ山遺跡 | 42 養竹院古墳 | 58 高井泥炭層遺跡 | 74 殿山古墳 |
| 11 富田後遺跡 | 27 ひさご塚古墳 | 43 尾崎遺跡 | 59 高井南遺跡 | 75 小林遺跡 |
| 12 白井沼遺跡 | 28 諏訪南遺跡 | 44 八幡耕地遺跡 | 60 滝の宮坂遺跡 | 76 畔吉遺跡 |
| 13 西谷遺跡 | 29 大沼遺跡 | 45 楽中遺跡 | 61 後山遺跡 | 77 西通Ⅱ遺跡 |
| 14 百山古墳 | 30 大平遺跡 | 46 熊野神社古墳 | 62 小谷津Ⅰ遺跡 | 78 畔吉貝塚 |
| 15 芝沼堤外遺跡 | 31 前領家遺跡 | 47 宮遺跡 | 63 袋Ⅰ遺跡 | 79 在家遺跡 |
| 16 下宿遺跡 | 32 永久保Ⅰ遺跡 | 48 デーノタメ遺跡 | 64 元宿遺跡 | 80 箕輪Ⅲ遺跡 |

第2図 周辺の遺跡

す。

後期になると八幡耕地遺跡・北本市庚塚遺跡（18）などの遺跡が出現する。荒川沿いの台地縁辺部には後期古墳が数多く分布し、桶川市川田谷古墳群（23）が造営される。楽中遺跡では、古墳群を構成する樋詰6号墳が発掘された。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は少なく、集落規模も小さい。

江川流域では、右岸の薬師堂遺跡（3）で、住居跡1軒、左岸の中井遺跡では奈良時代の住居跡5軒が発掘された。また同時期の石神遺跡（4）と石神Ⅲ遺跡（5）も含めて住居跡が調査区内に点在する様相が見られ、小規模集落が断続的に営まれていたと考えられる。

江川と荒川の合流地点を臨む台地上の領家・宮下遺跡では、6世紀末から10世紀初頭の住居跡が多数検出されている。長期間に渡って集落が営まれた、この地域の拠点的な集落と推定される。円面硯の出土から、周辺に官人等の存在をうかがわせる。

大宮台地北東部の、元荒川水系の赤堀川右岸に

は宮ノ脇遺跡が存在する。8～9世紀の20軒以上の住居跡と、8世紀半ばの製鉄炉が調査された。元荒川を下った伊奈町大山遺跡とその周辺は、数多くの製鉄炉が発掘され、平安時代の県内最大級の製鉄遺跡群で、宮ノ脇遺跡との関連が注目される。

中・近世

薬師堂遺跡の所在する川田谷周辺は、中世の河田郷に比定されている。15世紀半ばまでは、円覚寺塔頭黄梅院領であったとみられている。諏訪北Ⅱ遺跡では、15世紀前半の大規模な薬研堀が検出されている。周辺に城館跡が多く分布し、城山の三ツ木城跡（34）には、土塁・堀の痕跡が残る。このほか、大平遺跡・薬師堂遺跡では、中世の地下式坑が検出されている。

天正18年（1590）に徳川家康が関東に入国すると、石戸領5000石は牧野康成に与えられた。牧野氏の陣屋は大平遺跡付近に置かれたとされている。大平遺跡からは陣屋の一部と寺院跡が発掘され、寺院跡は牧野氏所縁の「見樹院」とみられる。陣屋に付属する寺院として、稀有な調査例である。

Ⅲ 遺跡の概要

荒川支流の江川を挟み、北側に桶川市楽上遺跡・楽上Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡、南側に上尾市石神遺跡・石神Ⅲ遺跡が位置する。

楽上遺跡・楽上Ⅱ遺跡は、大宮台地上の平坦面に立地する。遺跡の東側には江川の浸食谷が南北方向に入り込み、遺跡の東半が斜面地となっている。

今回調査した楽上遺跡は、昭和50・58年に桶川市教育委員会によって発掘された弥生時代末から古墳時代前期の集落跡の西側にあたる。調査の結果、古墳時代前期の住居跡5軒が検出され、以前の調査で発見された集落と同一と考えられる。調査区の西半から住居跡が見つかっていないため、楽上遺跡集落の縁辺と推測される。住居跡の中には焼失住居が2軒含まれ、屋根材と推定される多量の炭化材が見つかった。また炉の周囲を土器で囲った炉が検出された。

調査区の中央付近から、方形の掘り込みの四隅と中央に炉床を設けた、縄文時代早期の炉穴が検出された。また、グリッドからも同時期の遺物が検出され、周辺に同時期の遺構の存在が推定される。

楽上Ⅱ遺跡では、古墳時代前期の住居跡2軒が検出された。楽上遺跡と同一集落と考えられる。このうち1軒は焼失住居で、床面付近からは屋根材と推定される炭化材が出土した。また、土器囲い炉が検出されている。調査区の北側や西側には住居跡が広がらず、楽上遺跡と同一集落の縁辺部と推定される。

調査区の中央付近には、火葬遺構4基が集中する。建物遺構が無く、この地は葬送の場が設けられた村境と推測される。

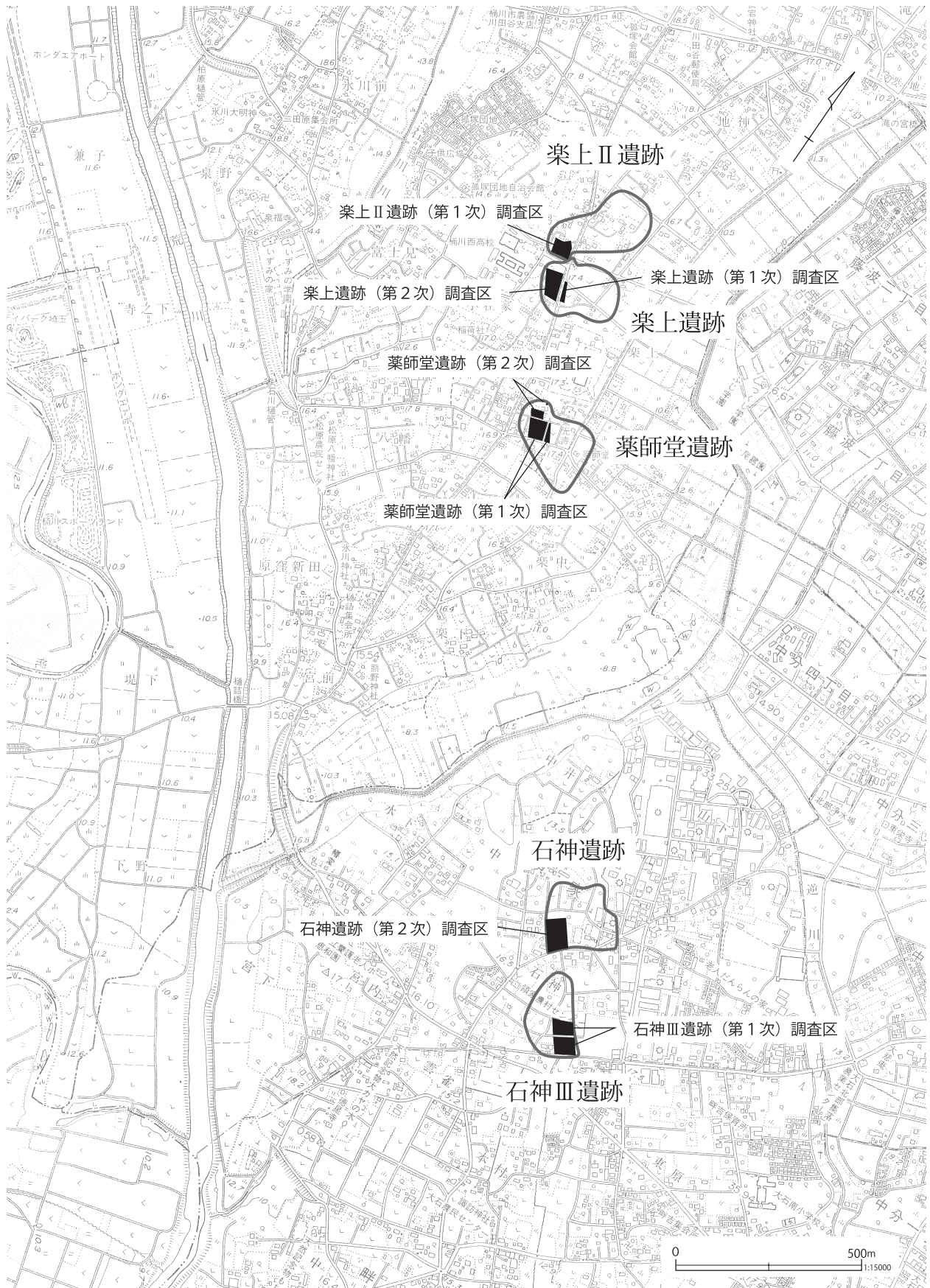
薬師堂遺跡は、楽上遺跡から南へ約400mに位置する。遺跡の北西部には『新編武蔵風土記稿』に記された「東光寺」が所在する。江戸時代には、

その西側に「西光寺」が存在したと伝わるが、明治時代に廃寺となった。今回の調査では、15世紀に遡る大溝が検出された。調査区の中央付近で直角に屈曲し、区画溝と考えられる。溝跡から板碑等が多く出土し、寺院との関連が予想される。また、一度掘り直された痕跡があり、長期間、機能していたことがわかる。区画溝の東側には長方形の土壌が並び、墓の可能性がある。

石神遺跡では、8世紀後半から末の住居跡が6軒検出され、小規模な住居跡が多い。「物」・「口部坏」と書かれた墨書土器は「物部坏」と解釈できる。これにはコップ形須恵器が共伴する。またカマドが北壁に2基・東壁に1基の計3基設けられた住居跡から、多くの土師器坏が出土した。また調査区の北側では中・近世の土壌が集中し、農耕との関連が推測される。調査区の中央西寄りでは火葬遺構が2基検出され、時期は不明だが葬送の場が設けられた期間があったと推測される。

石神Ⅲ遺跡は石神遺跡の南方約250mに位置する。8世紀前半から中頃の住居跡が5軒検出され、カマドが北壁もしくは東壁に設けられる。この内1軒はカマドの残存状況が良好で、天井の構築材に転用された3個体の甕と、支脚が設置された状態のまま出土した。また一辺7mの大型住居跡からは、鉄製品が豊富に出土している。さらに調査区の全域で中・近世の長い溝跡が検出された。中央部を南北に走る溝跡を基準として、数条の溝跡が東西に一定間隔で延び、区画を形成するような分布となる。配置などから区画溝と考えられるが、用途は不明である。

石神遺跡・石神Ⅲ遺跡では短期間で成立・廃絶した奈良・平安時代の集落跡の存在が確認された。石神遺跡・石神Ⅲ遺跡の奈良時代の集落は、成立後、短い期間で廃絶され、集落動向などの関連が注目される。



第3図 遺跡位置図

IV 楽上遺跡の調査

1. 調査の概要

楽上遺跡は、桶川市西部の荒川を西に臨む大宮台地上に位置する。東側に江川によって浸食された小支谷が発達し、樹枝状に形成された台地に立地する。標高は15～16mである。北側には古墳時代前期の住居跡が発見された楽上Ⅱ遺跡が隣接する。

楽上遺跡の調査では、縄文時代の炉穴1基、古墳時代の住居跡5軒、中・近世の井戸跡1基、溝跡18条、畝跡群4箇所、土壌14基が検出された（第5図）。

縄文時代早期の炉穴は、調査区の中央付近から検出された。平面形態が方形の掘り方の四隅と中央に、炉床が設けられる。また古墳時代の住居跡の覆土には縄文時代後期の土器が混入していることから、周囲に同時期の遺構が存在していた可能性がある。

古墳時代前期の住居跡は、調査区の東側から発見された。調査区の東側は桶川市教育委員会によって調査が実施され、弥生時代末から古墳時代前期の住居跡16軒が発掘されている。住居跡群の西側は溝によって画されていた。今回検出された住居跡は、この集落の西側の縁辺に位置する。

検出された住居跡は、全て方形の平面形態である。第2号住居跡には炉の周囲を土器で囲った炉が設けられていた。また住居跡の中には焼失住居が含まれる。第3号住居跡からは大量の炭化材が出土し、屋根材と考えられるものが多い。一般に知られている焼失住居と異なり、出土遺物が少ないことから、住居の廃絶時に火が放たれたと考えられる。

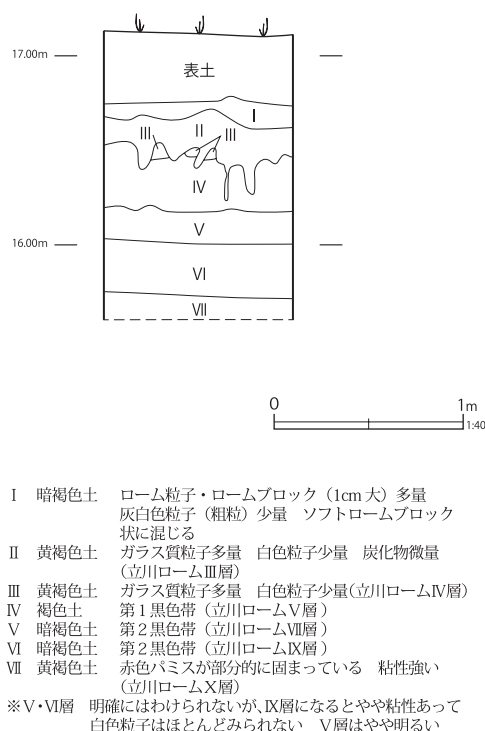
第4号住居跡は壁に沿って細い炭化材が検出され、第3号住居跡と様相が異なる。

中・近世の遺構は、調査区の東側に畝跡群が集中し、中央から西側には溝跡や土壌が分布する。

調査区中央に等間隔で並走する第9・14～16号溝跡は、同じ用途が考えられる。近接する畝跡群と方向を同じくし、耕作に関連する溝である可能性が高い。第1次調査区北端で検出された第1号溝跡は薬研掘りで深く、屈曲することから区画溝である可能性が考えられる。

土壌の用途は不明である。調査区の西側に集中する方形の土壌には、同じ機能が想定される。

基本土層を第4図に示した。表土層には近世以降の耕作客土の「ヤドロ」が厚く堆積する。その下には中・近世の耕作土である暗褐色土が薄く堆積し、すぐにローム層となる。遺構はローム層の面から検出された。第Ⅰ層が近世の耕作土、第Ⅱ第Ⅲ層がソフトローム、第Ⅳ層が第1黒色帯、第Ⅴ～Ⅵ層が第2黒色帯、第Ⅶ層がハードロームで、武蔵野台地標準層位（Ⅲ～Ⅹ層）に概ね相当する。



第4図 基本層序



第5図 全体図

2. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、第2次調査区から早期の炉穴1基が検出された。グリッドから同時期の土器が検出され、第1号炉穴の他にも遺構が存在したと考えられる。この他に、古墳時代前期の第2号住居跡の覆土中から縄文時代後期前葉の土器が多く出土した。遺跡の南東側に同時期の遺跡の存在が想定される。

(1) 炉穴

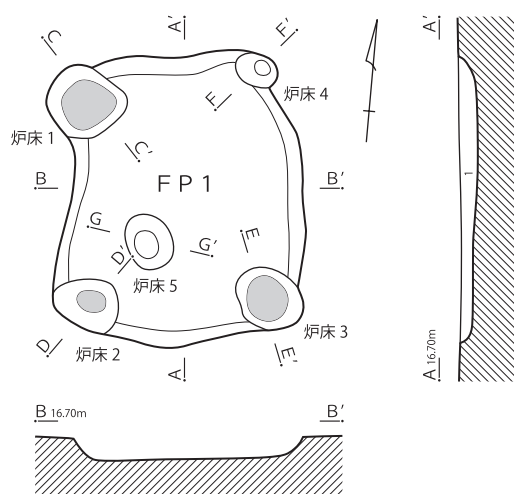
第1号炉穴 (第6図)

第2次調査区の中央やや南寄り、H-6グリッドに位置する。長軸2.30m、短軸1.93mの方形を呈する。炉穴の四隅と中央南西寄りの5箇所に炉床が存在する。いずれも楕円形を呈している。

炉床1～3は炉床面が被熱により赤く変色していた。いずれも鍋底形の掘り込みを持ち、長径0.53～0.56m、短径0.40～0.53m、深さ0.15～0.30mを測る。炉床2・3では焼土層が厚く堆積する。

炉床4は壁で部分的に被熱が確認され、炉床5は痕跡のみ検出された。長径0.33～0.43m、短径0.26～0.35m、深さ0.05mを測る。

炉床4は浅く掘り窪めた底面から壁際が垂直に立ち上がり、炉床5は皿状に掘り窪められる。



第1号炉穴出土遺物 (第7図1～7)

1～6は胎土に繊維を少量含み、条痕状整形や擦痕状整形が施される条痕文系土器群である。1は2本対の細隆起線で区画文を施されるもので、内面に条痕が施文されている。2～4は器面に擦痕状整形が施される無文の破片である。5は炉床3から出土した胴部破片で、外面に条痕整形、内面に擦痕状整形が施される。6は尖底の底部破片で、底部付近に削り状の強い整形が行われ、鋭角な尖底を呈する。

7は石錘である。下半部を欠損する。大きさは、長さ8.7cm、幅5.8cm、重さ101.2gである。

(2) グリッド出土遺物

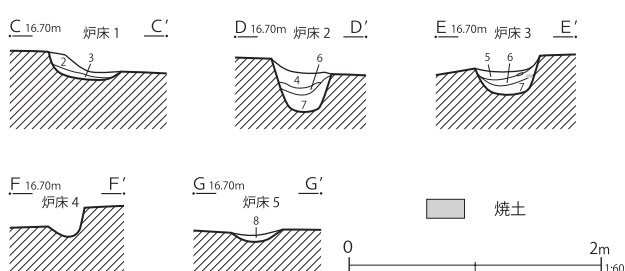
グリッドから、縄文時代早期から後期にかけての土器片・土製品・石器が検出された。

第1群土器

早期の条痕文系土器群を一括する。

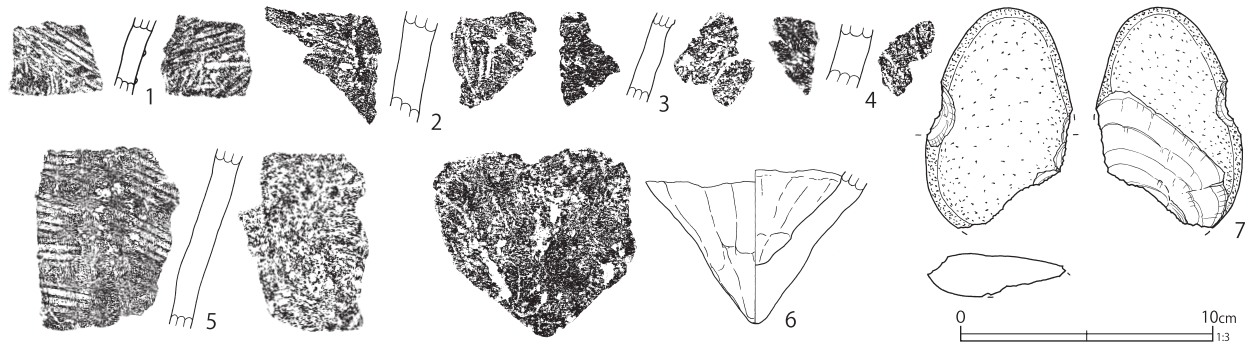
第1類 (第8図1～13・47)

野島式土器の有文土器を一括する。2・3～5・12・13は2本対の細隆起線で区画、区画内に集合沈線が充填施文されるものである。2は口唇部直下から区画文が施され、3は口縁部に幅狭の無文部が設けられる。2は内削状の口縁部に押圧状



- 第1号炉穴
1 褐色土 焼土粒子少量 炭化物微量 壁際に焼土ブロック ソフトローム主体
- 炉床1～3・5
2 褐色土 焼土粒子少量 焼土ブロック微量 ソフトローム多量 炭化物微量
3 褐色土 焼土粒子多量 焼土ブロック・炭化物少量
4 褐色土 焼土粒子・焼土ブロック少量 炭化物微量 ※炉床1・3より色調暗い
5 褐色土 焼土粒子多量 焼土ブロック少量 炭化物微量
6 褐色土 焼土粒子多量 炭化物微量
7 赤褐色土 焼土層 焼土と焼土ブロックで構成
8 褐色土 焼土ブロック (1cm大) が微量混じる

第6図 第1号炉穴



第7図 第1号炉穴出土遺物

の刻み、3は細かな刻みが施される。いずれも内面に条痕整形が行われる。13は隆帯状の太浮線で文様帯下端部を区画され、集合細沈線が充填施文される。

1・6～9・11は、沈線のみで文様を描く土器群である。6・11は太沈線区画内に集合細沈線が充填施文される。7は集合細沈線の重層鋸歯状文を、8・9は太沈線で文様が描かれている。1は胎土・整形が13と類似し同一個体の可能性がある。

10は沈線の文様交点に円形刺突文があり、47は集合結節沈線が充填施文される鵜ガ島台式土器と思われる。

第2類 (第8図 14～35)

条痕整形や擦痕整形が施される無文土器を一括する。14～16は角頭状口縁部が開く器形を呈し、内外面に条痕整形が行われる。口唇部上には貝殻腹縁文が刻みとして施される。17・18は丸頭状の口唇部が開く器形で、外面に擦痕整形、内面に条痕整形が行われる。

19～35は胴部破片で、19～23は内外面に条痕整形が施され、24～27・30は外面に条痕整形、内面に擦痕整形が行われる。28は外面に擦痕、内面に条痕整形を施される。29・31～35は内外面とも擦痕整形か浅い条痕整形が行われる。

第Ⅱ群土器

前期末葉の土器群を一括する。

第1類 (第8図 36～53)

前期終末の十三菩提式土器を一括する。36～

45は結節浮線文土器で、36・37は細い浮線文、38～45は隆帯状の浮線文である。

46・48・49は細かな刺突文が施される土器群である。46は扇平式の頸部文様帯の破片と思われる、48・49は半肉彫りの平行沈線間に刺突文が施されるものである。

50・51は結節沈線文土器で、半肉彫り状の沈線上で集合細沈線が切られている。50は三角印刻、51は三日月状の印刻がモチーフに沿って施される。

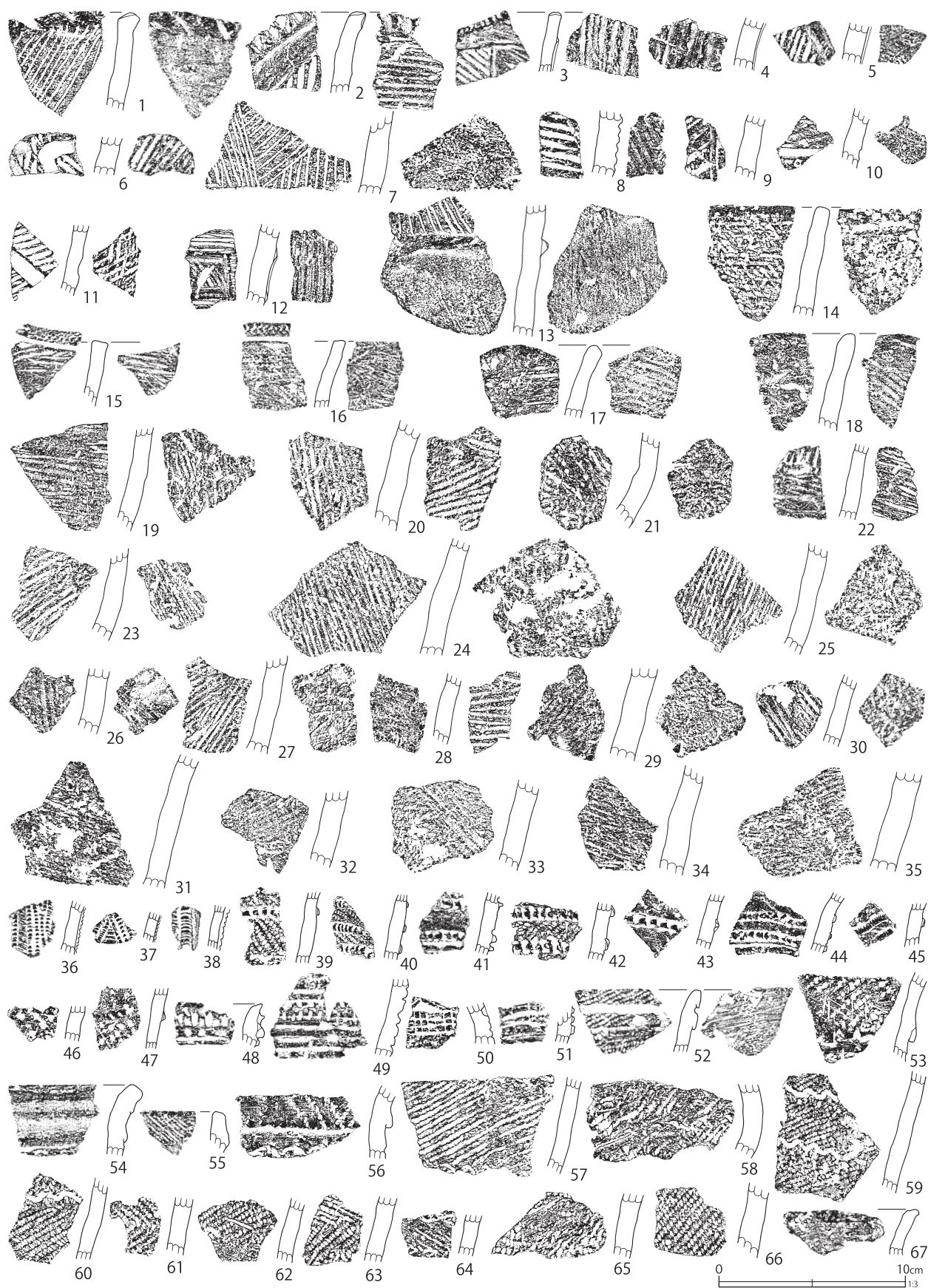
52は口縁部に2本の隆帯が廻り、縄文が施文される。53は口縁部付近の破片で、襷状の接合部に小さなW状の印刻が施される。

第2類 (第8図 54～67)

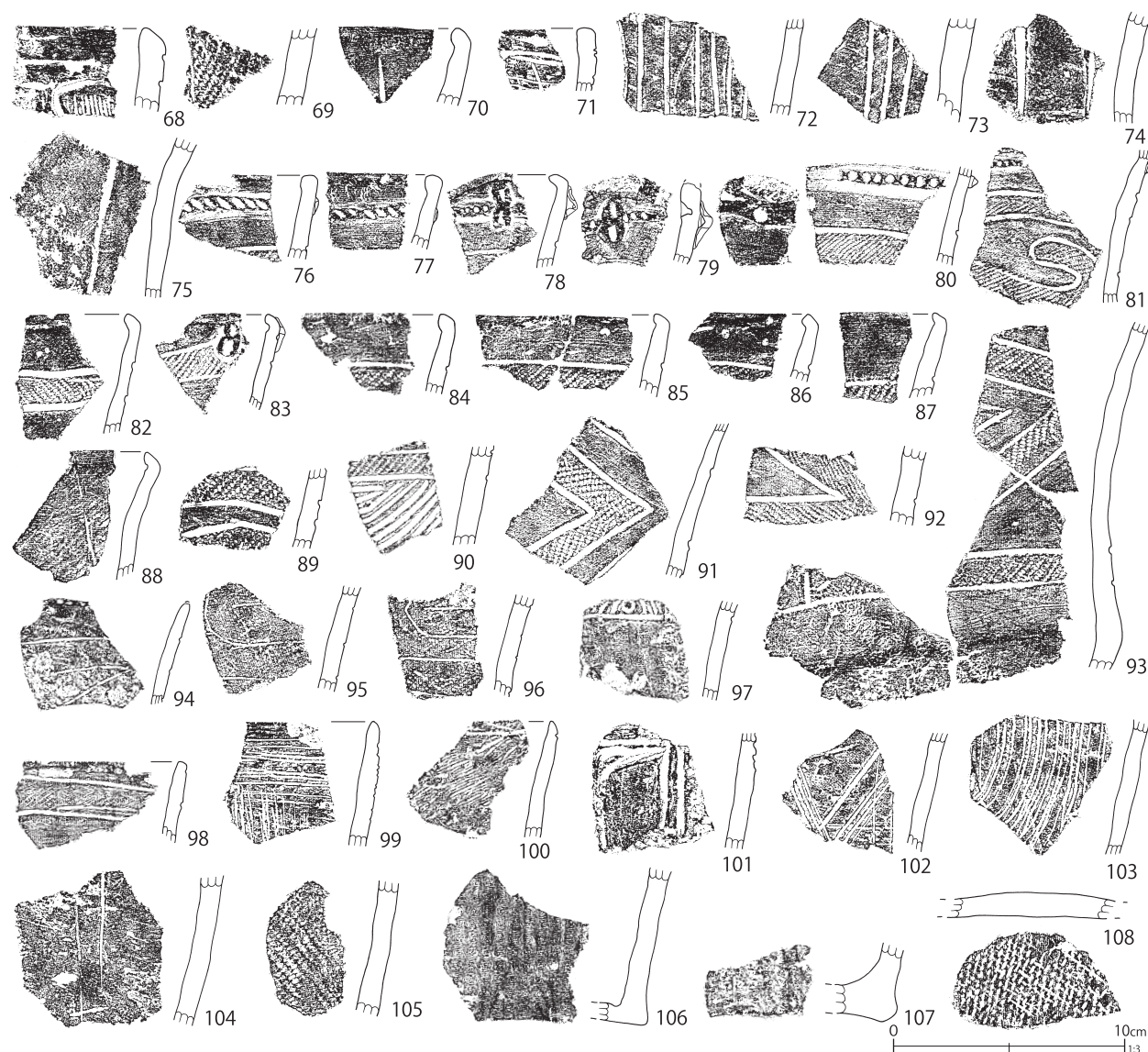
前期終末の縄文施文土器を一括する。54は角頭状で襷状の無文口縁部が外反する土器で、胴部に縄文が施文されるものと思われる。55は短い口縁部が屈曲する。56は口縁部の段帯部に原体の側面圧痕で鋸歯状文が施され、胴部に結節縄文の末端を回転施文される。57・59・60も結節の回転文が施される。58は無節縄文L、61～65は羽状縄文、66は斜縄文が施文される。67は無文土器である。

第Ⅲ群土器 (第9図 68)

中期後葉の土器群を一括する。68の1点で、連弧文土器の影響を受けた加曽利E式の口縁部破片である。口唇下を2本の沈線で区画され、楕円形の区画文が施される。地文には条線文が施文される。加曽利EⅢ式と思われる。



第8図 グリッド出土遺物（1）



第9図 グリッド出土遺物（2）

第Ⅳ群土器（第9図 69～108）

後期前葉の堀之内Ⅱ式土器群を一括する。69は胴部破片で、LRの横位施文の地文縄文の上に、細い沈線が垂下される。

70～75・99～104は沈線文のみが施文される土器群である。70～75・101はやや太い短沈線が施され、99・100・102～104は条線状の細沈線が使用される。

76～98は磨消縄文で渦巻文や菱形文を構成するものである。76～81は口縁部に刻み隆帯と「8」字状貼付文を持つ。83は貼付文のみ見られる。

105は縄文を施す胴部破片である。106～108

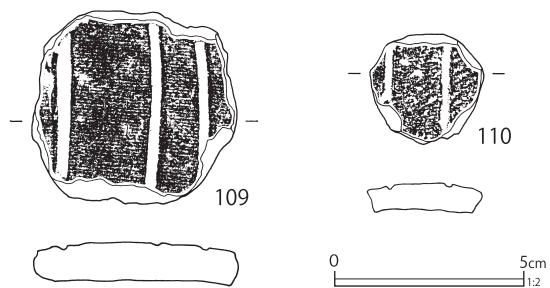
は底部破片で、108の底部には網代痕が残る。

土製品（第10図 109・110）

109・110は土製円盤である。堀之内Ⅱ式土器の胴部破片が再利用された土器片円盤である。割れ口は研磨されてはいないが、打ち割られて整形されている。

石器（第11図 111～128）

111～115は石鏃である。111・115は上半部を欠損する。基部は平基無茎である。112は調整加工が両側縁から丁寧に施されている。横断面はレンズ状を呈する。113・114は片側を欠損する。112～114の基部は凹基無茎である。



第10図 グリッド出土遺物（3）

116・117 は石錐である。

118 は異形石器である。表面の風化が進んでおり、細部の調整加工は不明な部分がある。

119・120 は搔・削器である。不定形剥片の一

部に刃部加工が部分的に施される。

121 は剥片の端部を作業面とした小口型の石核である。

122 は定角型の磨製石斧である。刃部の一部に敲打面を残す。刃部の再生を意図したものと思われる。

123 は打製石斧である。裏面に原石面を大きく残す。横断面は厚手で、調整加工は両側縁から急傾斜な角度で施される。

124 は敲石である。

125～128 は磨石である。



第11図 グリッド出土遺物（4）

第2表 グリッド出土石器観察表（第11図）

番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
111	石鏃	黒曜石	[1.7]	1.6	0.3	0.8	SJ3 3区	7-1
112	石鏃	チャート	2.5	1.8	0.4	0.9	SJ4 2区	7-1
113	石鏃	黒曜石	2.1	[1.3]	0.4	0.8	表採	7-1
114	石鏃	黒曜石	[1.9]	2.5	1.5	29.0	SJ3 3区	7-1
115	石鏃	黒曜石	[1.3]	2.1	0.3	0.8	E-3 衝撃剥離あり	7-1
116	石錐	黒曜石	2.1	1.7	0.7	1.8	SJ4 1区	7-1
117	石錐	黒曜石	2.7	1.1	0.8	2.0	SJ3 1区	7-1
118	異形石器	ホルンフェルス	2.5	3.2	0.5	1.6	SJ4 1区 風化が進んでおり細部不明	7-1
119	スクレイパー	黒曜石	1.7	1.5	0.4	0.9	SJ1 1区	7-1
120	スクレイパー	黒曜石	1.5	1.0	0.4	0.5	SJ1 ①	7-1
121	石核	黒曜石	2.2	1.0	2.0	4.4	SK14	7-1
122	磨製石斧	砂岩	12.6	5.3	3.0	320.1	SJ1 2区 完形	7-2
123	打製石斧	ホルンフェルス	8.2	5.2	3.0	125.4	H-4	7-2
124	敲石	砂岩	[7.1]	4.5	[3.0]	113.7	SJ2 ④ 棒状 部分的敲打痕明瞭 部分的擦痕明瞭 平面棒状 断面三角形 上端部使用痕敲打後摩耗 欠損あり（一部残存）	7-2
125	磨石	砂岩	4.5	3.6	2.8	67.4	SJ5 1区	7-2
126	磨石	砂岩	[8.1]	[5.6]	1.9	114.3	D-7	7-2
127	磨石	砂岩	7.5	5.3	1.9	108.6	表採 完形	7-2
128	磨石	安山岩	[7.4]	[4.6]	4.2	123.8	H-6 断面楕円形 欠損あり（一部残存）	7-2

3. 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は住居跡5軒で、このうち第3・4号住居跡は焼失住居である。調査区東側に近接することなく点在する。調査区西側に分布の広がり認められないことから、集落の縁辺部と推定される。

今回の調査区の東側を桶川市教育委員会が発掘し、同時期の住居跡が16軒検出された。住居群の西側が溝によって区画され、この集落は西側へ広がらないと考えられていた。しかし、今回の調査では西側から同時期の住居跡が発見されたことにより、集落の西側の境界が明らかとなった。

（1）住居跡

第1号住居跡（第12図）

第1次調査区の北側、B-7・8グリッドに位置し、東側と西側が調査区域外に延びる。重複する第1号溝跡よりも古い。

平面形態は方形である。炉が住居の中央から西寄りに位置し、東西方向に主軸が想定される。

規模は、主軸長3.75m、南北長は3.45m、確認

面からの深さは0.19～0.28m、主軸方位はN-81°-Wを指す。土層は壁際から徐々に埋没した状況が観察された。

炉は地床炉である。炉床面は被熱により赤く焼けている。平面形態は不整円形で長径1.03m、短径0.86mを測る。焼土を多く含む。

壁溝は東南端と南辺西半部が途切れる。幅0.08～0.20m、深さ0.02～0.06mを測る。

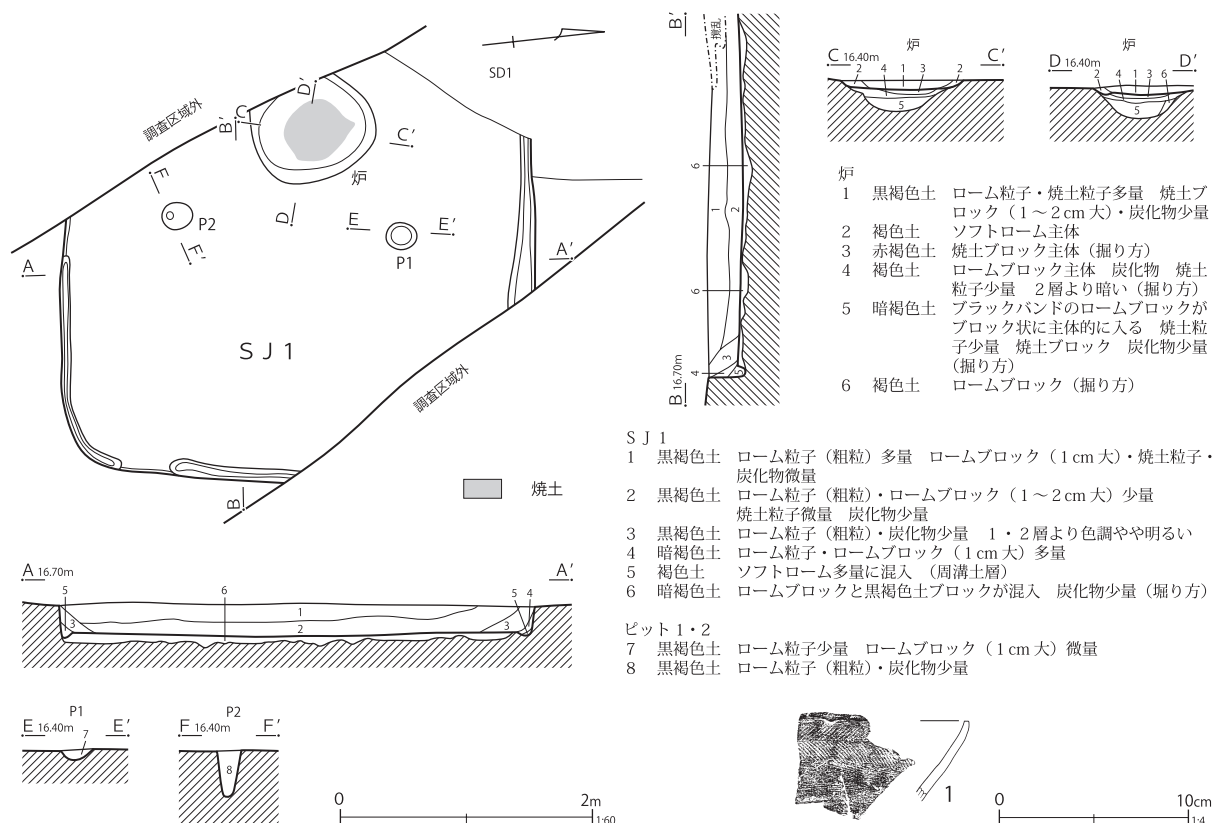
ピットは南北壁中央付近に2基が検出されている。長径0.26m、短径0.22m、深さはピット1が0.08m、ピット2が0.34mを測る。小規模であるが、柱穴の可能性もある。

出土遺物は、古墳時代前期の高坏や埴・台付甕・壺などの細片が出土しているが、少ない。図化できたものは1点のみである（第12図）。

1は高坏の口縁部片である。内面は横方向のミガキが施され光沢をもつ。外面は細かな羽状縄文が施文される。

第2号住居跡（第13図）

第1次調査区の南端、I-10・11、J-11グリッ



第12図 第1号住居跡・出土遺物

第3表 第1号住居跡出土遺物觀察表 (第12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	—	[4.2]	—	I K	10	普通	橙	内面ミガキ 内面赤彩 羽状縄文	

ドに位置する。平面形態は東西に長い方形である。

住居中央から北西寄りに炉があり、対面する東壁際のピット5が入口ピットと考えられる。主軸は東西方向に想定される。規模は主軸長 4.90m、南北長 4.12m、確認面からの深さ 0.21 ~ 0.35m で、主軸方位は N - 67° - W を指す。覆土の断面観察から、壁際から徐々に埋没した状況が認められた。

炉は東壁際に壺胴部の大型破片2片が重ね合わせるように埋められ、住居入口側が囲われていることから風避けとして用いられた可能性がある。規模は長径0.55m、短径0.38mの楕円形である。

壁溝は検出されなかった。

貯蔵穴は東壁際に設置され、平面形態は方形で長辺 0.82m、短辺 0.74m、深さ 0.36m を測る。

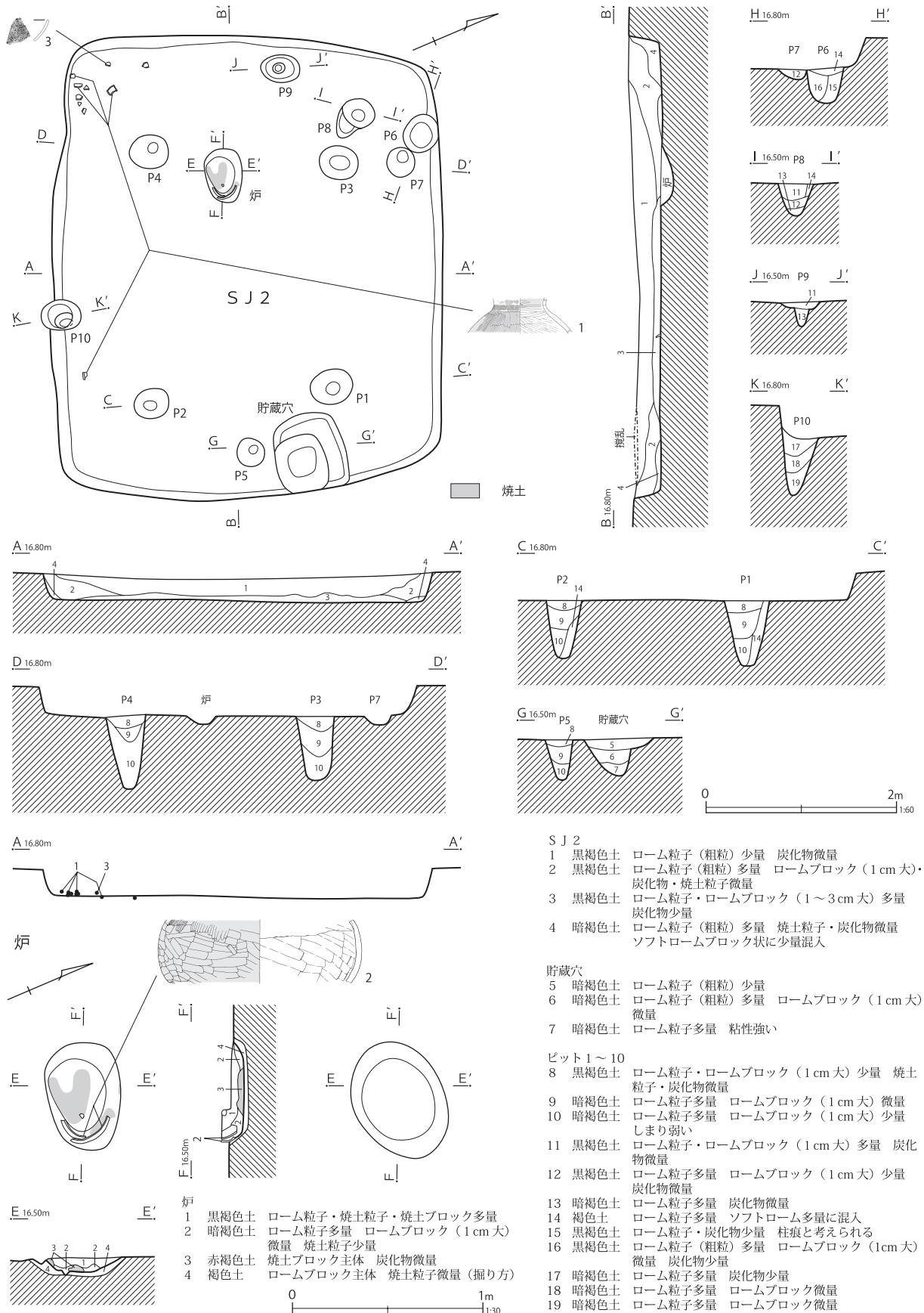
ピットは10基検出した。このうちピット1～4が主柱穴と考えられる。長径0.35～0.41m、短径0.28m～0.35m、深さ0.60～0.77mを測る。

炉が住居の中央西寄りにあり、貯蔵穴が対面する東壁際に付設されることから、東側に出入口が推定される。東壁中央寄りに位置するピット5が出入口施設に伴うと考えられる。ピット5の規模は長径0.30m、短径0.28m、深さ0.41mを測る。

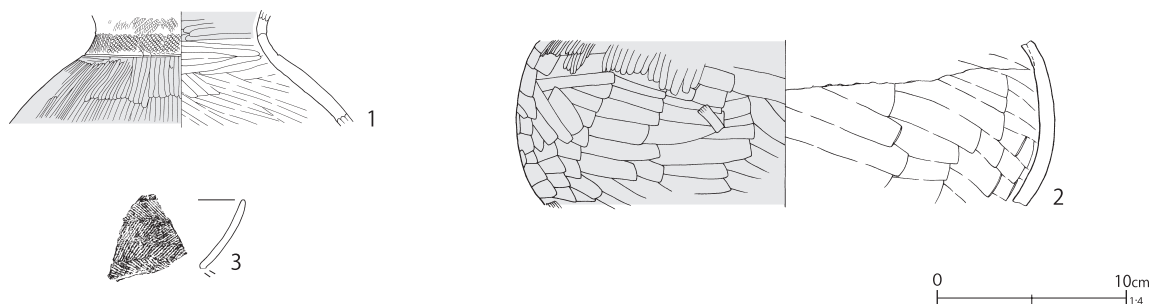
遺物は古墳時代前期の壺・埴の破片が少量出土している（第14図）。

1は壺の頸部である。外面は、頸部上段 LR（一部 RL）、下段 RL の縄文が羽状に施文される。沈線を挟んで、胴部には縦方向のミガキが施される。内面は頸部がミガキ、胴部がヘラナデで調整される。

楽上遺跡



第13図 第2号住居跡



第 14 図 第 2 号住居跡出土遺物

第 4 表 第 2 号住居跡出土遺物観察表 (第 14 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	—	[6.1]	—	A E H I J K	45	普通	にぶい赤褐	No. 5 ~ 7・10 内外面赤彩	8-1
2	土師器	壺	—	[8.2]	—	E H I K	10	普通	黄褐	No. 3 外面赤彩	8-2
3	土師器	埴	—	[3.6]	—	I K	10	普通	明赤褐	No. 8 内面ミガキ 外面赤彩	

2は壺の胴部である。炉の壁際に同一個体の破片が2点埋設されていた。外面はヘラケズリ後、一部縦方向のミガキが施され、煤の付着が認められる。内面はヘラナデが施されるが、接合痕が明瞭に残る。

3は埴である。口縁部から頸部にかけて僅かに内湾し、外面には細かな羽状縄文が2条施文される。内面は横方向のミガキが施され、口唇部には縄文が施文される。

遺物の時期は、4世紀前半と考えられる。

第3号住居跡 (第15・16図)

F-9グリッドに位置する。平面形態は方形である。床面直上の第6層には炭化物が多量に含まれ、部分的にブロック状の焼土が堆積していた。また住居の中央から放射状に広がるように炭化材が検出され (第16図)、垂木材と推測される。このことから第6層は火災による屋根の崩落層と考えられる。炉が住居の東寄りに位置し、主軸を東西方向に向ける。

規模は主軸長 3.24m、南北長 2.92m、確認面からの深さ 0.21 ~ 0.30m で、主軸方位は N - 35° - E を指す。

屋根の崩落後は、壁際から徐々に堆積した状況が観察された。

炉は地床炉である。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径 0.42m、短径 0.33m を測る。炉床面の被熱は弱い、覆土には焼土粒子や焼土ブロックが含まれていた。

壁溝はほぼ全周し、幅 0.16 ~ 0.34m、深さ 0.02 ~ 0.07m を測る。東側は幅が広く西側は狭い。

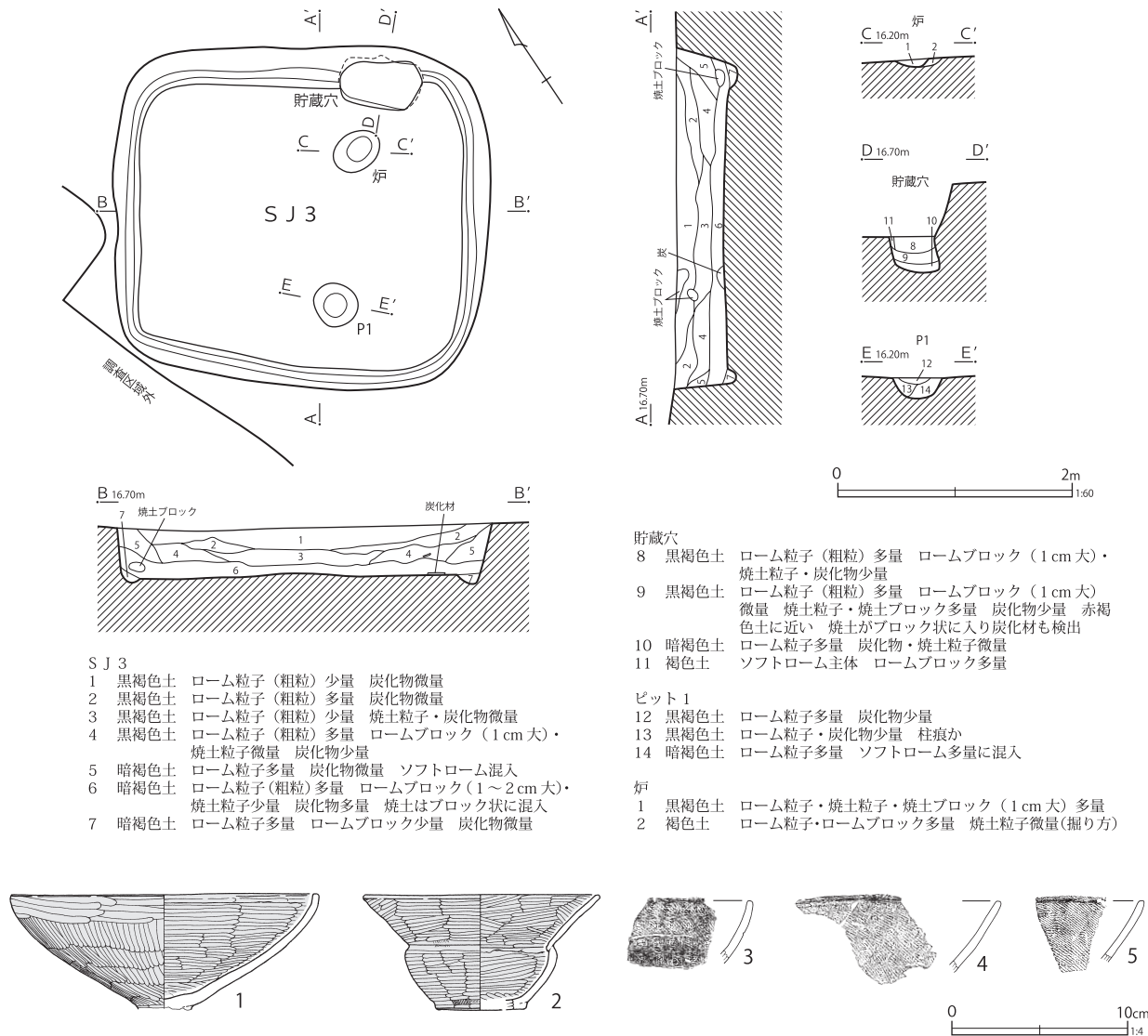
ピットは1基のみ検出され、長径 0.37m、短径 0.35m、深さ 0.18m を測る。浅いため、柱穴と想定することは難しい。

貯蔵穴は炉の北側の北壁際から検出された。長辺 0.69m、短辺 0.42m、深さ 0.30m を測る。覆土中には火災に伴う炭化材や大型の焼土ブロックが含まれていた。

炭化材と床面の間に出土遺物がないことから、失火ではなく、住居の解体に伴う焼却行為と考えられる。

掘り方は住居の中央を残し、周囲を溝状に 0.10 ~ 0.20m 程掘り込む。掘り方からはピットが2基検出された。直径 0.25m、深さ 0.10 ~ 0.30m を測る。

遺物の出土量は少ない。古墳時代前期の高坏や鉢・台付甕・壺の細片等が出土した。図化できたものは5点であった (第15図)。このうち1と2は、第6層の炭化材の直上から出土した。残存



第 15 図 第 3 号住居跡（1）・出土遺物

率が高く、住居の焼却後に投棄されたものと考えられる。

1 は高坏の坏部である。坏部は内湾し、坏部と柱状部は柄接合されている。

2 は埴である。平底・鉢形の体部に、大きく開く口縁部が付く。胎土には混和剤が多く使用され、非常に脆い。

3 ～ 5 は高坏の坏部である。いずれも外面に縄文が施文される。3 は内湾気味、4 と 5 は直線的に開く。

出土遺物の年代は、内湾する高坏の形状などから 4 世紀前半と推定される。

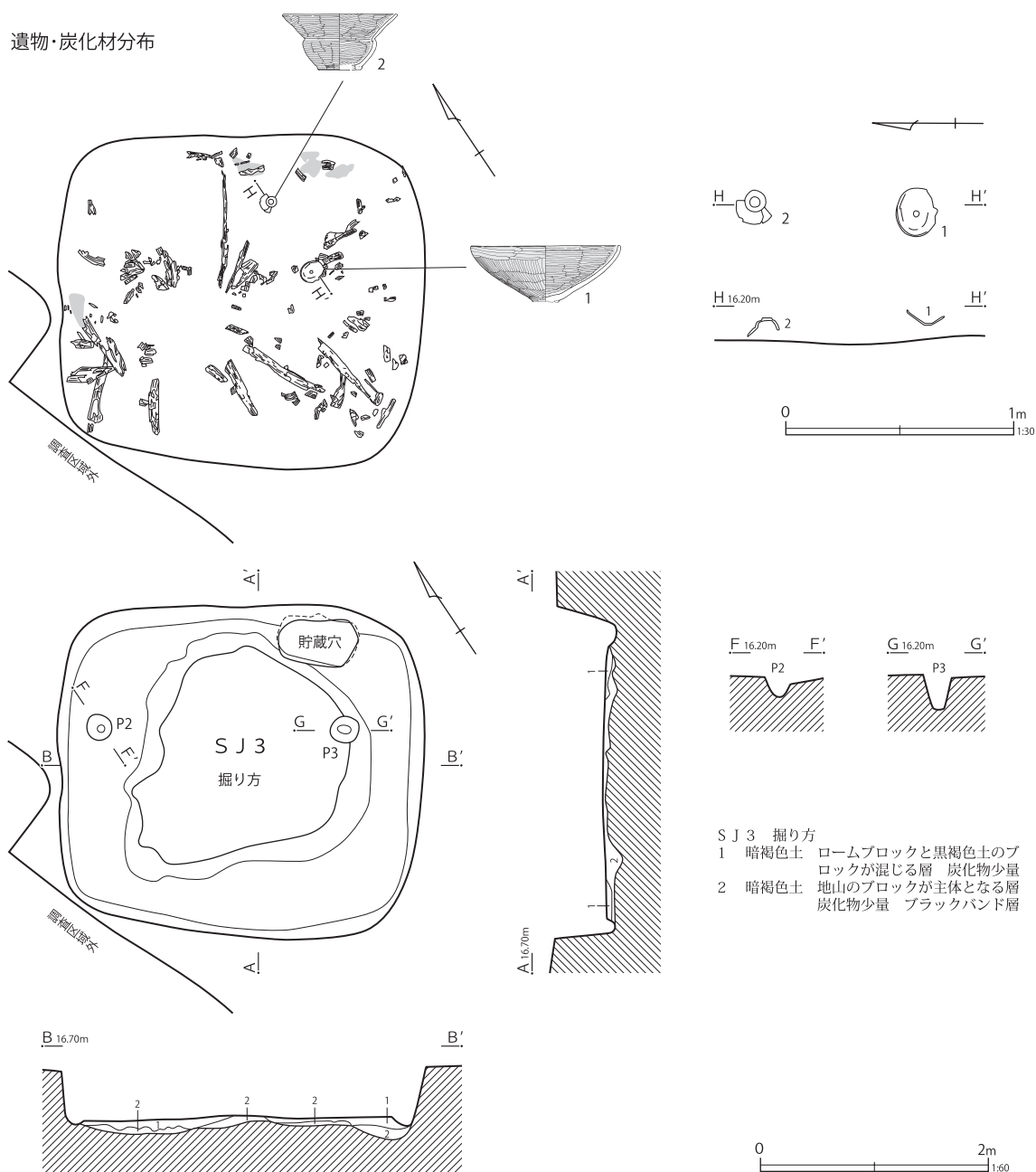
第 4 号住居跡（第 17 図）

第 1 次調査区の中央部、E－9 グリッドに位置し、東側半分は調査区域外に延びる。炉が北西寄りに位置し、北西－南東方向の主軸を想定される。

規模は、主軸長 5.59m、深さ 0.42 ～ 0.52m を測り、主軸方位は N－48°－W を指す。平面形態は方形である。壁際から細い炭化材が多く出土し、壁材の一部の可能性ある。土層は、壁際から埋没した状況を示す。

炉は地床炉である。炉の覆土は焼土ブロックを多く含み、炉床面は赤く焼けていた。

規模は長径 0.55m、短径 0.45m、深さ 0.15m を



第16図 第3号住居跡(2)

第5表 第3号住居跡出土遺物觀察表 (第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	高坏	17.4	[6.5]	—	A C H I K	90	普通	赤褐	No.1 内外面ミガキ 赤彩	8-3
2	土師器	埴	(13.2)	6.5	(5.2)	A I J K	50	普通	暗赤	No.2 内外面ミガキ 赤彩 底部ミガキ	8-4
3	土師器	高坏	—	[4.0]	—	A H I	10	普通	明黄褐		
4	土師器	高坏	—	[4.0]	—	I K	5	普通	黄褐	内面ミガキ 赤彩	
5	土師器	高坏	—	[3.4]	—	D J H I K	10	普通	にぶい黄橙	内面ミガキ 赤彩 円形朱文	

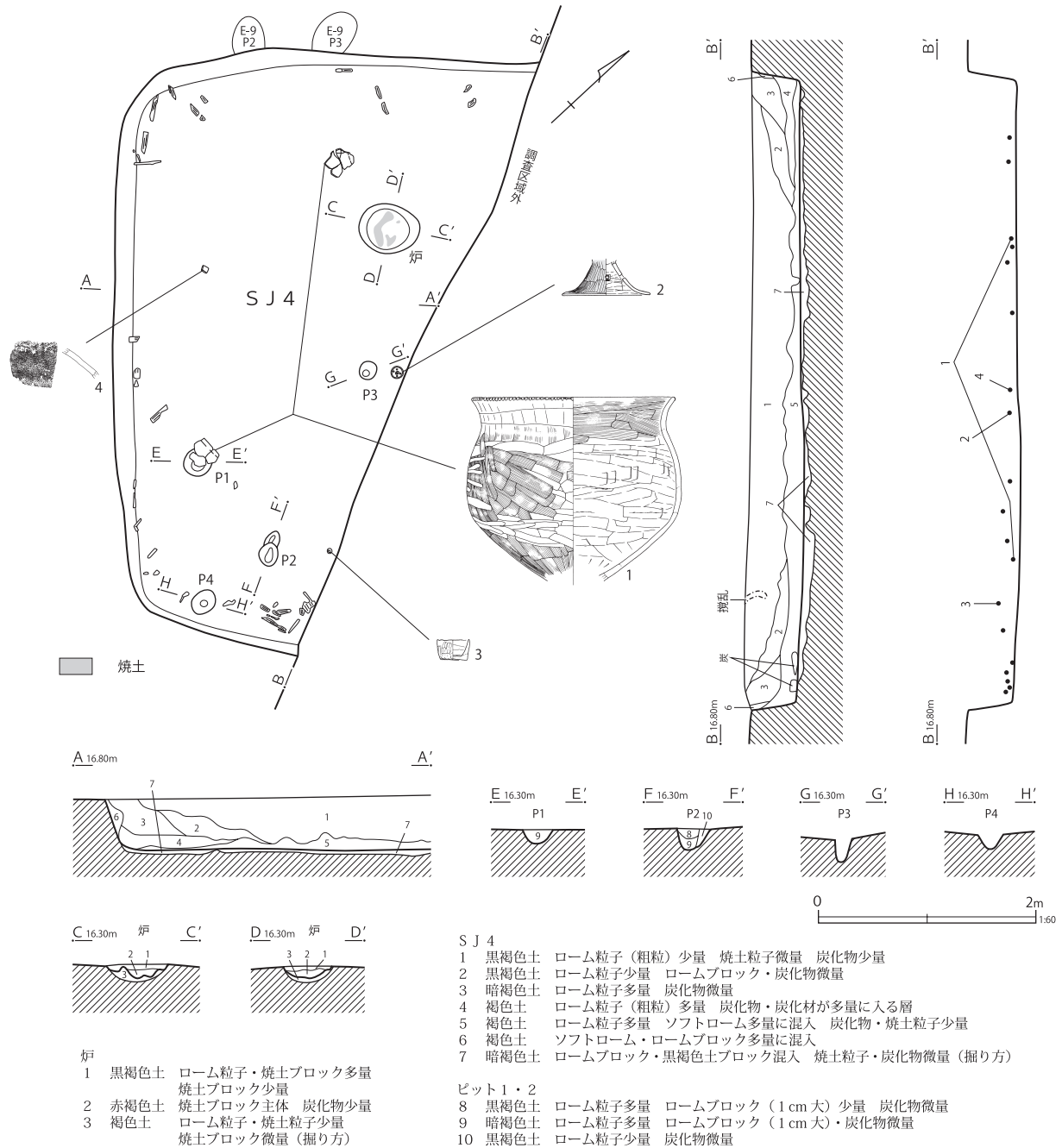
測り、平面形態は楕円形を呈する。

ピットは4基検出されたが、南隅に集中する。
規模も長径0.16～0.33m、短径0.16～0.25m

と統一感が無く、柱穴とは考え難い。

壁溝・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は、主に床面付近から出土した（第18図）。



第17図 第4号住居跡

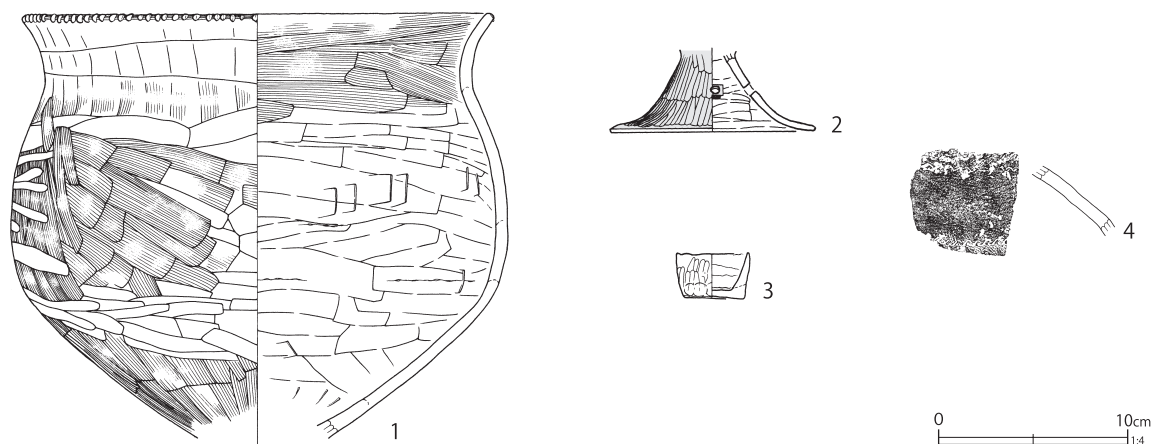
1は台付甕である。外面の頸部から底部、内面の口縁部から頸部にハケが施される。胴部の接合部は、強くヘラケズリされる。口縁部は外反し、頸部の屈曲は弱い。口縁端部には面をもち、ヘラ状工具による刻み目が施される。

2は高杯の脚部である。四方に円孔が穿たれ、外面は縦方向のミガキが施されて光沢をもつ。歪

みが強く、底部と坏部接合部の中心が大きくずれている。

3はミニチュア土器である。平底で内面には積み上げ痕が明瞭に残る。外面は下半が指オサエ、上半にはミガキが施される。

4は壺の肩部である。「S」字状結節文が2条離れて廻り、間はヘラミガキ後に赤彩が施される。



第 18 図 第 4 号住居跡出土遺物

第 6 表 第 4 号住居跡出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	台付甕	(24.6)	[22.3]	—	C D I K	50	普通	明黄褐	No. 1・6	8-5
2	土師器	高坏	—	[4.1]	10.6	A E H I K	50	普通	にぶい褐	No. 5 外面赤彩 内面部分的に赤彩 外から内に穿孔	8-6
3	土師器	ミニチュア	3.8	2.5	3.2	IK	95	普通	明黄褐	No. 2	8-7
4	土師器	壺	—	[3.7]	—	A D E H I K	5	普通	にぶい黄褐	No. 4 外面赤彩	

他の土器より黒みが強く、胎土に白色粒子を多く含む。

出土遺物の時期は、台付甕の頸部の形状などから 4 世紀前半と推定される。

第 5 号住居跡（第 19 図）

第 2 次調査区の東端中央部、G－7・8 グリッドに位置する。炉が住居の中央北寄りに位置することから、北－南方向に主軸を向ける。

規模は、主軸長 3.64m、東西長 3.53m、深さ 0.56～0.63m で、主軸方位は N－26°－W を指す。

平面形態は方形であり、炉の周辺で硬化した貼床が検出された。土層は壁際から徐々に埋没していることから、自然堆積と考えられる。

炉は地床炉である。炉床面は被熱により赤く焼けていた。規模は長径 0.57m、短径 0.33m、深さ 0.10m を測る。

ピットは 5 基検出された。規模は長径 0.16～0.36m、短径 0.15～0.43m、深さは 0.15～0.30m を測る。ピット 2 とピット 4・5 は対向する東西壁中央の壁際に位置し、形態・規模も類似することから対向する柱穴の可能性がある。ピッ

ト 3 は炉の対向に位置することから、出入口施設に伴うピットの可能性がある。

貯蔵穴は炉の対面にあたる南東隅に設置される。

平面形態は楕円形で掘り込みは浅い。規模は長径 0.52m、短径 0.37m、深さ 0.12m を測る。

出土遺物は非常に少なく、ほとんどが細片であった（第 19 図）。

1・2 は壺の肩部片である。1 は外面に羽状縄文が間を空けて 2 条廻り、2 は上部に横方向の縄文が施文される。どちらも文様帯を除いた部分はヘラミガキが施され、赤彩されている。1 の内面はヘラナデで調整される。2 の内面調整は摩耗により不明である。

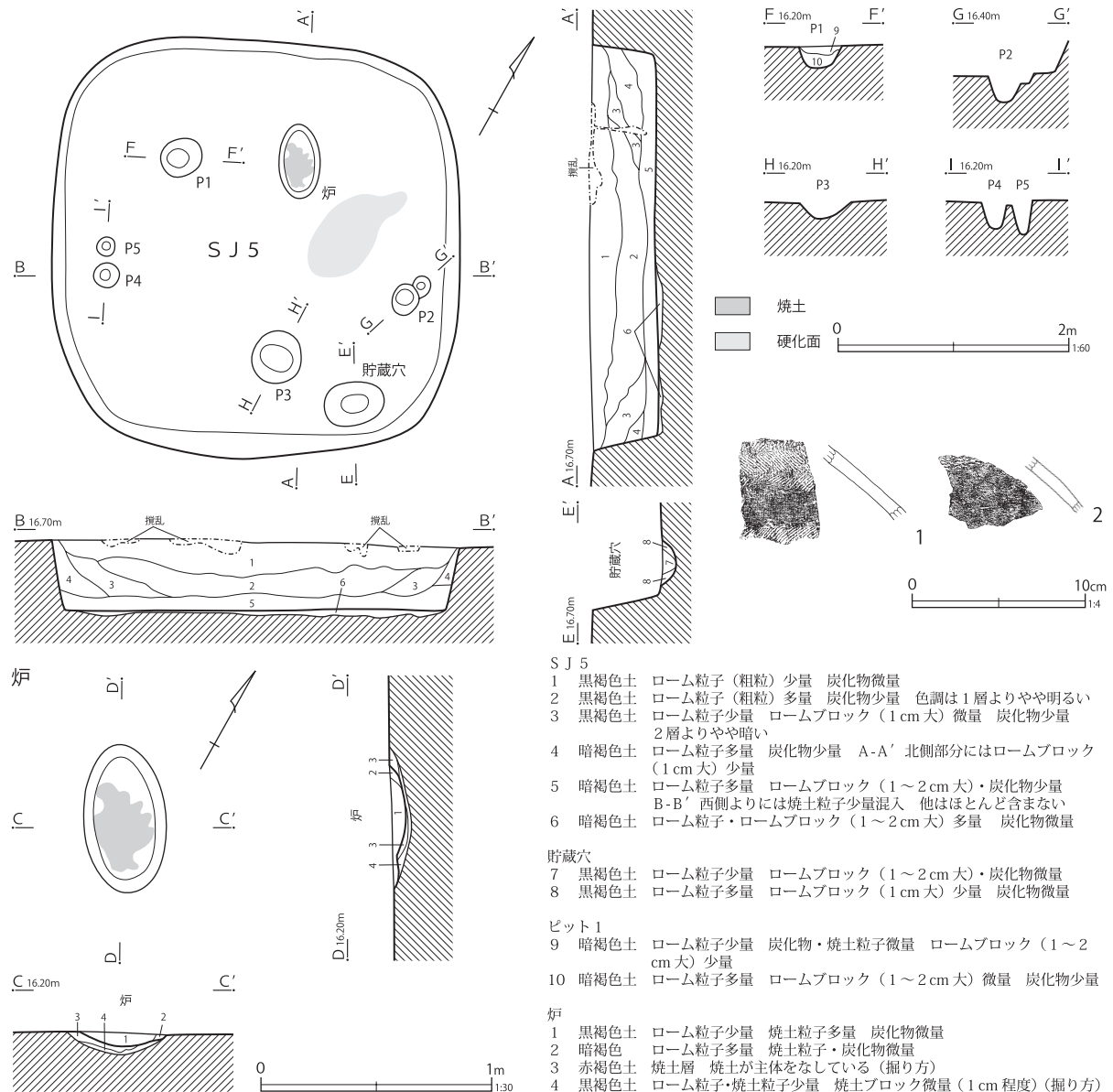
遺物は非常に少ないが、周辺の住居跡の状況なども加味すると、古墳時代前期と考えられる。

（2）グリッド出土遺物

遺構外からの遺物は第 20 図に図示した。第 5 号住居跡付近から出土している。

1 は二重口縁の壺である。口縁部から頸部にかけて残存する。口縁部の屈曲部に粘土紐を貼付し、

楽上遺跡

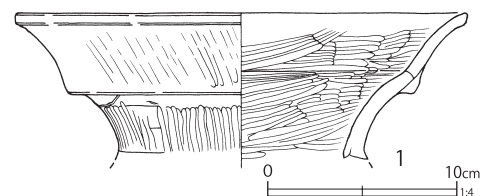


第19図 第5号住居跡・出土遺物

第7表 第5号住居跡出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	—	[4.3]	—	H I K	5	普通	明褐	No.19 内面ナデ 一部煤付着 外面ミガキ 赤彩	
2	土師器	壺	—	[2.4]	—	A H I K	5	普通	にぶい黄橙	No.22 外面ミガキ 赤彩	

段が形成されている。外面は摩耗が激しく、調整は判然としないが、縦方向のミガキが僅かに残る。内面は横方向のミガキが施されるが、器面がざらついており光沢は無い。



第20図 グリッド出土遺物

第8表 グリッド出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	(23.8)	[7.7]	—	A E H I K	35	普通	にぶい黄橙		8-8

4. 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、井戸跡・溝跡・畝跡群・土壇がある。調査区西側に溝跡と土壇・井戸跡、調査区東側に畝跡群が配されている。中でも井戸跡は調査区西際に位置し、上端径2mを超える大型のものであった。

(1) 井戸跡

第1号井戸跡 (第21図)

調査区の西端中央部分、G-3グリッドに位置する。平面形態は不整円形、断面形態は漏斗状を呈す。上端は長径2.25m、短径2.15m、中端は長径1.65m、短径1.56mを測る。底面は調査の安全確保のため、検出できなかった。

出土遺物はいずれも細片で、図示できなかった。かわらけの小破片が出土し、中世後半から近世のものと考えられる。

(2) 溝跡

第1号溝跡 (第22図)

第1次調査区の北端、A・B-7グリッドに位置し、東側と西側は調査区域外に延びる。重複す

る第1号住居跡よりも新しい。

薬研堀である。南西から調査区域内に入り、北に向きを変えて延伸し、屈曲部が検出された。性格は不明だが、掘り込みが深く、屈曲することから何等かの区画溝である可能性が考えられる。

出土遺物は小破片のため、図示し得ないが、17世紀後半から18世紀前半の丹波系播鉢が1点出土している。

第2・3号溝跡 (第22図)

第1次調査区の北側C-7・8グリッドに位置する。東西方向の溝跡で、東側と西側は調査区域外に延びる。第2・3号溝跡は一部重複しながら並走し、第2号溝跡が古い。

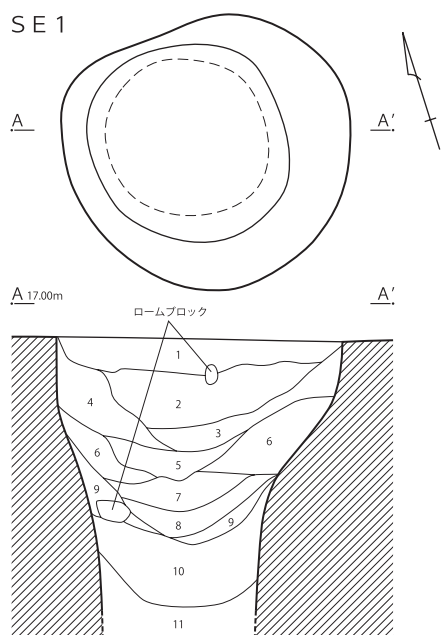
出土遺物は無い。覆土に近世以降の土地改良に伴うヤドロを含む。

第4号溝跡 (第23図)

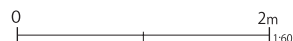
G-4グリッドに位置する。第12号溝跡から西に延びる東西方向の溝跡である。断面形態は鍋底形で長さは1m程と短い。遺物は出土しなかった。

第12号溝跡 (第23図)

第2次調査区の南側、G-4・H-4グリッド



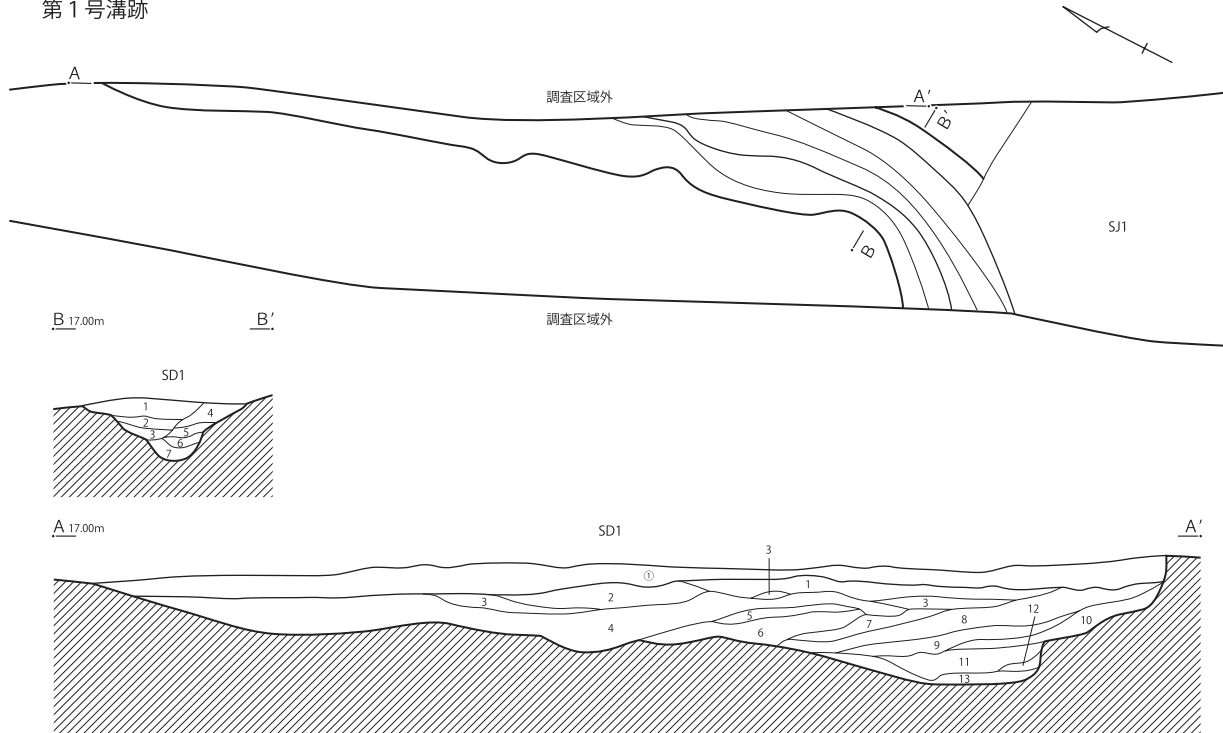
- SE 1
- | | |
|---------|---|
| 1 黒褐色土 | ローム粒子(粗粒)多量 焼土粒子・炭化物・灰褐色ブロック微量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子(粗粒)少量 ロームブロック微量 暗褐色土ブロック状に少量 灰褐色土ブロック多量(1層より暗い) |
| 3 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子少量 ロームブロック微量 炭化物少量 暗褐色土しま状に少量 |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子(粗粒)多量 ロームブロック・炭化物少量 |
| 6 黒褐色土 | ローム粒子多量 ソフトロームしま状に黒色土と相互に多量に入る |
| 7 黒褐色土 | ローム粒子多量 ロームブロック微量 ソフトローム混入(やや明るい) |
| 8 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物少量(7層より暗い) |
| 9 褐色土 | ソフトローム主体 黒色土が細かいしま状に少量 |
| 10 褐色土 | ソフトロームと暗褐色土が互層に入る層で短期間に埋まったもの |
| 11 暗褐色土 | ローム粒子(粗粒)多量 ロームブロック少量 |



第21図 第1号井戸跡

楽上遺跡

第1号溝跡



A-A'

- ① 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1cm 大) 多量 灰白色粒子 (粗粒) 少量 ソフトロームブロック状に混じる

S D 1

- 1 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒)・ロームブロック (1~2cm) 多量 炭化物少量
- 2 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~5cm 大) 密に多量
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (1cm 大) 微量
- 4 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~10cm 大) 密に多量
- 5 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1~2cm 大) 少量
- 6 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒)・ロームブロック (1~10cm 大) 多量
- 7 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (1cm 大) 少量に帯状に入る
- 8 褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~10cm 大) 密に多量
- 9 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 ロームブロック (1cm 大)・炭化物微量
- 10 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 炭化物少量
- 11 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1cm 大) 微量 上層にざらざらした砂状のバミス

- 12 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1~5cm 大) 少量

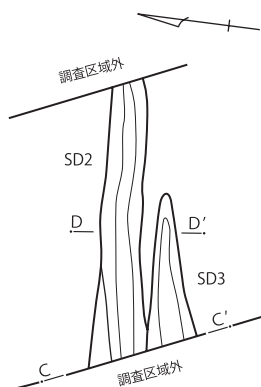
- 13 黒褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量

※ 2~8層は短時間に一挙に埋め戻されたと考えられる

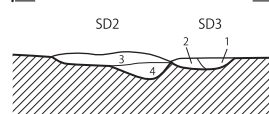
S D 1 B-B'

- 1 褐色土 ロームブロック密に多量 黒褐色土がブロック状に混じる 埋め戻された土層
- 2 黒褐色土 ローム粒子微量
- 3 褐色土 ロームブロック密に多量 黒色帯のロームブロックで埋め 戻されている
- 4 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1cm 大) 少量 炭化物微量
- 5 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量
- 6 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒)・ロームブロック (1cm 大) 多量
- 7 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量

第2・3号溝跡

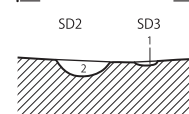


C 17.00m



C'

D 17.00m



D'

S D 2・3 C-C'

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量・灰色粒子微量 (S D 3)
- 2 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量 (S D 3)
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1~3cm 大) 多量 (S D 2)
- 4 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量 (S D 2)

S D 2・3 D-D'

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量・灰色粒子微量 (S D 3)
- 2 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量 (S D 2)

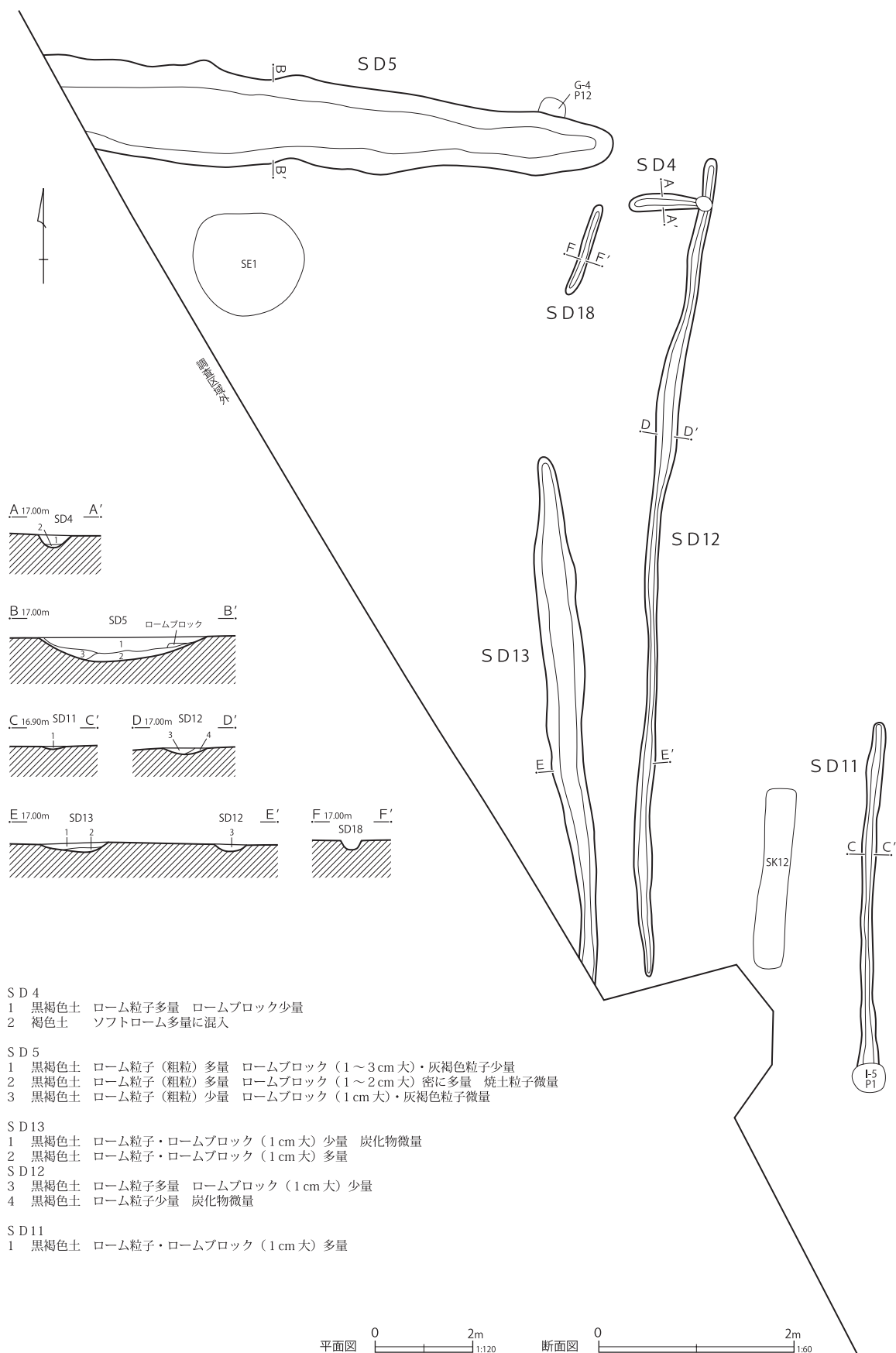
平面図

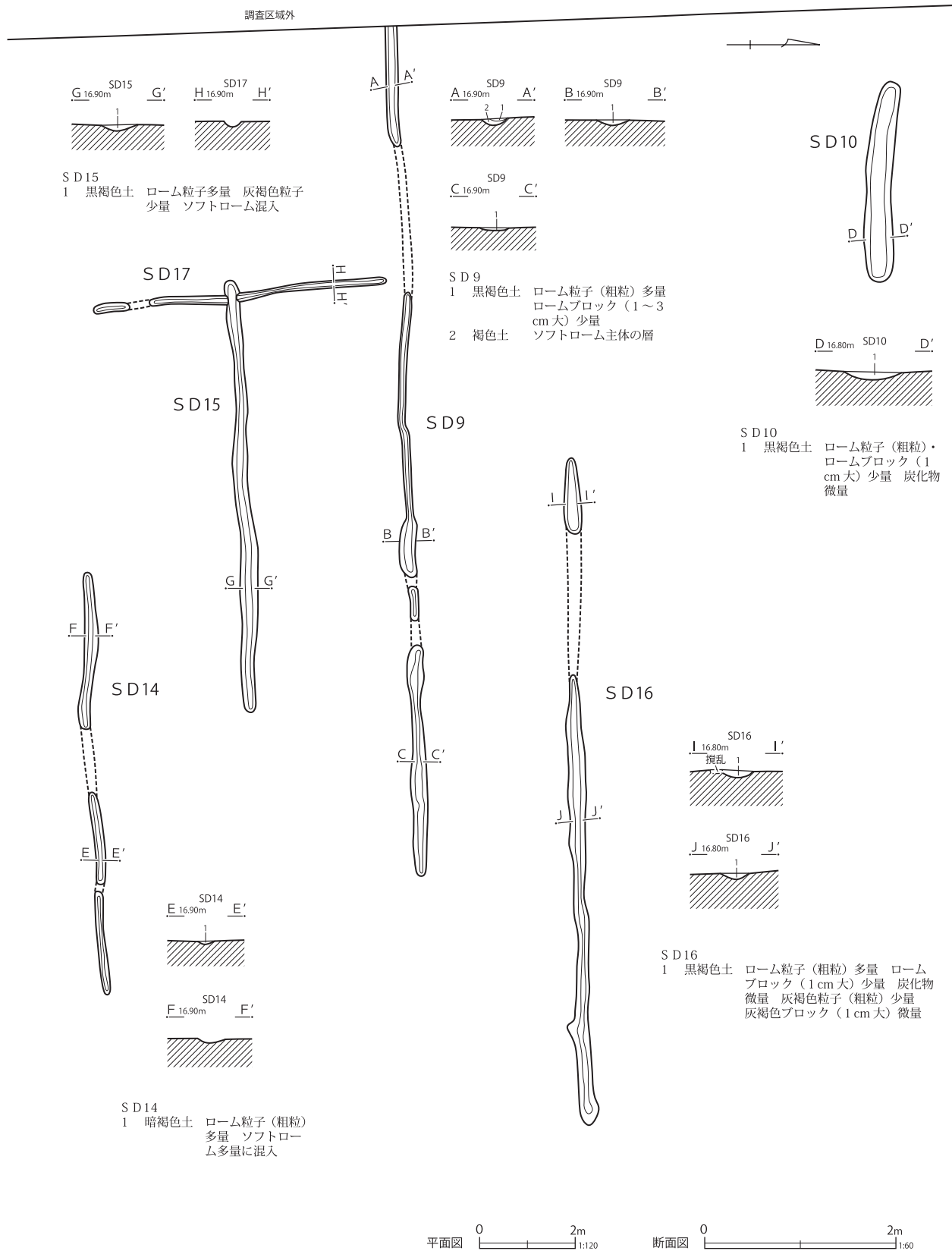


断面図

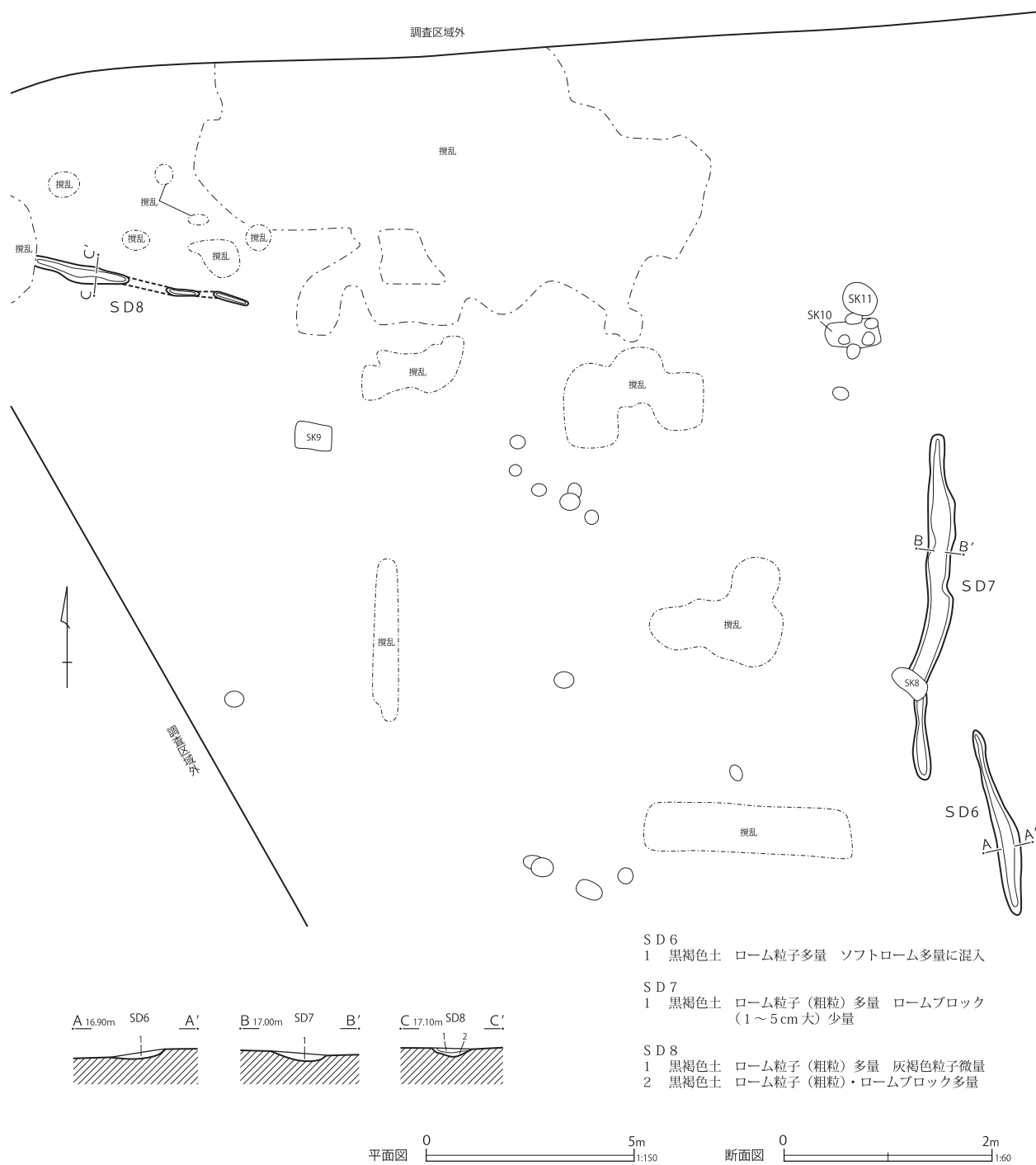


第22図 第1~3号溝跡





第24図 第9・10・14～17号溝跡



第25図 第6～8号溝跡

に位置する南北方向の溝跡である。断面形態は皿形で浅い。遺物は出土しなかった。

第13号溝跡(第23図)

第12号溝跡の西側に隣接する南北方向の溝跡である。断面形態は皿形で、幅は広いが浅い。遺物は出土しなかった。

第5号溝跡(第23図)

G-3・4、F-3グリッドに位置し、西側は調査区域外へと延びる。断面形態は皿形で幅は広いが浅い。覆土にヤドロが含まれる。

第6号溝跡(第25図)

E・F-4グリッドに位置する。南北方向の溝

第9表 溝跡一覧表（第22～25図）

No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
1	A・B-7	N-24°-E	N-12°-W	10.00	1.25	1.00	0.54	0.42	SJ1 と重複
2	C-7・8	N-83°-E		(2.87)	0.43	0.38	0.12	0.09	
3	C-7・8	N-80°-E		(1.60)	0.35	0.15	0.06	0.02	
4	G-4	N-88°-E		1.38	0.33	0.25	0.11	0.09	SD12 と重複
5	G-3・4 F-3	N-87°-W		10.95	2.12	1.23	0.26	0.20	
6	E・F-4	N-13°-W		4.52	0.55	0.17	0.04	0.03	SK8 と重複
7	E-4	N-5°-E		7.75	0.67	0.18	0.06	0.01	
8	D-2	N-80°-W		5.18	0.43	0.14	0.06	0.02	
9	H-5・6・7	N-87°-E		14.01	0.35	0.15	0.07	0.02	
10	G-5・6	N-85°-W		4.15	0.62	0.40	0.07	0.03	
11	H・I-4・5	N-2°-E	N-85°-E	7.00	0.33	0.23	0.05	0.01	SD4 と重複
12	G・H-4	N-6°-E		16.75	0.47	0.18	0.06	0.02	
13	G・H-4	N-8°-W		10.40	0.85	0.29	0.07	0.02	SD17 と重複
14	I-6・7	N-89°-W		7.45	0.28	0.13	0.05	0.02	
15	I-6・7	N-87°-E		9.30	0.37	0.18	0.06	0.03	SD15 と重複
16	H-6・7・8	N-88°-E		(14.00)	0.40	0.15	0.10	0.03	
17	H・I-6	N-6°-W		6.30	0.18	0.10	0.04	0.01	SD15 と重複
18	G-4	N-18°-E		2.00	0.23	0.20	0.08	0.02	

跡で、延長 4.52m と短い。断面形態は皿形で浅い。
遺物は出土しなかった。

第7号溝跡（第25図）

E-4 グリッドに位置する。第6号溝跡と近接する南北方向の溝跡で延長 7.75m と短い。重複する第8号土壇より古い。断面形態は皿形で浅い。
遺物は出土しなかった。

第8号溝跡（第25図）

第2次調査区北西隅の D-2 グリッドに位置する東西方向の溝跡である。断面形は皿形で、覆土にヤドロを含む。

第9・14・15・16号溝跡（第24図）

第2次調査区の南側で東西方向に延びる溝跡群である。断面形態はいずれも皿形で浅く、平面形態も類似している。等間隔に並んでいることから同時期の関連する遺構と考えられる。

第17号溝跡（第24図）

第2次調査区の南側、H・I-6 グリッドに位置する。第15号溝跡の西端と直交する形で南北に延びる溝跡である。第15号溝跡よりも古い。断面形態は皿形で浅い。

第10号溝跡（第24図）

G-5・6 グリッドに位置する東西方向の溝跡

である。断面形態は皿形で長さは短い。
遺物は出土しなかった。

第11号溝跡（第23図）

H-4・5、I-4・5 グリッドに位置する南北方向の溝跡で、南端でグリッドピットと重複する。断面形態は皿形で非常に浅い。
遺物は出土しなかった。

第18号溝跡（第23図）

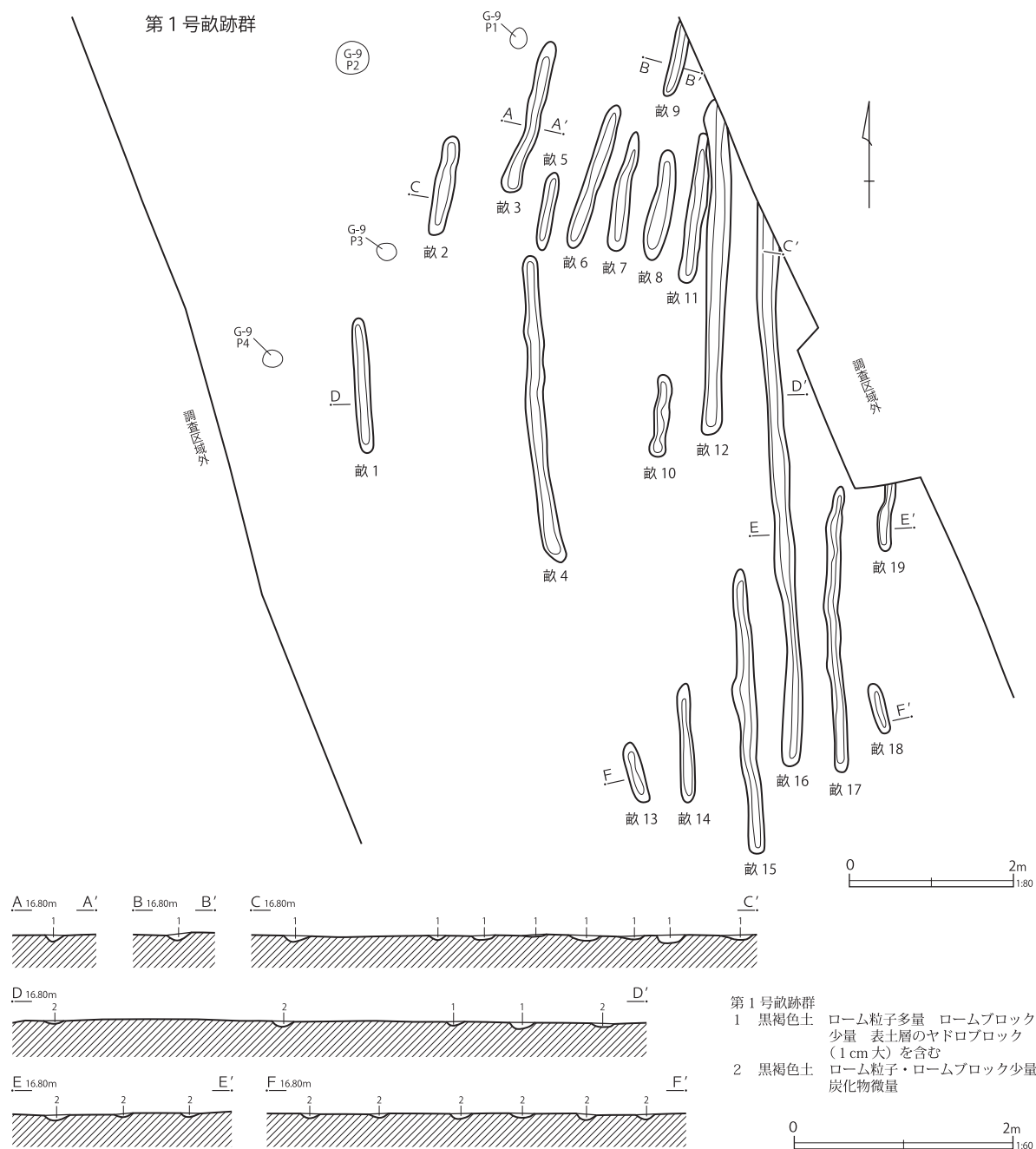
G-4 グリッドに位置する南北方向の溝跡である。第12号溝跡と並走し、第4号溝跡と隣接する。断面形態は逆台形で、長さは短い。
遺物は出土しなかった。

（3）畝跡群

第1号畝跡群（第26図）

第1次調査区の南側、G・H-9・10 グリッドに位置する。南北方向に畝間溝が並行して東側は調査区域外へと続く。

東西 7.0m、南北 10.2m の範囲に 19 条の畝間溝が並ぶ。方向はやや東に振れるもの（畝 2・3・5～11）と、ほぼ北を指すもの（畝 12・14～17・19）、やや西に振れるもの（畝 1・4・13・18）がある。耕作が断続的に行われ、耕作ごと

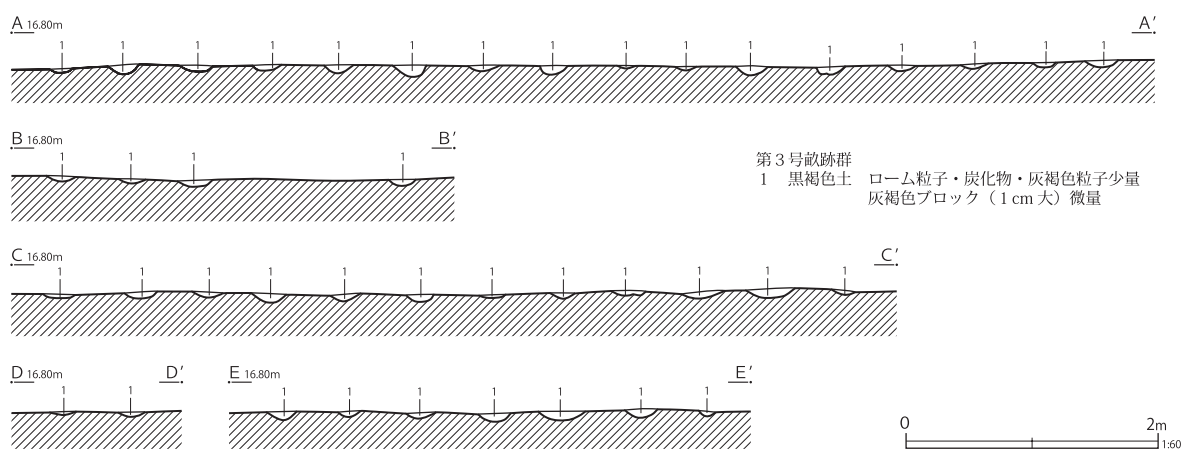
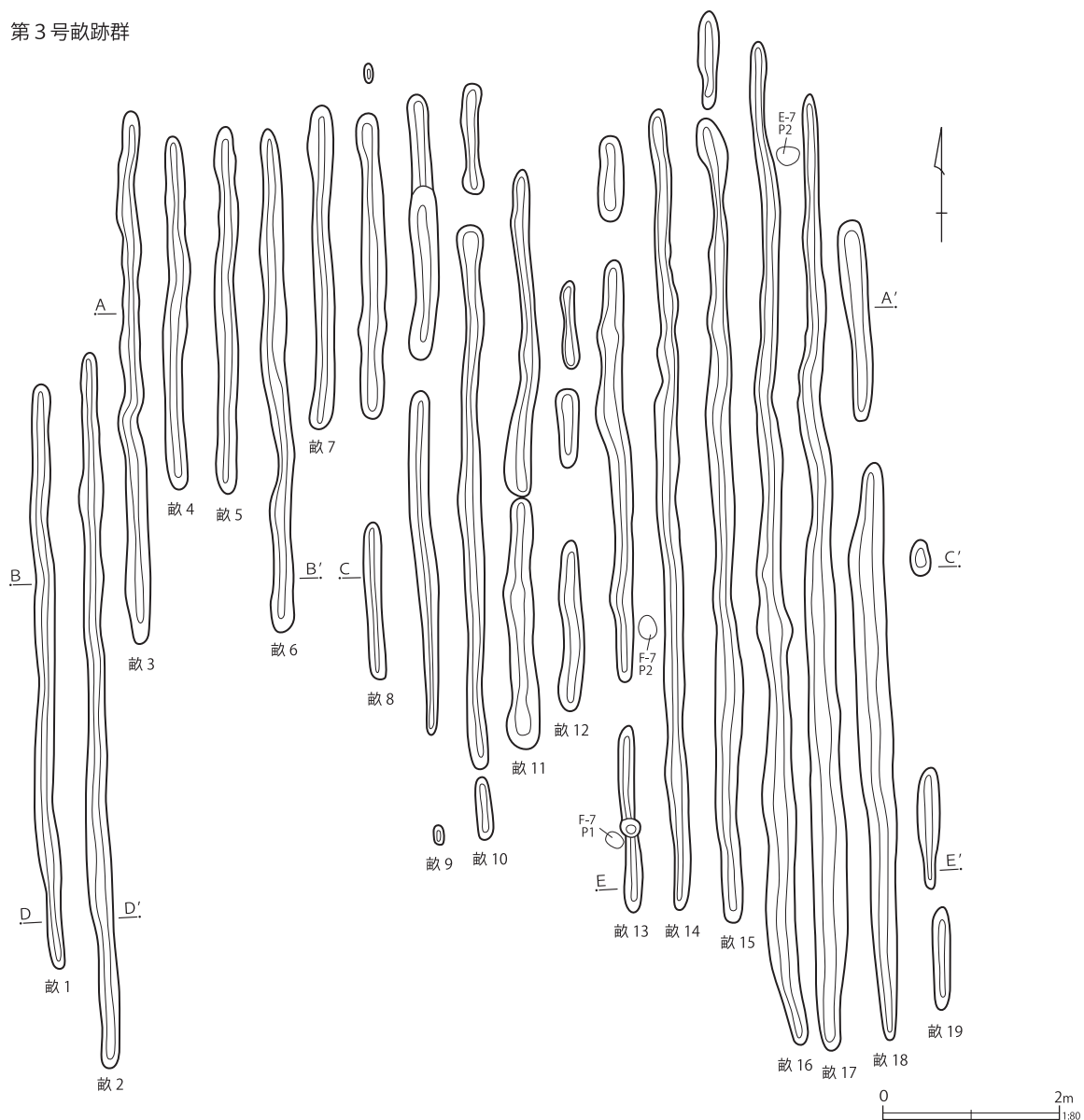


第26図 第1号畝跡群

第10表 第1号畝跡群一覧表(第26図)

畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ	畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ
1	G-9	1.65	0.18	0.03	11	G-10	1.86	0.20	0.04
2	G-9	1.20	0.24	0.03	12	G-10	(4.05)	0.26	0.07
3	G-9	1.90	0.18	0.07	13	G-10	0.70	0.20	0.04
4	G-9	3.72	0.22	0.06	14	G-10	1.45	0.17	0.04
5	G-9	0.90	0.16	0.04	15	G・H-10	3.40	0.25	0.07
6	G-9・10	1.80	0.20	0.03	16	G-10	(6.80)	0.23	0.05
7	G-10	1.45	0.20	0.02	17	G-10	3.45	0.17	0.05
8	G-10	1.30	0.28	0.05	18	G-10	0.63	0.18	0.06
9	G-10	(0.95)	0.18	0.04	19	G-10	(0.83)	0.18	0.04
10	G-10	0.98	0.18	0.04					

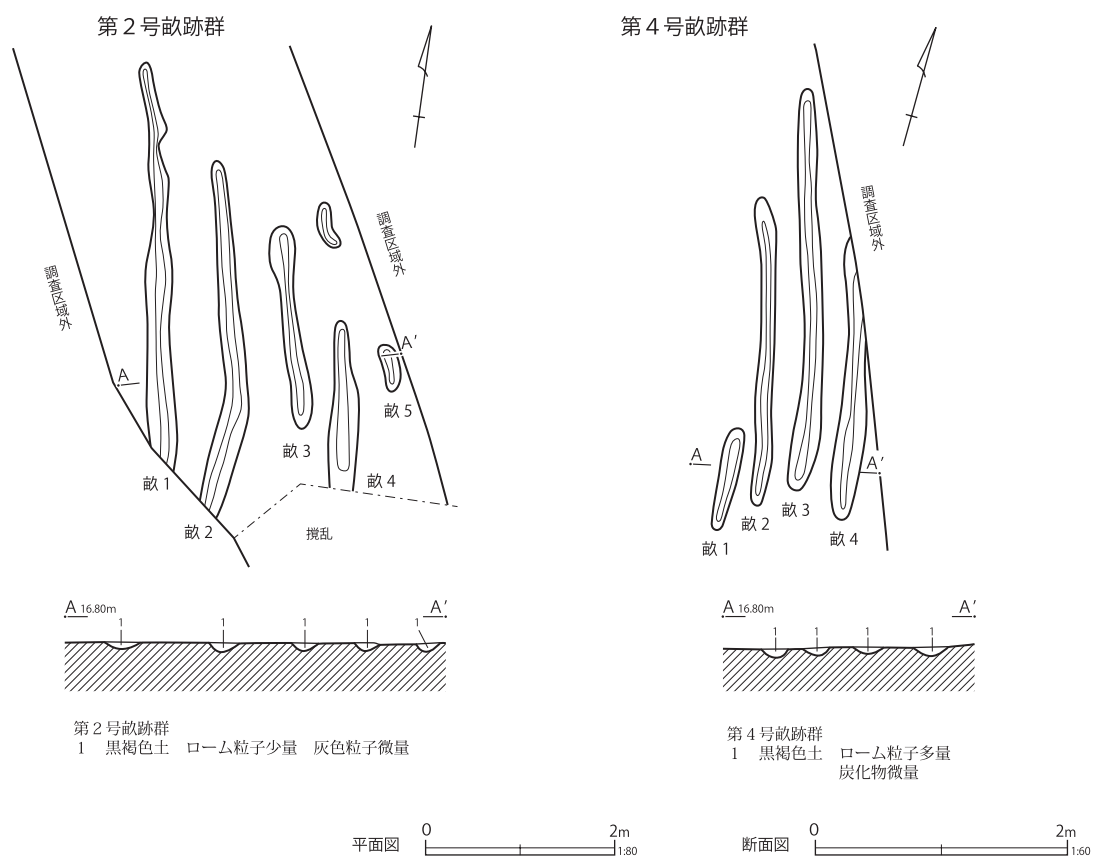
第3号畝跡群



第27図 第3号畝跡群

第11表 第3号畝跡群一覧表(第27図)

畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ	畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ
1	E・F-6	6.58	0.24	0.04	11	E・F-7	6.47	0.30	0.07
2	E・F-6	8.04	0.21	0.03	12	E・F-7	4.83	0.26	0.06
3	E・F-6	6.00	0.23	0.05	13	E・F-7	8.73	0.24	0.08
4	E・F-6	3.96	0.24	0.06	14	E・F-7	9.02	0.24	0.07
5	E・F-6	4.13	0.24	0.06	15	E・F-7	10.25	0.26	0.06
6	E・F-6・7	5.63	0.28	0.06	16	E・F-7	11.28	0.30	0.06
7	E・F-7	3.64	0.22	0.05	17	E・F-7	10.75	0.33	0.09
8	E・F-7	6.35	0.28	0.06	18	E・F-7	9.23	0.37	0.06
9	E・F-7	8.46	0.28	0.05	19	F-7	5.27	0.24	0.03
10	E・F-7	8.48	0.26	0.06					



第28図 第2・4号畝跡群

第12表 第2号畝跡群一覧表(第28図)

畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ	畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ
1	C-8	4.32	0.28	0.05	4	C-8	3.04	0.30	0.08
2	C-8	3.78	0.25	0.05	5	C-8	0.52	0.18	0.05
3	C-8	2.15	0.26	0.05					

第13表 第4号畝跡群一覧表(第28図)

畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ	畝No.	グリッド	長さ	幅	深さ
1	D-6	1.10	0.20	0.07	3	C・D-6	4.22	0.22	0.06
2	C・D-6	3.20	0.18	0.06	4	C-6・D-6・7	2.96	0.26	0.08

に方向が変わったと推測される。重複する箇所が無く、新旧関係は明らかではない。ヤドロが第1

層に含まれ、第2層には含まれていないことから、第1層が覆土となるやや東に振れる一群の方が新

しい可能性がある。

畝間溝は幅 0.20 ～ 0.50m 程で遺物は出土しなかったが、覆土にヤドロを含む。

第 2 号畝跡群（第 28 図）

C－8 グリッドに位置する。南北方向に細い畝間溝が並行し、南側は調査区域外へと続く。

東西 2.7m、南北 4.8m の範囲に 5 条の畝間溝が並ぶ。畝跡は同じ方位で並行し、走行方向は N－9°－W を指す。畝間溝は幅 0.25 ～ 0.45m で、遺物は出土しなかったが、覆土にヤドロを含むことから、近世以降と推定される。

第 3 号畝跡群（第 27 図）

第 2 次調査区の東側、E・F－6・7 グリッドに位置する。南北方向の畝跡群である。

東西 10.5m、南北 12.1m の範囲に 19 条の畝間溝が並ぶ。走行方向はほぼ同じで N－2°－E を指す。畝間溝は幅 0.30 ～ 0.40m 程で遺物は出土しなかった。覆土にヤドロを含むことから、近世以降のものと考えられる。

第 4 号畝跡群（第 28 図）

C・D－6・D－7 グリッドに位置する。南北方向の畝跡群である。

東西 1.6m、南北 2.7m の範囲に 4 条の畝間溝が並ぶ。走行方向はほぼ同じで N－16°－W を指し、畝間溝は幅 0.20m 程である。遺物は出土しなかった。

（4）土壌

土壌は、第 1 次調査区で 2 基、第 2 次調査区で 14 基検出された。第 2 次調査区西側に多く分布する。ほとんどの土壌の性格は不明で、遺物も極めて少なかった。

第 1 号土壌（第 29 図）

第 1 次調査区の南側、H－10 グリッドに位置する。

平面形態は隅丸方形で、規模は長径 1.00m、短径 1.00m、確認面からの深さ 0.20m を測る。断面形態は逆台形で南西側に円形の掘り込みをもつ。

遺物は砥石が出土した（第 30 図）。

第 2 号土壌（第 29 図）

第 1 次調査区の H・I－10 グリッドに位置する。

平面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長径 1.35m、短径 1.25m、深さ 0.17m で、長軸方位は N－70°－E を指す。

遺物は瓦質土器の鉢が出土した。細片のため図示し得ないが、14～15 世紀に比定される。

第 3 号土壌（第 29 図）

第 2 次調査区西側の F－4 グリッドに位置する。

平面形態は長方形、断面形態は箱形である。規模は長軸 1.38m、短軸 0.58m、深さ 0.14m で、長軸方位は N－74°－W を指す。平面形状が類似する第 13 号土壌と隣接するが、深さが異なるため別の遺構とした。

遺物は出土しなかった。

第 4 号土壌（第 29 図）

第 2 次調査区西側の F－4 グリッドに位置する。

平面形態は長方形、断面形態は逆台形である。規模は長軸 1.08m、短軸 0.58m、深さ 0.48m で、長軸方位は N－52°－W を指す。

遺物は出土しなかった。

第 5 号土壌（第 29 図）

第 2 次調査区西側の F－4 グリッドに位置する。

平面形態は長方形、断面形態は逆台形で、南側に円形の掘り込みがある。規模は長軸 0.67m、短軸 0.42m、深さ 0.17m で、長軸方位は N－7°－E を指す。

遺物は出土しなかった。

第 6 号土壌（第 29 図）

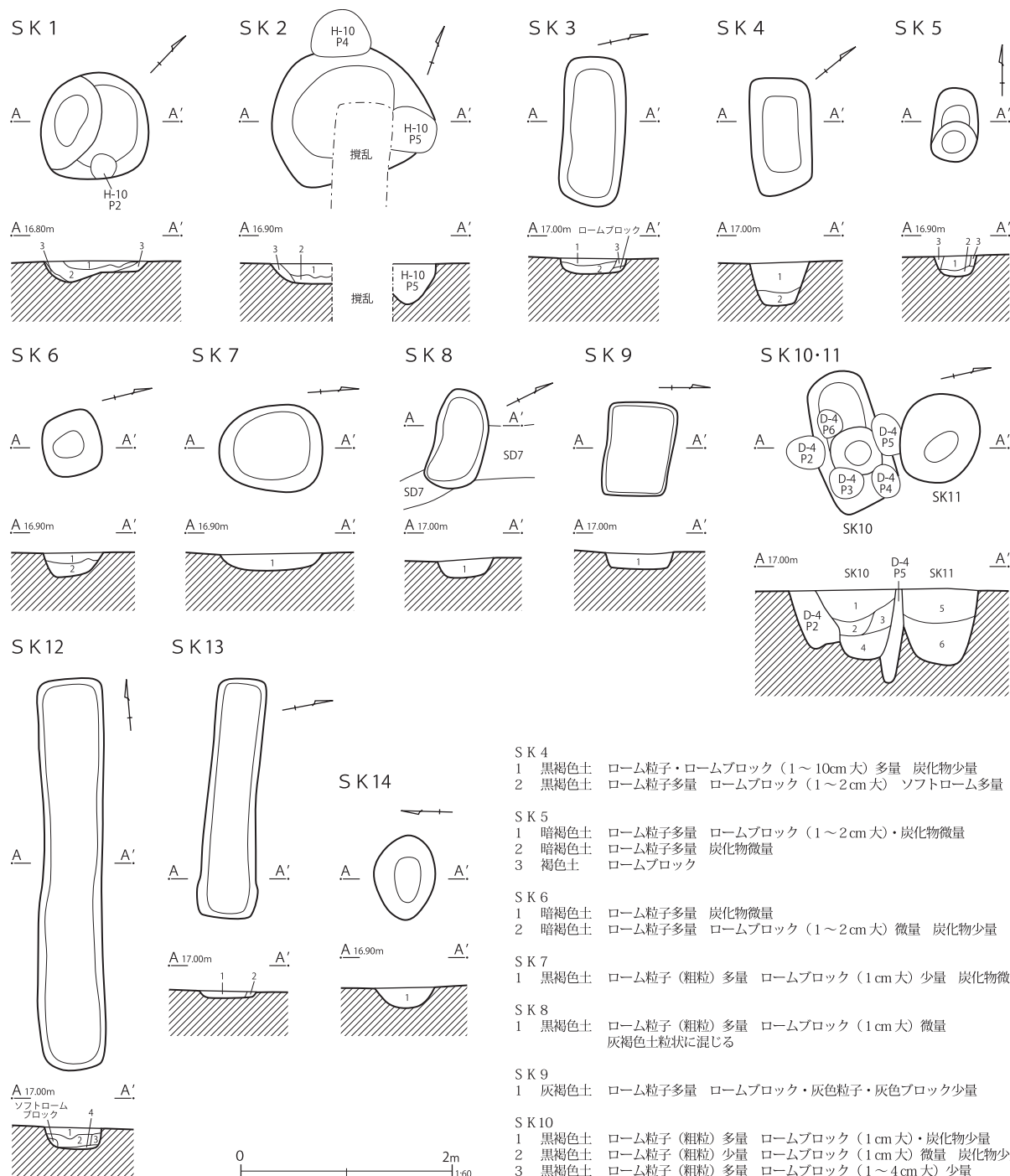
第 2 次調査区西側の F－4 グリッドに位置する。

平面形態は方形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長軸 0.59m、短軸 0.53m、深さ 0.22m で、長軸方位は N－90°－E を指す。

遺物は出土しなかった。

第 7 号土壌（第 29 図）

第 2 次調査区西端の F－3 グリッドに位置する。



SK 1
1 黒褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 ソフトローム（5cm大）ブロック状に少量
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）・炭化物少量
3 褐色土 ソフトローム主体となる層

SK 2
1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物少量
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物少量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入

SK 3
1 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）少量 炭化物微量
3 黒褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム混入

SK 4
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック（1～10cm大）多量 炭化物少量
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1～2cm大） ソフトローム多量

SK 5
1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1～2cm大）・炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
3 褐色土 ロームブロック

SK 6
1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1～2cm大）微量 炭化物少量

SK 7
1 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1cm大）少量 炭化物微量

SK 8
1 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1cm大）微量
灰褐色土粒状に混じる

SK 9
1 灰褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・灰色粒子・灰色ブロック少量

SK 10
1 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1cm大）・炭化物少量
2 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 ロームブロック（1cm大）微量 炭化物少量
3 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1～4cm大）少量
4 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）少量

SK 11
5 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）・ロームブロック（1～3cm大）多量
6 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 ロームブロック（1cm大）微量

SK 12
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック（1cm大）多量 黒色土粒子状に少量
2 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
3 黒褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入
4 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）少量

SK 13
1 黒褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック（1cm大）少量
2 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）多量

SK 14
1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量

第 29 図 土 壇

平面形態は不整円形で、断面形態は皿形を呈する。規模は長径 0.98m、短径 0.80m、深さ 0.15m を測る。

遺物は出土しなかった。

第 8 号土壌 (第 29 図)

第 2 次調査区の中央北寄りの E-4 グリッドに位置する。重複する第 7 号溝跡よりも新しい。

平面形態は楕円形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長径 0.93m、短径 0.48m、深さ 0.17m で、長軸方位は N-53°-W を指す。

遺物は出土しなかった。

第 9 号土壌 (第 29 図)

第 2 次調査区の E-2 グリッドに位置する。

平面形態は方形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長軸 0.86m、短軸 0.63m、深さ 0.14m で、長軸方位は真北を指す。

遺物は出土しなかった。

第 10 号土壌 (第 29 図)

第 2 次調査区北側の D-4 グリッドに位置する。

平面形態は長方形、断面形態は逆台形で中央が円形に一段下がる。規模は長軸 0.70m、短軸 0.58m、深さ 0.60m で、長軸方位は N-78°-E である。

遺物は 19 世紀以降の瀬戸美濃陶器や鉄釉陶器の細片が出土した。

第 11 号土壌 (第 29 図)

第 10 号土壌の北側に隣接する。

平面形態は楕円形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長径 0.87m、短径 0.72m、深さ 0.71m で、長軸方位は N-43°-W を指す。

遺物は近世の焙烙の細片が出土した。

第 12 号土壌 (第 29 図)

第 2 次調査区の南側の H-4 グリッドに位置し、第 11・12 号溝跡と並行する。

第 14 表 土壌・グリッド出土土製品観察表 (第 30 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	備考	図版
1	石製品	砥石	5.3	2.5	1.5	29.0	流紋岩	SK1 櫛歯状工具痕 平面長方形 断面長方形 2 面使用 欠損あり 裏面をよく使って平滑	
2	石製品	砥石	9.6	7.6	2.0	222.5	緑泥片岩	H-6 側縁部平ノミ状 (平ノミによるケズリあり) 平坦部・側縁部使用痕あり 欠損あり 板碑転用	

平面形態は長い長方形、断面形態は箱形を呈する。規模は長軸 3.70m、短軸 0.64m、深さ 0.21m で、長軸方位は N-9°-E を指す。

遺物は出土しなかった。

第 13 号土壌 (第 29 図)

第 2 次調査区の西側の F-4 グリッドに位置し、第 3 号土壌と隣接する。

平面形態は長方形、断面形態は逆台形を呈する。規模は長軸 2.25m、短軸 0.45m、深さ 0.05m で東側が深く、西側が浅い。長軸方位は N-74°-W を指す。

遺物は出土しなかった。

第 14 号土壌 (第 29 図)

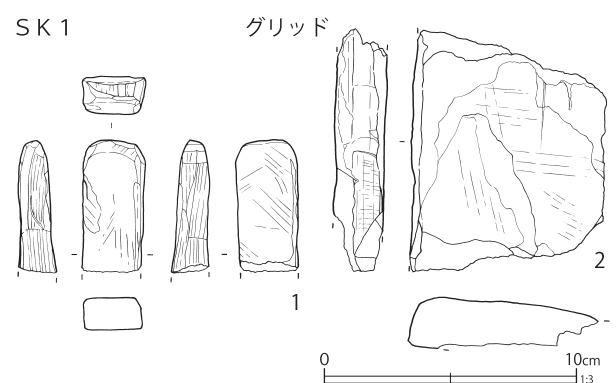
第 2 次調査区の南東側の H-8 グリッドに位置する。

平面形態は楕円形、断面形態は丸底型を呈する。規模は長径 0.80m、短径 0.56m、深さ 0.20m を測る。

遺物は出土しなかった。

(5) グリッド出土遺物

グリッドから砥石が検出された (第 30 図)。板碑が転用されたもので、側縁部に平ノミによるケズリが施される。中世以降の遺物と考えられる。



第 30 図 土壌・グリッド出土遺物

V 楽上Ⅱ遺跡の調査

1. 調査の概要

楽上Ⅱ遺跡は、桶川市西部の荒川を西に臨む大宮台地上に位置する。東側に江川によって浸食された小支谷が発達し、樹枝状に開析された台地上に立地する。標高は15～16mである。古墳時代前期の住居跡が発見された楽上遺跡が南側に位置する。

楽上Ⅱ遺跡の調査では、古墳時代の住居跡2軒、中・近世の溝跡7条、火葬遺構4基、土壌4基を検出した（第32図）。

住居跡は調査区の南東寄りから発見され、南側に隣接する楽上遺跡と同一集落のものと推定される。調査区の北半には住居跡が存在しないことから、集落域の北端部にあたると推測される。

住居跡の炉は、縁に土器片が埋設された土器囲い炉である。第2号住居跡は焼失住居で、床面直上から炭化材と共に残存率の高い土器が出土した。

中・近世の遺構は調査区全域に分布する。調査区の中央部に火葬遺構4基が集中し、また細い溝跡が調査区の南東部に分布する。

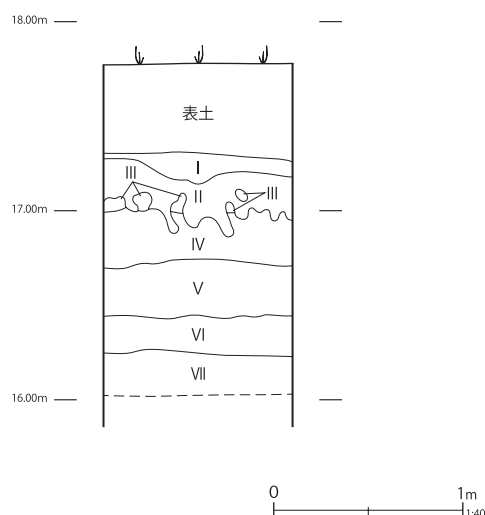
火葬遺構は張り出し部が西側に取り付く「T」字形を呈する。炭化物が堆積し、壁面は被熱により赤く焼けていた。この場所は葬送の場が設けられる村境であったと推測される。

調査区北端の第1号溝跡は、道路に沿った区画溝と考えられる。調査区際には現道が残っている。

調査区西側の第7号溝跡は、直角に屈曲する。幅は狭いが、掘り込みは深い。区画溝と考えられるが、目的は不明である。調査区中央付近に分布する細く浅い溝跡の性格は、不明である。楽上遺跡でも類似した溝跡が検出されている。同様の用途が想定される。

土壌は調査区全体に点在するが、規則性は認められない。

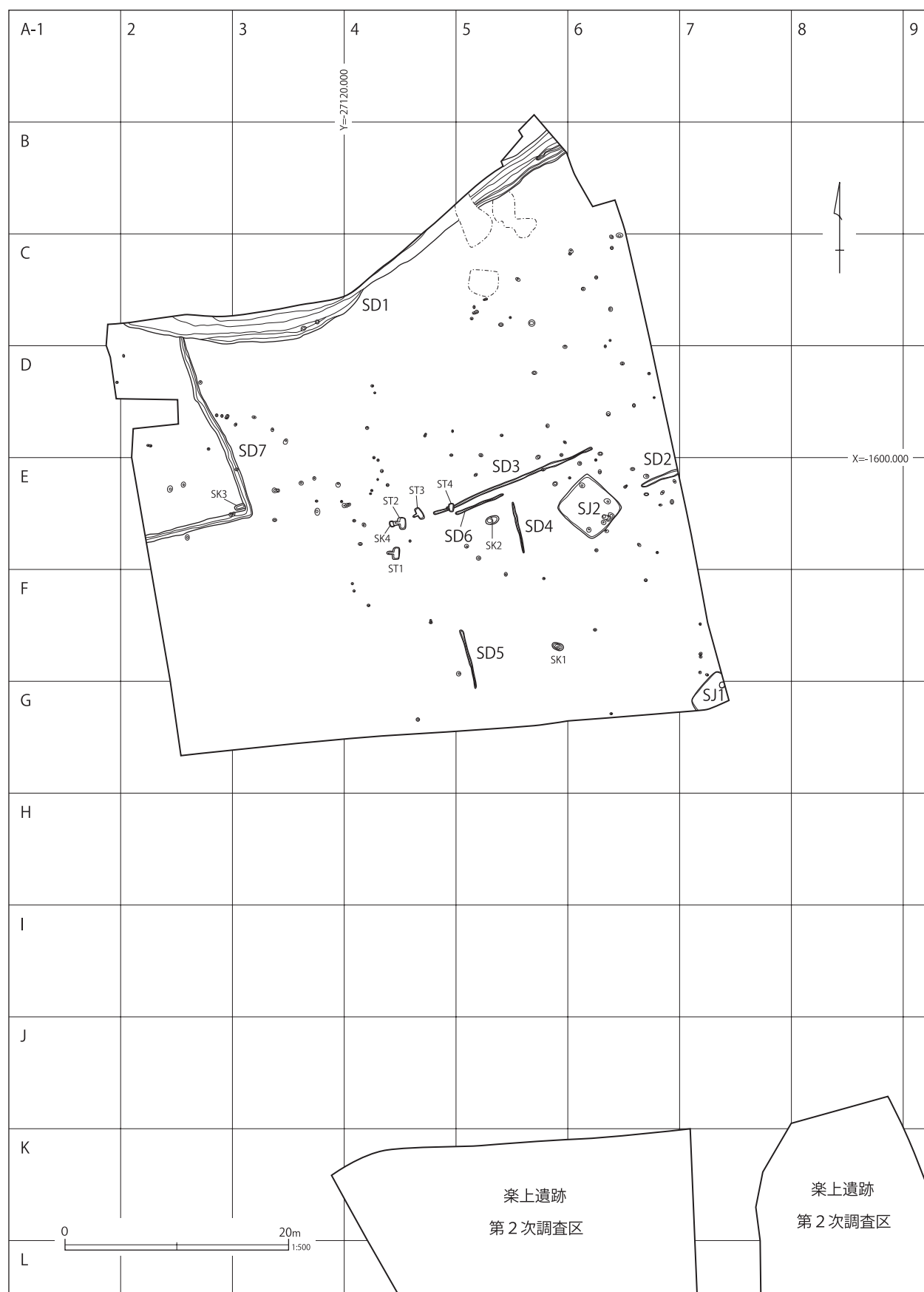
基本土層を第31図に示した。表土層には、近世以降の耕作客土の「ヤドロ」が厚く堆積する。表土層の下には、近世の耕作土である黒褐色土が薄く堆積する。それより下層はローム層となる。遺構はローム層の上面から検出された。第Ⅰ層が近世の耕作土、第Ⅱ～Ⅲ層がソフトローム、第Ⅳ層が第1黒色帯、第Ⅴ～Ⅵが第2黒色帯、第Ⅶ層がハードロームで、武蔵野台地標準層位（Ⅲ～Ⅹ層）に概ね相当する。



- | | |
|--------|---|
| Ⅰ 黒褐色土 | ローム粒子（粗粒）少量、ロームブロック（1～2cm大）微量、近世に相当、灰白色粒子わずかに入る |
| Ⅱ 黄褐色土 | ガラス質粒子多量、白色粒子少量、炭化物微量（立川ロームⅢ層） |
| Ⅲ 黄褐色土 | ガラス質粒子多量、白色粒子少量（立川ロームⅣ層） |
| Ⅳ 褐色土 | 第1黒色帯（立川ロームⅤ層） |
| Ⅴ 暗褐色土 | 第2黒色帯（立川ロームⅥ層） |
| Ⅵ 暗褐色土 | 第2黒色帯ガラス質粒子（立川ロームⅦ層） |
| Ⅶ 黄褐色土 | 赤色バミス部分的に固まる、粘性強い（立川ロームⅩ層） |

第31図 基本層序

楽上Ⅱ遺跡



第 32 図 全体図

2. 縄文時代の遺物

(1) グリッド出土遺物

第Ⅰ群土器 (第33図1・2)

早期後葉の条痕文系土器群を一括する。1は太沈線区画内に集合細沈線が充填施文される野島式土器である。2は内外面とも器面が荒れているが、繊維を少量含む条痕文土器である。

第Ⅱ群土器

前期の土器群を一括する。

第1類 (第33図3)

諸磯b式土器である。やや幅広の爪形文が横位に3条施文される破片で、諸磯b2式に比定される。

第2類 (第33図4～19)

十三菩提式土器を含む前期終末の土器群である。4～6は地文縄文の上に結節浮線文が施される土器である。

4は縦位、5・6は間隔を空けて横位の結節浮線文が施文される。7・8は集合沈線文土器で、7は口縁部に横位の沈線、8は沈線の間に印刻を施すモチーフが描かれている。9～19は縄文を施す土器群で、12・18は結束羽状縄文、13・15・16は羽状縄文が施文される。

第Ⅲ群土器

中期の土器群を一括する。

第1類 (第33図20)

胎土に雲母を含む阿玉台式土器である。平行結節沈線が施文される阿玉台Ⅱ式と思われる。

第2類 (第33図21～31)

加曽利E式土器を一括する。21・22は加曽利EⅢ式の口縁部文様帯の破片である。24～31は加曽利EⅢ式の胴部と底部破片で、24・25は沈線懸垂文と磨消懸垂文、26～28は微隆起線状の磨消懸垂文が垂下される胴部破片である。29は蛇行条線が垂下される。30・31は底部破片である。

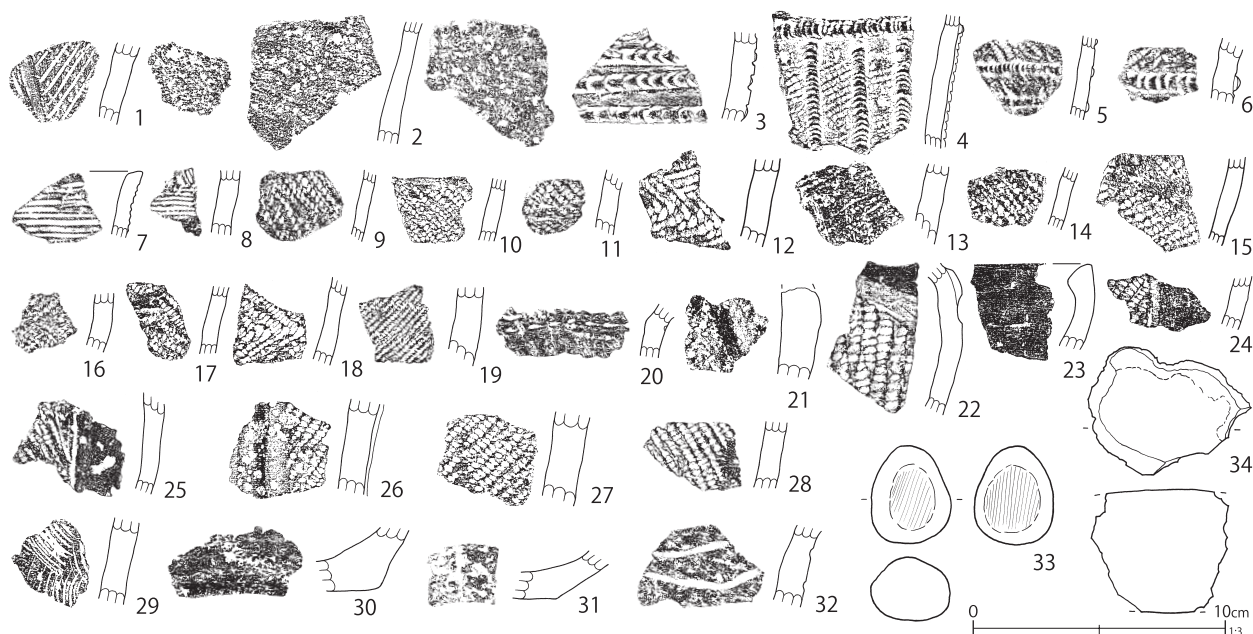
23は無文浅鉢の口縁部破片である。

第3類 (第33図32)

時期不詳の胴部破片で、早期の田戸上層式か、後期の堀之内式か、晩期の安行3c式か判別の付かない破片である。

石器 (第33・34図)

33は磨石である。大きさは、長さ3.9cm、幅3.2cm、重さは30.7gである。34は石皿である。周辺を欠損しているため、大きさは計測できない。



第33図 グリッド出土遺物

3. 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は住居跡2軒で、調査区の南東に分布する。

第1号住居跡は東半部が調査区域外に掛かり、土器囲い炉が検出された。第2号住居跡は焼失住居であり、床面直上からは残存率の高い遺物が出土した。

調査区の南東部以外には住居跡がないことから、楽上遺跡と同一集落跡の北縁にあたると考えられる。

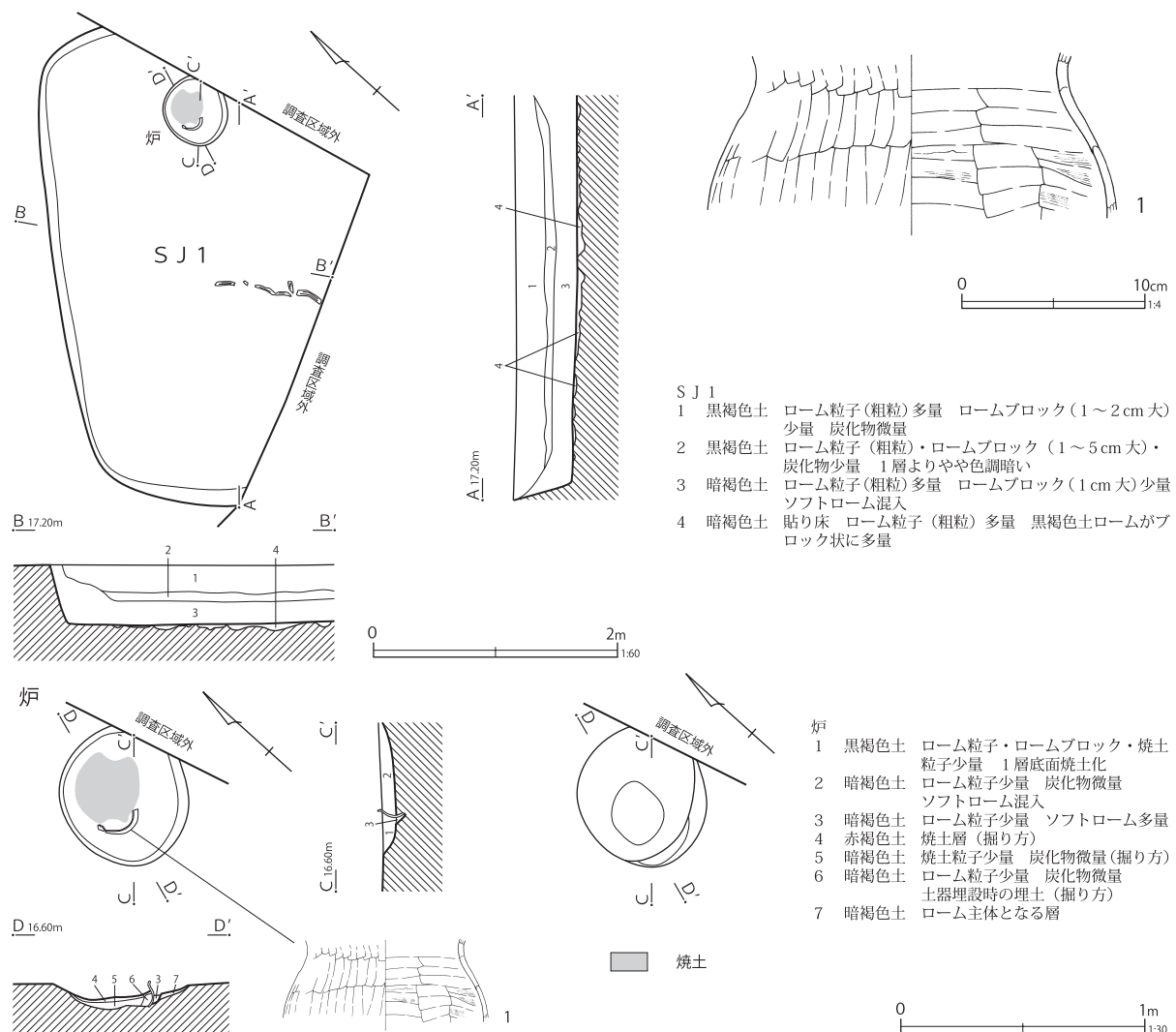
(1) 住居跡

第1号住居跡 (第34図)

調査区の南東隅、F・G-7グリッドに位置する。南側と東側は調査区域外へ続く。住居の北寄りから炉が検出され、主軸を北東-南西方向に向ける。

平面形態は方形で、規模は主軸長推定 3.94m、残存東西長 2.65m、深さは 0.50m 前後を測る。

覆土は上層の黒褐色土、下層の暗褐色土に分層され、床面には貼り床が施されている。(第4層)。



第34図 第1号住居跡・出土遺物

第15表 第1号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	—	[8.8]	—	A D H I	30	普通	にぶい黄褐	No. 1 外面煤付着 炉	12-1

覆土は壁際から堆積した様子が見られる。

炉は土器囲い炉である。南側の縁に台付甕の大型破片が埋設されている。炉の平面形態は楕円形で、規模は長径 0.55m、短径 0.50m、深さ 0.20m である。

中央部の床面直上から、直径 5 cm 程の炭化した丸木が出土した。出土量が少ないことから建築部材とは異なり、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

ピット・壁溝・貯蔵穴は、確認されなかった。

遺物の出土量は非常に少なく、細片を含めて 2 点のみであった。炉に埋設されていた土器が図示し得た（第 34 図 1）。

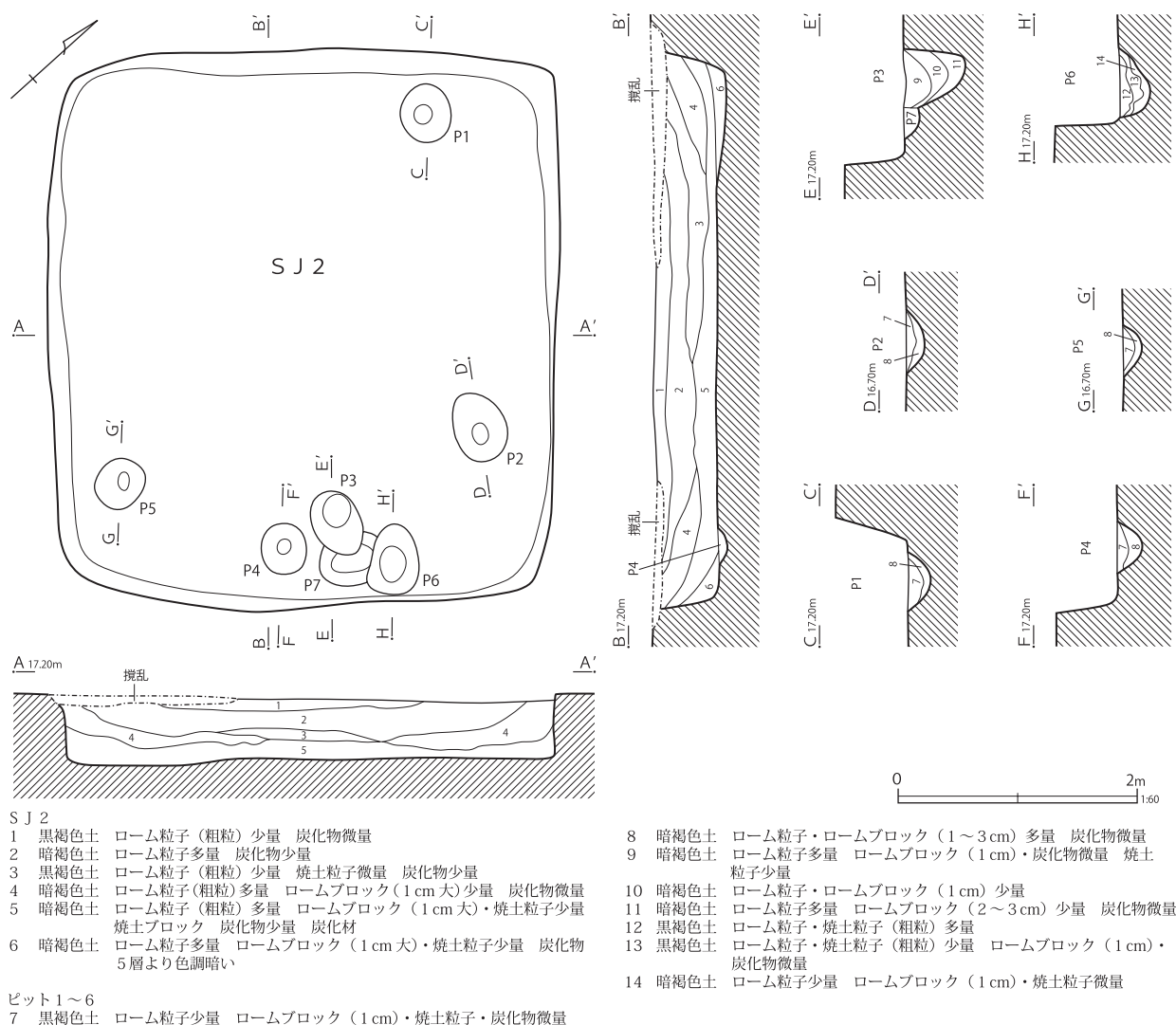
1 は台付甕の頸部から胴部にかけての破片である。頸部の屈曲は弱い。外面は縦方向、内面は横方向のヘラナデが施される。内外面の一部に煤が付着していた。

遺物の時期は 4 世紀前半に比定される。

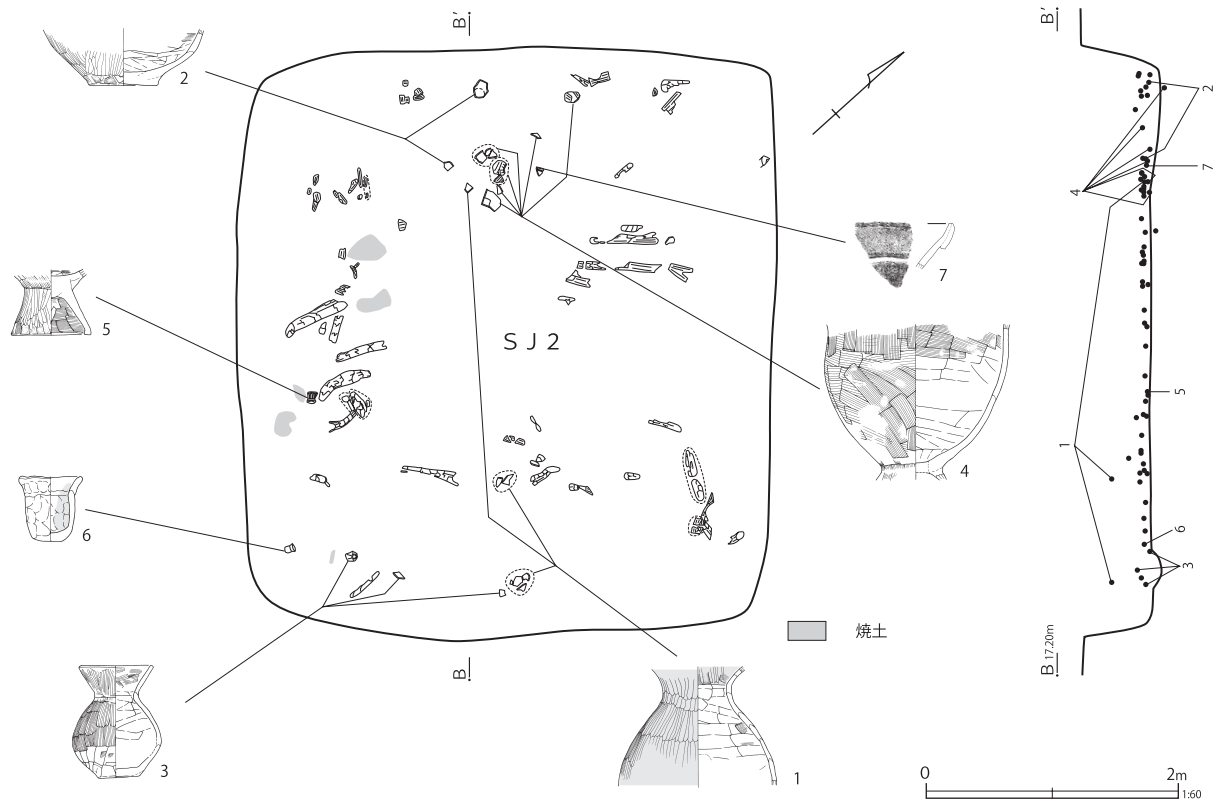
第 2 号住居跡（第 35 図）

調査区の東側の E－5・6 グリッドに位置する。覆土中に含まれる炭化物は少ないが、床面付近から炭化材や焼土ブロックが多く検出されたため、焼失住居と考えられる。

炭化材の検出状況を第 36 図に示した。住居の中央から外側に広がるように炭化材が分布していることから、垂木材と考えられる。また第 5 層は



第 35 図 第 2 号住居跡



第36図 第2号住居跡遺物出土状況

炭化材や焼土ブロックが多く検出されたことから、火災によって屋根が崩落した層と考えられる。

平面形態は方形で、規模は長軸 4.66m、短軸 4.19m、深さは 0.52 ～ 0.59m を測る。長軸方位は $N - 47^{\circ} - W$ を指す。

第1～4層は壁際から堆積した様子が見られる。

ピットは7基検出された。住居跡の隅に位置するピット1・2・5は柱穴の可能性はあるが、深さは 0.15 ～ 0.20m と浅い。南東壁際のピット3は深さ 0.50m と深く、出入口施設に伴うと推定される。他のピットも出入口施設との関連が想定されるが、掘り込みは浅い。

炉・壁溝・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は床面直上付近から出土した。出土量は少ないが、残存率の高いものが多い（第37図）。

1は壺の口縁部下半から胴部上半の破片である。外面は全面にミガキが施され、光沢をもつ。外面及び口縁部内面には赤彩が見られる。

2は壺の底部である。底面に木葉痕が残る。外面はミガキ、内面はヘラナデで調整される。内面底部には、ボタン技法に伴う円形の接合痕が残る。

3は小型壺である。頸部は「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。口縁端部には縄文が施文され、胴部は半ばに最大径をもつ算盤玉形である。

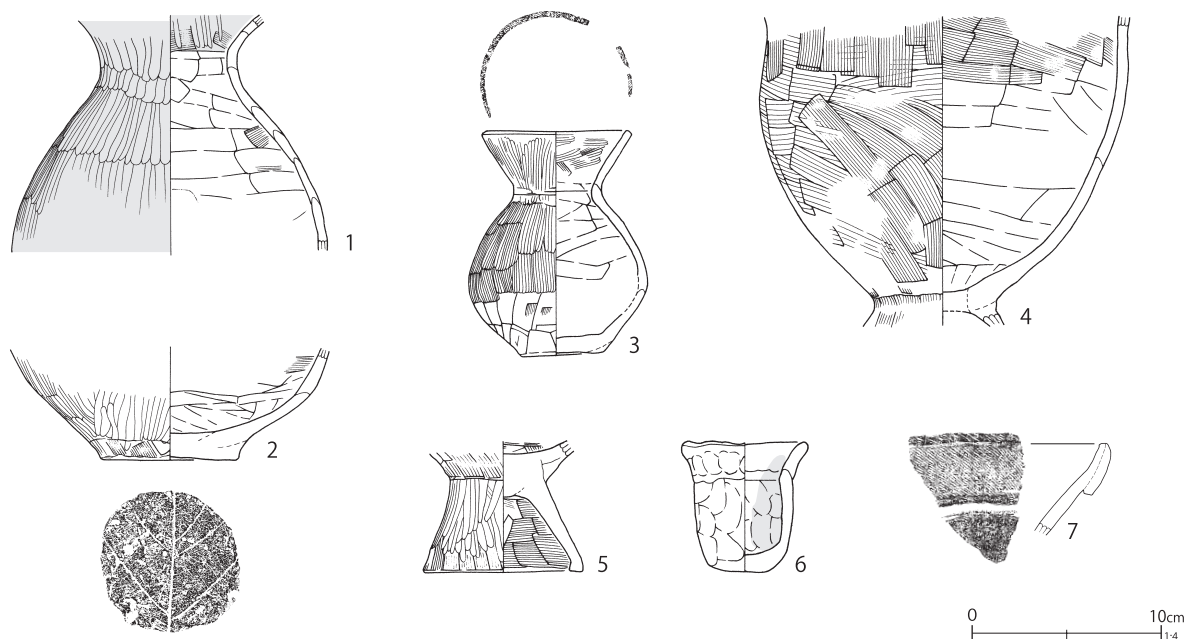
4は台付甕である。外面は全面に強くハケが施され、台部は柄接合されている。

5は台付甕の台部である。外面はハケの後に縦方向のミガキ、内面はハケが施される。柄接合で成形される。

6は手捏土器である。全面に指頭痕が残る。内湾する身に大きく外反する口縁部が継ぎ足されている。内面の一部に赤色顔料の付着が認められる。

7は複合口縁の壺である。口縁部外面に粘土帯を貼付し、複合部を作り出す。外面には縄文が施され、内面には緩い段が見られる。

遺物は、4世紀前半と考えられる。



第 37 図 第 2 号住居跡出土遺物

第 16 表 第 2 号住居跡出土遺物観察表（第 37 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	壺	—	[12.5]	—	E H I K	60	普通	にぶい黄橙	No. 3・5・6 外面全面赤彩 内面口縁部赤彩	12-2
2	土師器	壺	—	[5.9]	7.0	A D E H I K	80	普通	にぶい赤褐	No. 12・15 外面黒斑 底部木葉痕あり	12-3
3	土師器	小型壺	7.3	11.8	4.3	A D E H I K	70	普通	褐灰	No. 3・4・16	12-4
4	土師器	台付甕	—	[16.3]	—	D H I	70	普通	明赤褐	No. 7～11・14・70 外面煤付着 柄接合か内面コゲ	12-5
5	土師器	台付甕	—	[6.8]	8.4	A H I K	80	普通	にぶい黄橙	No. 2 柄接合	12-6
6	土師器	手捏土器	6.1	6.8	3.4	A I K	100	普通	明黄褐	No. 1 外面脂頭痕あり 内面指頭痕 一部赤彩	12-7
7	土師器	壺	—	[4.0]	—	E H I K	5	普通	橙	No. 13 内面ミガキ 赤彩 外面口縁下赤彩	

4. 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、溝跡 7 条・火葬遺構 4 基・土壇 4 基である。溝跡は、調査区北辺に沿った第 1 号溝跡、調査区北西には直角に屈曲する第 7 号溝跡が位置する。また、調査区南東には幅が狭く浅い溝跡が集中する。調査区中央部には火葬遺構が集中し、張り出しを西側に揃えている。土壇は点在し、数も少ない。

（1）溝跡

溝跡は 7 条検出された。調査区北辺に沿った第 1 号溝跡と北西の第 7 号溝跡は区画溝と想定される。また調査区南東の東西方向に走行する第 2・

3・6 号溝跡と南北方向に走行する第 4・5 号溝跡は直線的で短い。

第 1 号溝跡（第 38 図）

調査区北辺に沿って東西に走行する溝跡で緩やかな弧を描く。

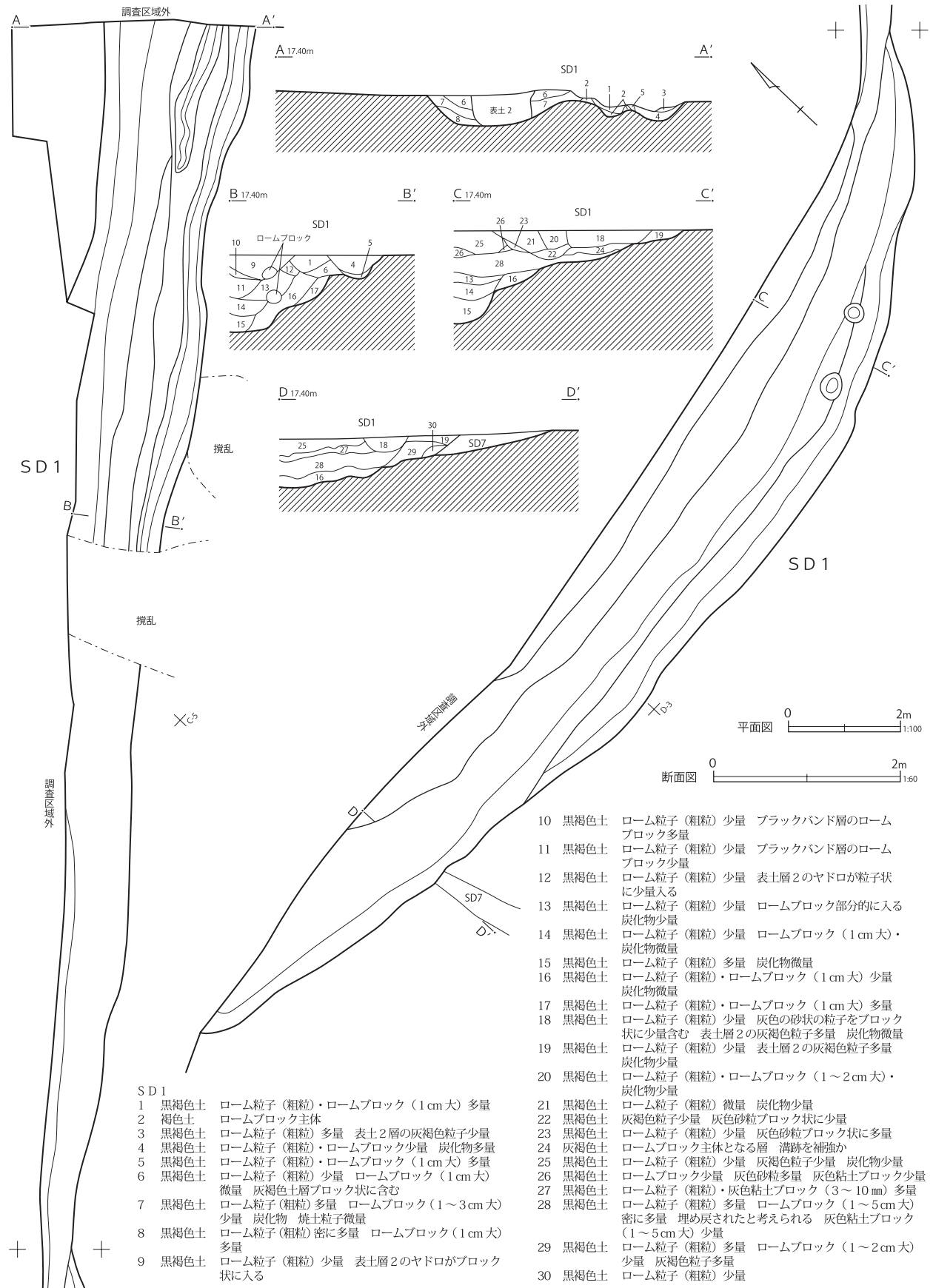
長さ 43.80m、幅 2.08m、深さ 0.50～1.00m の箱堀である。

出土遺物は無いが、並行する現道との関連も想定されるため、近世以降の溝跡と考えられる。

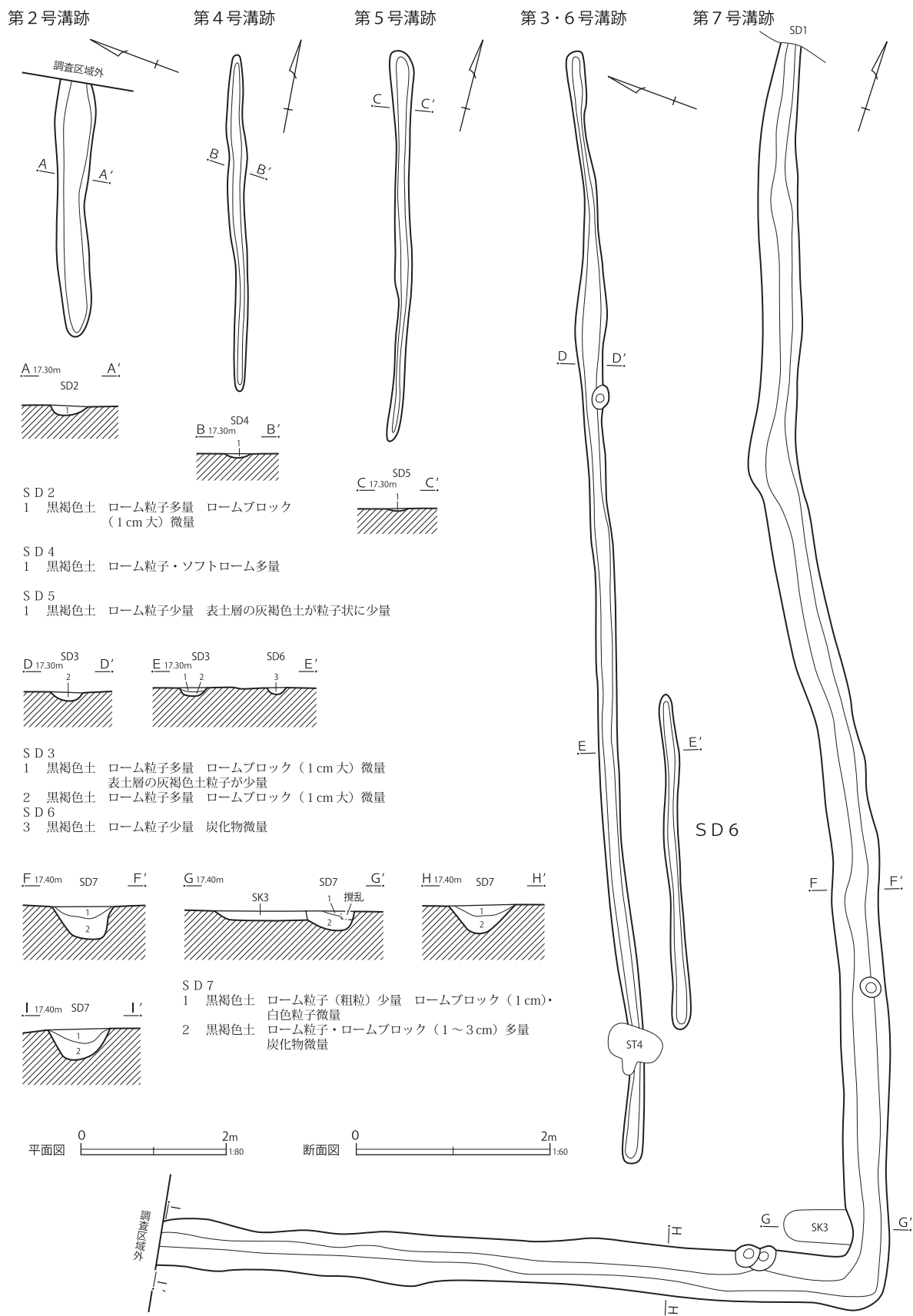
第 2 号溝跡（第 39 図）

東西方向の溝跡で、東側は調査区域外へ延びる。規模は長さ 3.41m、幅 0.56m、深さ 0.02～

楽上Ⅱ遺跡



第38図 第1号溝跡



第39図 第2～7号溝跡

第17表 溝跡一覧表（第38・39図）

No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
1	B-4・5 C-2・3・4	N-51°-E	N-90°-E	(43.80)	2.08	0.50	1.00	0.50	SD7より新 ST4より新
2	E-6	N-70°-E		3.41	0.56	0.38	0.12	0.02	
3	D-6 E-4・5・6	N-66°-E		15.32	0.45	0.28	0.11	0.04	
4	E-5	N-12°-W		4.62	0.24	0.14	0.04	0.01	
5	F・G-5	N-14°-W		5.30	0.32	0.12	0.10	0.03	
6	E-5	N-68°-E		4.60	0.20	0.14	0.08	0.05	SD1より古 SK3より新
7	C・D-2 E-2・3	N-22°-W	N-75°-E	(27.50)	0.70	0.30	0.34	0.30	

0.12m で、断面形は鍋底形を呈する。

遺物は出土しなかった。

第3号溝跡（第39図）

東西方向の溝跡で、重複する第4号火葬遺構よりも新しい。長さ15.32m、幅0.45m、深さ0.04～0.11mを図り、断面形は鍋底形を呈する。

遺物は出土しなかった。

第6号溝跡（第39図）

第3号溝跡に並走する東西方向の溝跡である。長さ4.60m、幅0.20m、深さ0.08mを測り、断面形は逆台形を呈する。

遺物は出土しなかった。

第4号溝跡（第39図）

南北方向の溝跡である。規模は、長さ4.62m、幅0.24m、深さ0.04mで断面形は皿形を呈する。

遺物は出土しなかった。

第5号溝跡（第39図）

南北方向の溝跡である。第4号溝跡と走行方向が類似する。規模は、長さ5.30m、幅0.32m、深さ0.10mを測り、断面形は皿形を呈する。

遺物は出土しなかった。

第7号溝跡（第39図）

調査区の北西部に位置し、直角に屈曲する溝跡である。調査区域外に広がる方形区画が想定される。

重複する第1号溝跡よりも古く、第3号土壇よりも新しい。規模は長さ27.5m、幅0.30～0.70m、深さ0.34mを測り、断面形は鍋底形を呈する。

遺物は出土しなかった。

（2）火葬遺構

火葬遺構は調査区の中央付近に、4基がまとまっていた。平面形態は長方形の主体部に張り出しがとり付いた「T」字状を呈し、張り出し部は西側に設けられる。覆土には炭化物が含まれていた。

第1号火葬遺構（第40図）

E-4グリッドに位置し、火葬遺構群の中で最も南に位置する。主体部は長軸1.13m、幅0.65m、深さ0.22m、張り出し部は長さ0.50m、幅0.3mを測り、主軸方向はN-5°-Eを指す。底面は主体部から張り出し部にかけて徐々に浅くなる。主体部は被熱により焼土化している。

出土遺物はないが、炭化材が底面付近から出土した。主体部の北側と南側に東西方向に揃えたように2本の太い炭化材が据えられていた。炭化材の樹種は、断面観察からクリと推定される。

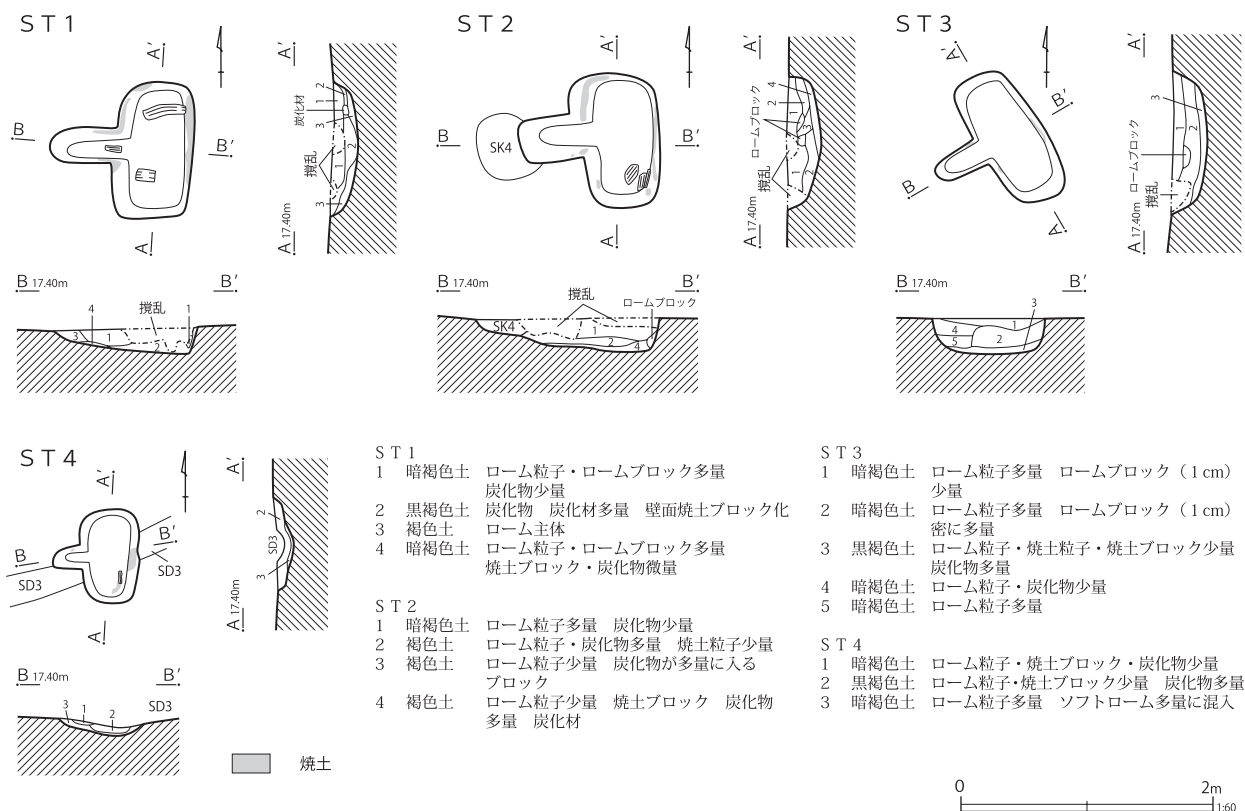
第2号火葬遺構（第40図）

E-4グリッドに位置する。主体部は長軸1.10m、幅0.60m、深さ0.28m、張り出し部は長さ0.40m、幅0.35mを測る。主軸方向はN-0°-Eを指す。底面は主体部から張り出し部にかけて緩やかに浅くなる。主体部は被熱により焼土化している。

遺物は出土しなかったが、南東隅の底面から炭化材が検出された。炭化材の樹種は、断面観察からクリと推定される。

第3号火葬遺構（第40図）

E-4グリッドに位置する。主軸方向はN-30°-Wを指す。主体部は長軸1.13m、幅0.50m、深さ0.29m、張り出し部は長さ0.40m、幅0.20m



第 40 図 第 1 ～ 4 号火葬遺構

第 18 表 火葬遺構一覧表 (第 40 図)

No.	グリッド	長軸方向	主体部			張り出し部		重複遺構
			長軸	幅	深さ	長さ	幅	
1	E-4	N-5°-E	1.13	0.65	0.22	0.50	0.30	(SK5から変更)
2	E-4	N-0°-E	1.10	0.60	0.28	0.40	0.35	(SK6から変更)
3	E-4	N-30°-W	1.13	0.50	0.29	0.40	0.20	(SK7から変更)
4	E-4	N-5°-E	0.75	0.45	0.14	0.20	0.15	SD3より古 (SK8から変更)

を測る。底面は他の 3 基とは異なり、主体部から張り出し部まで平らに延び、先端で急峻に立ち上がる。主体部は被熱により焼土化している。

遺物は近代の陶磁器片が出土した。

第 4 号火葬遺構 (第 40 図)

E-4 グリッドに位置し、重複する第 3 号溝跡よりも古い。主体部長軸 0.75m、幅 0.45m、深さ 0.14m、張り出し部は長さ 0.20m、幅 0.15m を測り、長軸方向は N-5°-E を指す。他の 3 基よりも掘込みが浅く、残存状態が悪かった。底面は主体部から張り出し部にかけて徐々に浅くなる。主体部は被熱により焼土化している。

遺物は出土しなかった。

(3) 土壇

第 1 号土壇 (第 41 図)

調査区南側の F-5 グリッドに位置する。

平面形態は楕円形を呈し、中央部が円形に一段掘り込まれる。

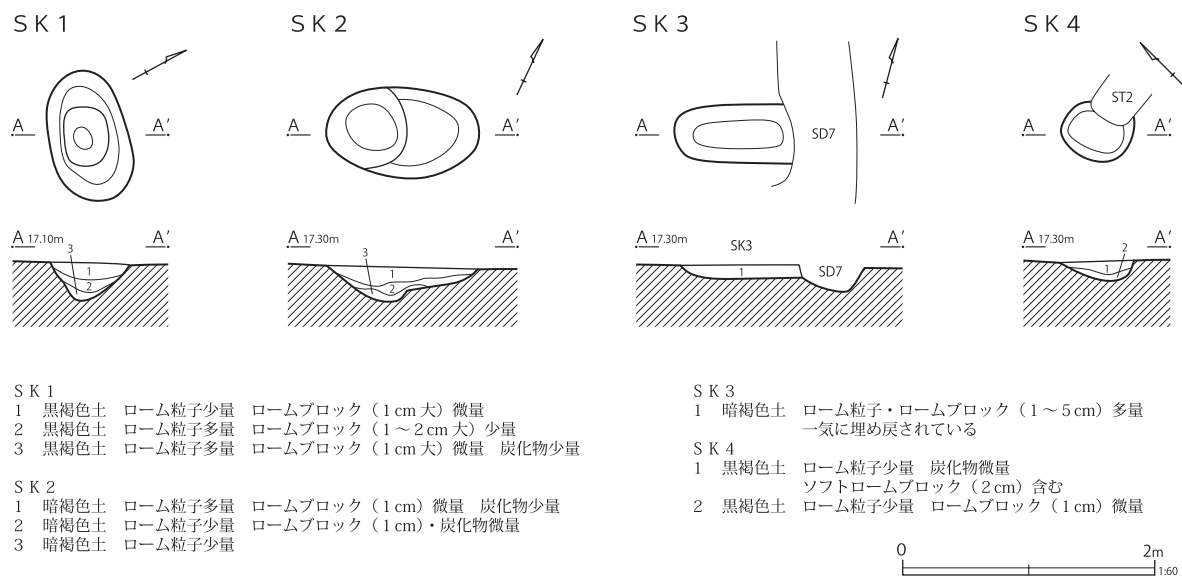
規模は長径 1.05m、短径 0.63m、深さ 0.32m を測り、長軸方向は N-75°-W を指す。

遺物は出土しなかった。

第 2 号土壇 (第 41 図)

調査区中央付近の E-5 グリッドに位置する。

平面形態は楕円形を呈し、東側が浅くなる。規模は長径 1.21m、短径 0.73m、深さ 0.23m を測り、長軸方向は N-65°-E を指す。



第 41 図 土壌

第 19 表 土壌一覧表（第 41 図）

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
1	F-5	楕円形	N-75°-W	1.05	0.63	0.32		3	E-3	楕円形	N-74°-E	(0.93)	0.45	0.11	SD7
2	E-5	楕円形	N-65°-E	1.21	0.73	0.23		4	E-4	楕円形	N-45°-W	0.57	(0.46)	0.13	ST2

遺物は出土しなかった。

第 3 号土壌（第 41 図）

調査区西側の E-3 グリッドに位置する。東端に重複する第 7 号溝跡よりも古い。

平面形態は横に長い隅丸長方形を呈す。規模は長径 0.93m、短径 0.45m、深さ 0.11m を測り、長軸方向は N-74°-E を指す。

遺物は出土しなかった。

第 4 号土壌（第 41 図）

E-4 グリッドに位置する。重複する第 2 号火葬遺構の張り出し部よりも新しい。

平面形態は隅丸方形を呈す。規模は長径 0.57m、短径 0.46m、深さ 0.13m を測り、長軸方向は N-45°-W を指す。

遺物は出土しなかった。

VI 薬師堂遺跡の調査

1. 調査の概要

薬師堂遺跡は、桶川市西部の荒川を西に臨む大宮台地上に位置する。東側は江川によって浸食された小支谷が発達し、樹枝状に形成された小台地に立地する。標高は約 16m である。

遺跡の東側には、鎌倉時代の本造十一面観世音菩薩立像を安置する天台宗東光寺が接する。江戸時代の地誌『新編武蔵風土記稿』には、東光寺の西側に「西光寺」が存在していたと記されている。今回の調査で検出された中・近世の区画溝との関連が考えられる。

調査では平安時代の住居跡 1 軒、中・近世の井戸跡 12 基、溝跡 26 条、地下式坑 7 基、土壌 210 基、竪穴状遺構 1 基を検出した（第 43 図）。

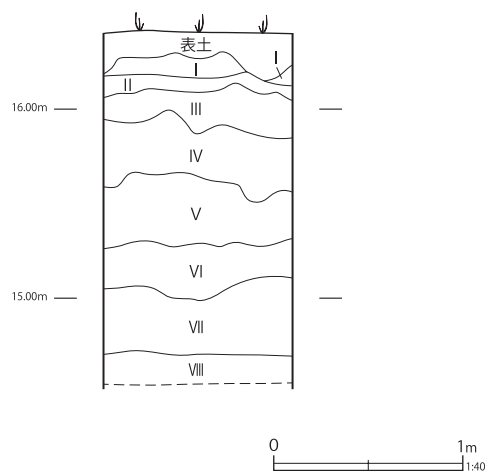
平安時代の住居跡は、調査区東側に位置する。出土遺物が少なく時期は不詳であるが、住居形態から平安時代の可能性が高い。

中・近世の遺構は調査区全域から検出された。調査区の中央付近には、直角に屈曲する区画溝がある。これを境とする内外で、遺構の配置や構成が大きく異なっている。区画の外側には、長方形の土壌が規則的に並び、土壌墓群の可能性もある。区画の内側からはピットが多く検出され、配列を把握することはできなかったが、小規模な建物が存在した可能性がある。また井戸跡や地下式坑・土壌が検出されていることから、居住的な空間であった可能性がある。井戸跡と地下式坑は、調査区北側に分布する。また円形の土壌は、堆積状況や古銭の出土から、座棺を埋葬した土壌墓と考えられる。

遺物は陶磁器・瓦質土器・かわらけ・砥石・鉄製品・銭貨・板碑等が出土し、板碑は約 300 点を数える。板碑はすべて破損したもので、被熱しているものや、破損部を砥具として二次利用して

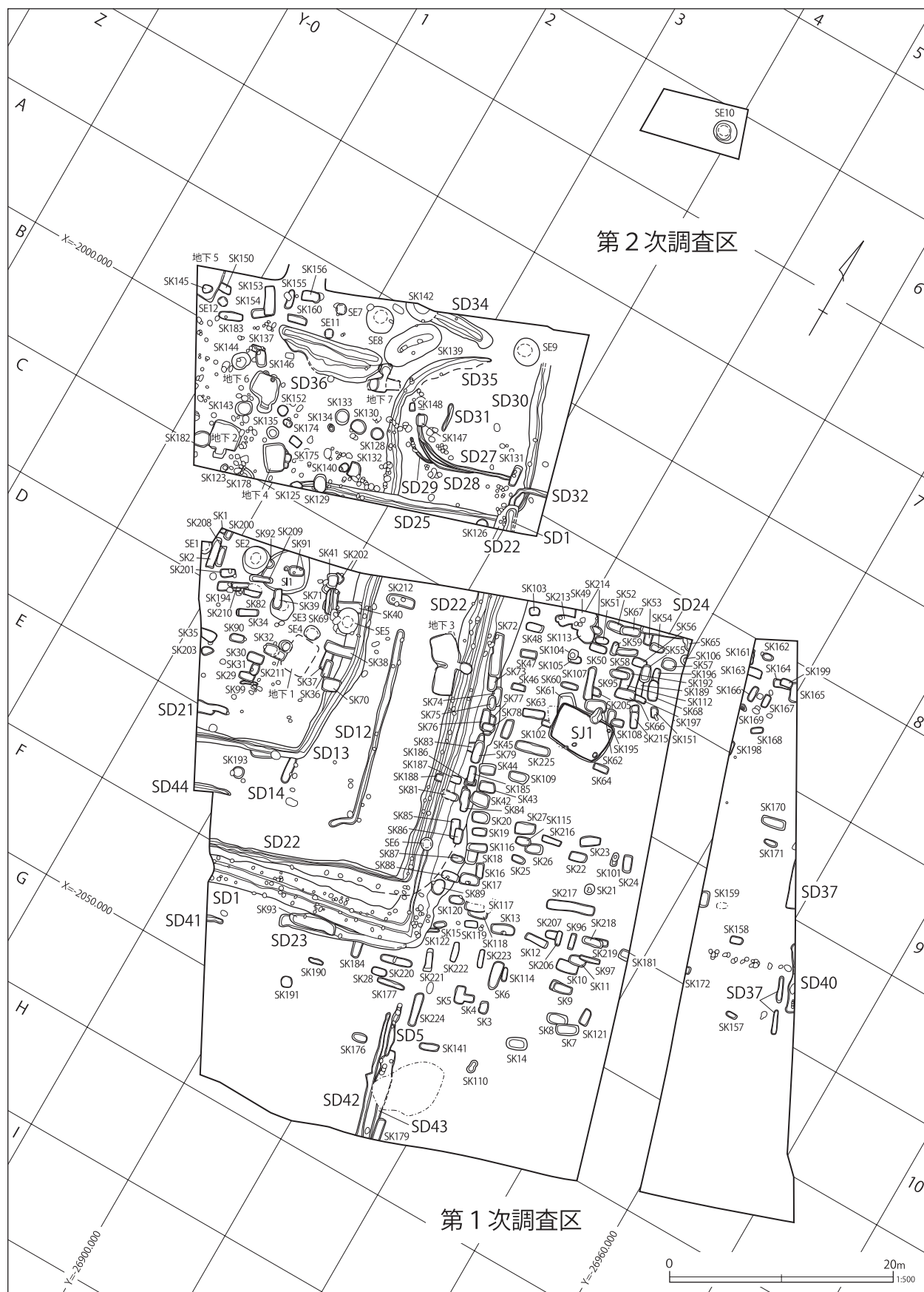
いるものがある。陶磁器類は 15 世紀代のものと 17 世紀代のものに大別される。区画の内外双方から 2 時期の遺物が出土している。中でも区画溝から 15 世紀代と 17 世紀代の遺物が発見されていることから、長期間にわたって機能していたと考えられる。

基本土層は第 42 図に示した。中・近世の遺構は第Ⅲ層から確認される。表土層が現代の耕作土、第Ⅰ～Ⅱ層が近世以降の耕作客土の「ヤドロ」、第Ⅲ層が中・近世の耕作土と推測される暗褐色土、第Ⅳ層がソフトローム、第Ⅴ層が第 1 黒色帯、第Ⅵ・Ⅶ層が第 2 黒色帯、第Ⅷ層がハードロームである。武蔵野台地標準層位（Ⅲ～Ⅹ層）に概ね相当する。



I	灰黄褐色土	ヤドロ（上） 酸化鉄を中量含む 酸化によって断面は赤みを帯びる シルト質 しまり強い 粘性弱い
II	黄灰色土	黄灰色ヤドロ粒子（～2mm）微量 しまり・粘性強い シルト質
III	黒褐色土	ローム粒子（～2mm）少量 炭化物（～1mm）・黄灰色ヤドロブロック（～10mm）微量 しまり強い 粘性弱い
IV	黄褐色土	植物根や水分の影響で柔らかい しまり・粘性強い（立川ロームⅢ・Ⅳ層）
V	黄褐色土	第1黒色帯（立川ロームⅤ層）
VI	にぶい黄褐色土	第2黒色帯（立川ロームⅥ層）
VII	暗褐色土	第2黒色帯（立川ロームⅦ層）
VIII	黄褐色土	立川最下部ローム しまり・粘性強い（立川ロームⅩ層）

第 42 図 基本層序



第43図 全体図

2. 縄文時代の遺物

(1) グリッド出土遺物

薬師堂遺跡のグリッドからは、縄文時代早期後葉から後期前葉にかけての土器片や石器が検出されている。

第Ⅰ群土器（第45図3～21・25）

早期の土器群を一括する。25は撚糸文系土器群の底部付近の破片であり、ランダム方向の撚糸Lが密に施文される。3～21は早期後葉の条痕文系土器群で、大半が野島式土器に比定される。3・4は細隆起線で区画され、集合沈線が充填施文される胴部破片である。5・6は口縁部破片で、7～20は胴部破片、21は乳房状の尖底である。

第Ⅱ群土器（第45図22～24）

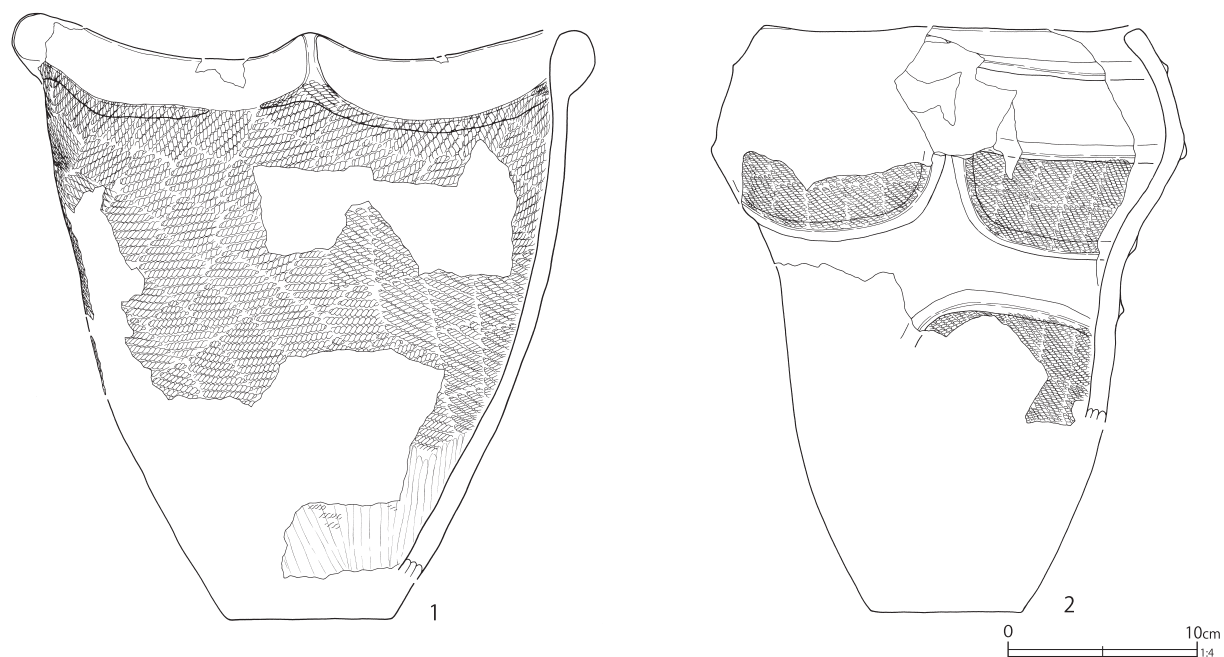
前期の土器群を一括する。22は2段LRの原体側面圧痕が施される前期初頭の花積下層式土器である。やや間隔を空けて斜位の刺突文列が施文される。23・24は前期終末の土器群である。23は内折して開く口縁部に、幅広で低い隆帯が口唇上から比較的間隔を狭めて垂下される十三菩提式土器である。24は細かな縄文LRが施文される十三菩提式に伴う縄文施文土器と思われる。

第Ⅲ群土器（第45図26～29・31～34・39～44・47～59）

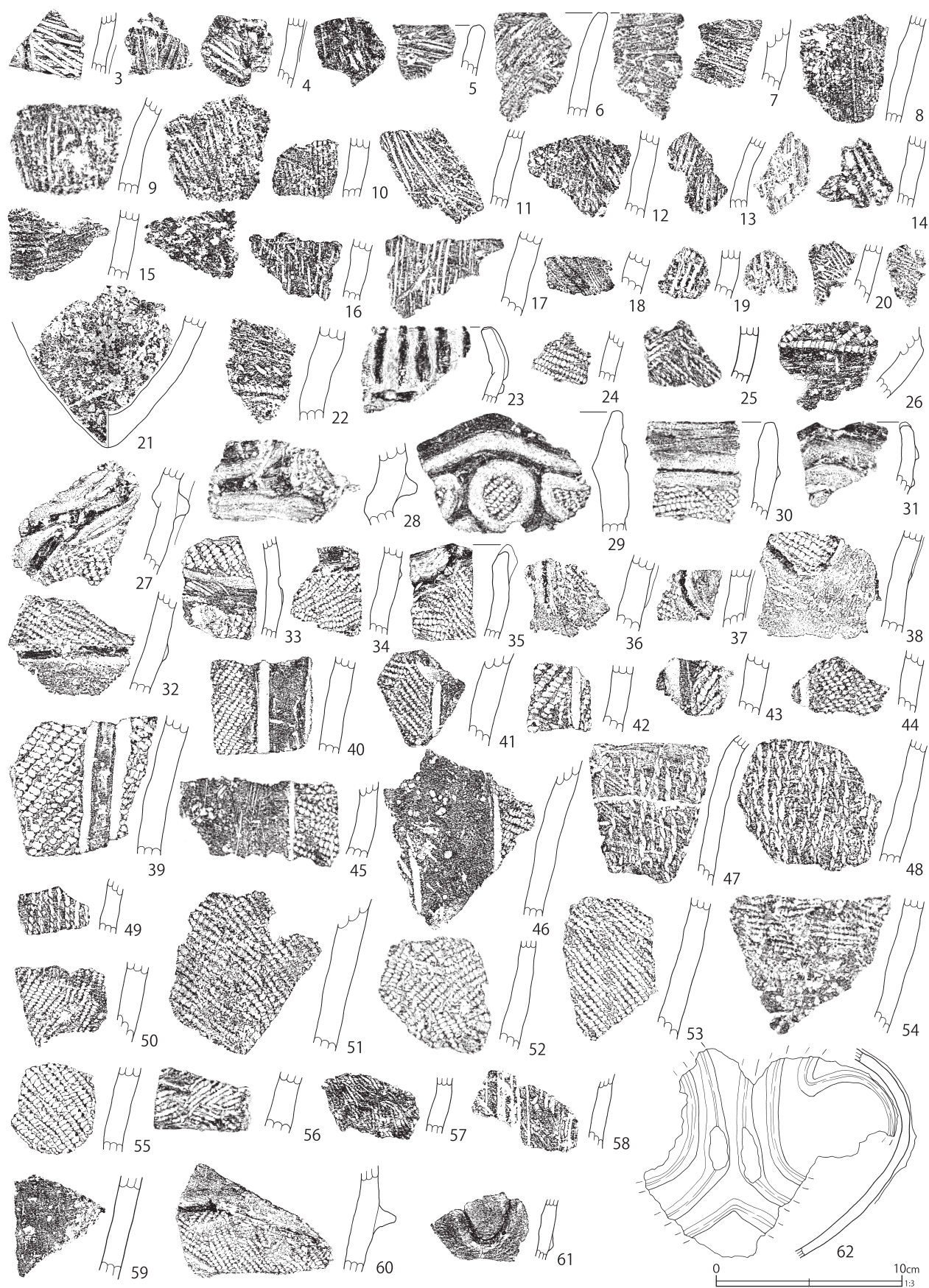
中期の土器群を一括する。26は結節沈線で鋸歯状文を描く勝坂式土器である。27～29・31～34・39～44・47～59は加曽利EⅢ式土器である。27～29・32～34は口縁部文様帯の破片で、39～44は磨消懸垂文が垂下される胴部破片である。47～49は地文のみもしくは無文の胴部破片ある。35～38・45・46・60～62は加曽利EⅣ式土器で、35～38は微隆起線でモチーフが描かれる土器群、35は4単位の波状口縁土器、45・46は幅広の無文懸垂文が垂下される。60は両耳壺と思われる。61・62は2本1対の微隆起線で連結する渦巻文が施文される壺形、もしくは瓢形土器の胴部破片である。

第Ⅳ群土器（第44図1・46図63～100）

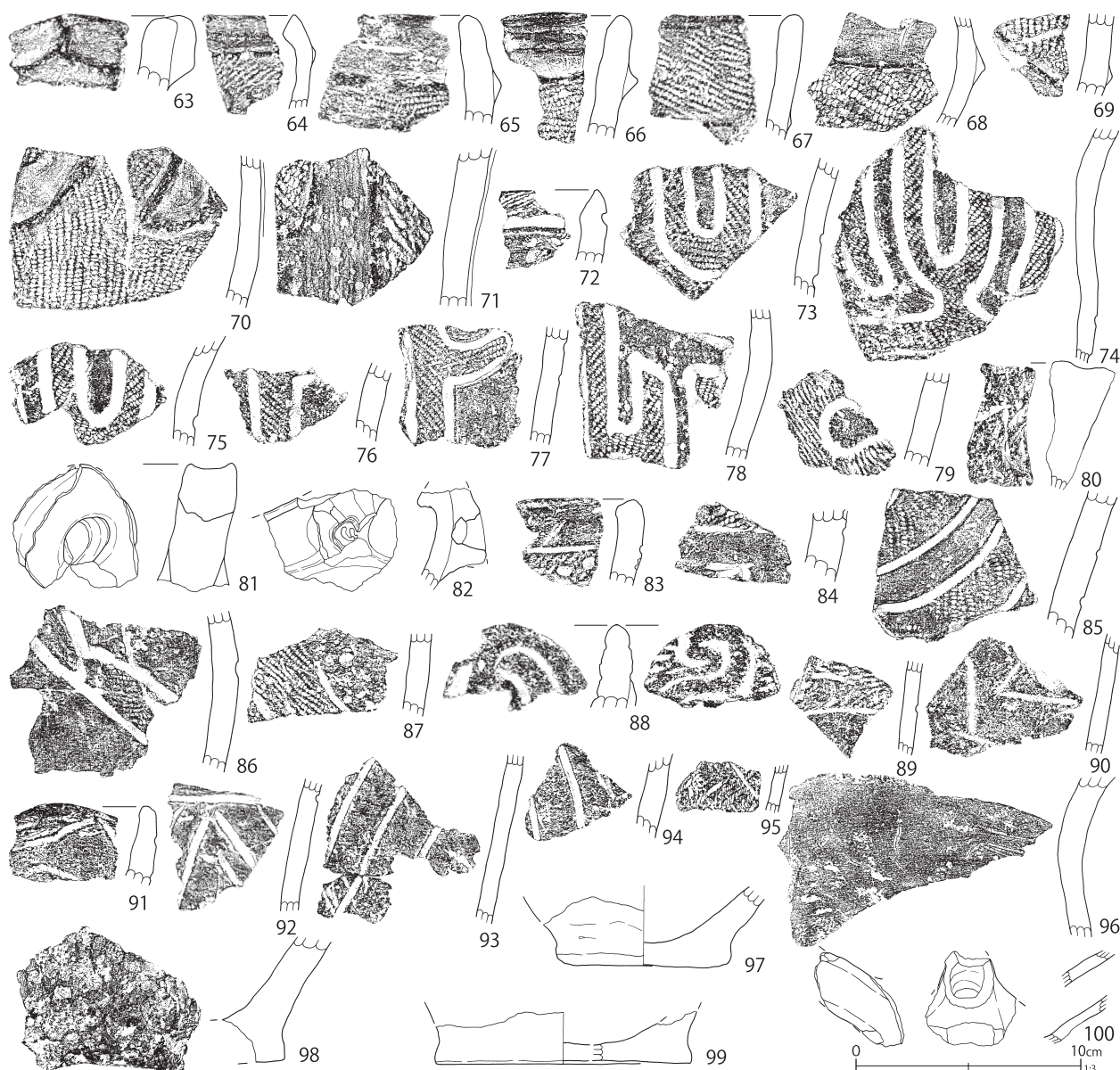
後期初頭から前葉の土器群を一括する。1・63～71は加曽利EⅣ式系の後期まで下と考えられる土器群である。口縁部無文帯区画や文様描出が微隆起線で行われる土器群である。1は4単位の緩い波状口縁が楕円形を呈する器形で、推定口



第44図 グリッド出土遺物（1）



第45図 グリッド出土遺物(2)



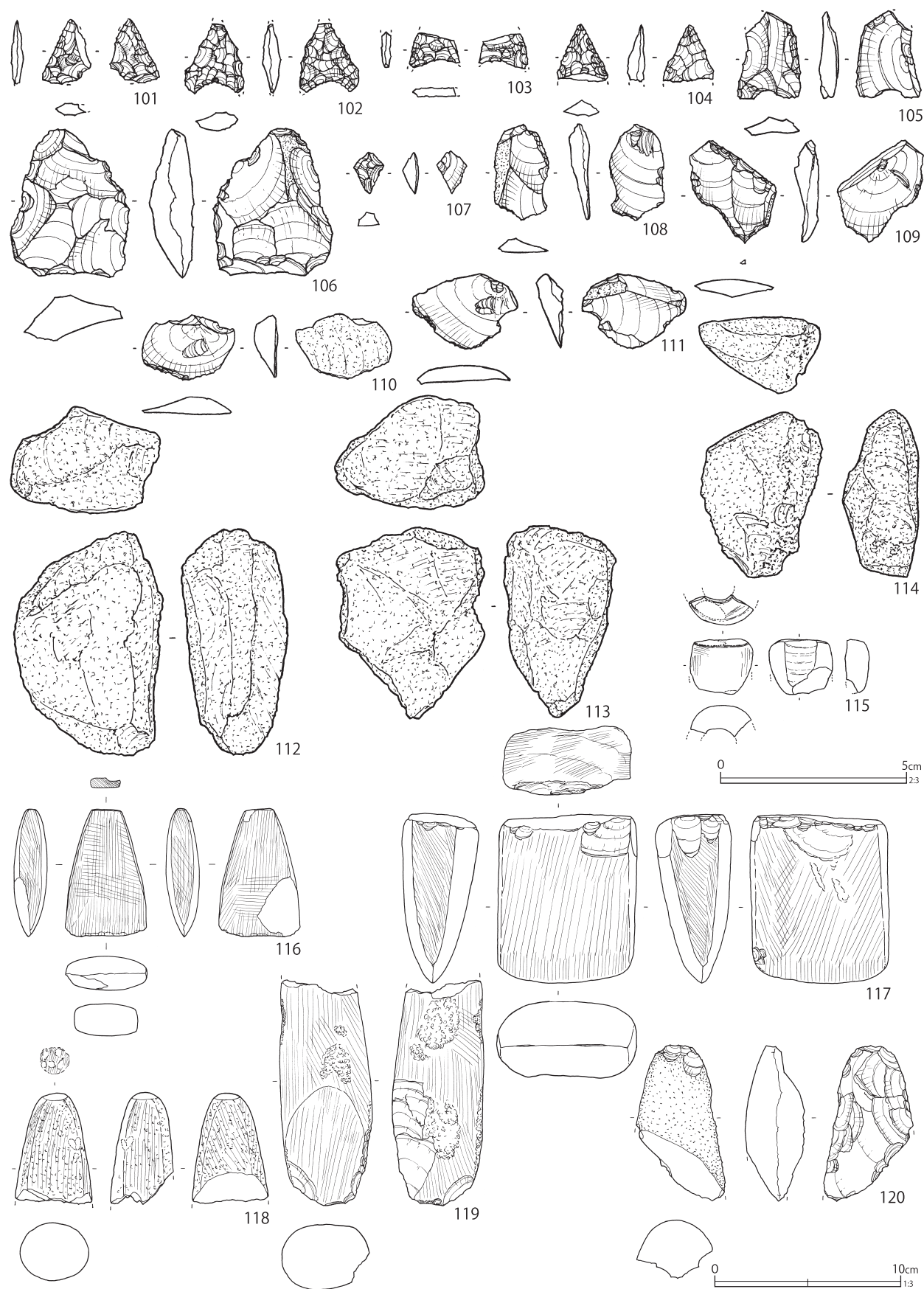
第46図 グリッド出土遺物（3）

径 29 cm、現存高 28 cmを測る。73～79 は深い角状の沈線で抱球文や「J」字状文が描かれる中津系の称名寺式土器である。2 は緩い波状口縁のキャリパー形で、口縁に無文帯を持つ関沢類型の土器である。頸部に弧状の区画文、胴部に横「J」字状の区画文を持つ。推定口径 20 cm、現存高 22 cmを測る。80 は筒状の、81・82 は口縁部に付く捻れた橋状把手である。83 は刺突文が施される口縁部破片、84～87 は磨消の「J」字状文を持つ胴部破片である。88～96 は堀之内Ⅰ式土器と思われる土器群である。97～99 は底部破片で、100

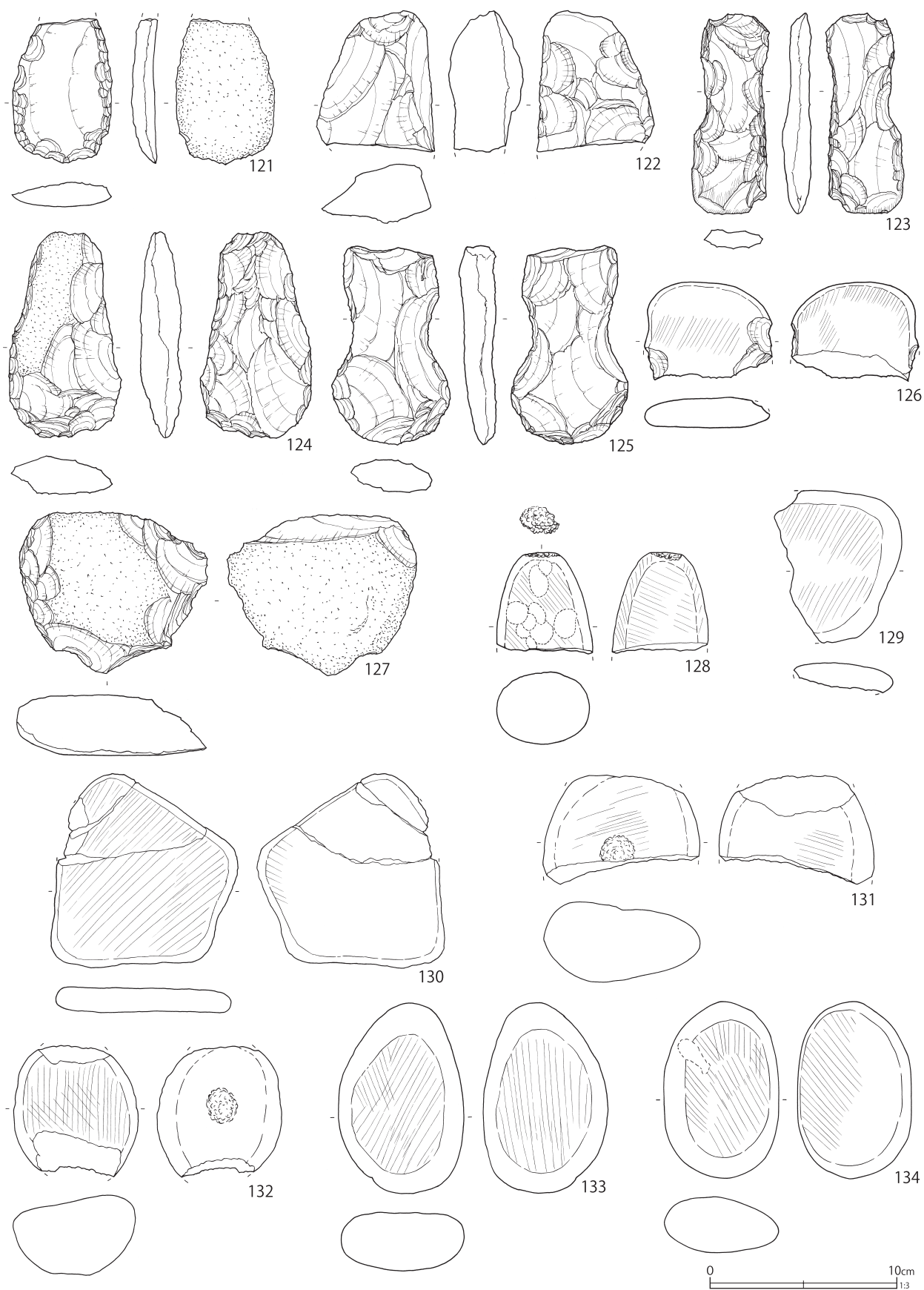
は瓢形と思われる注口土器の注口部の破片である。

石器（第47～49図 101～147）

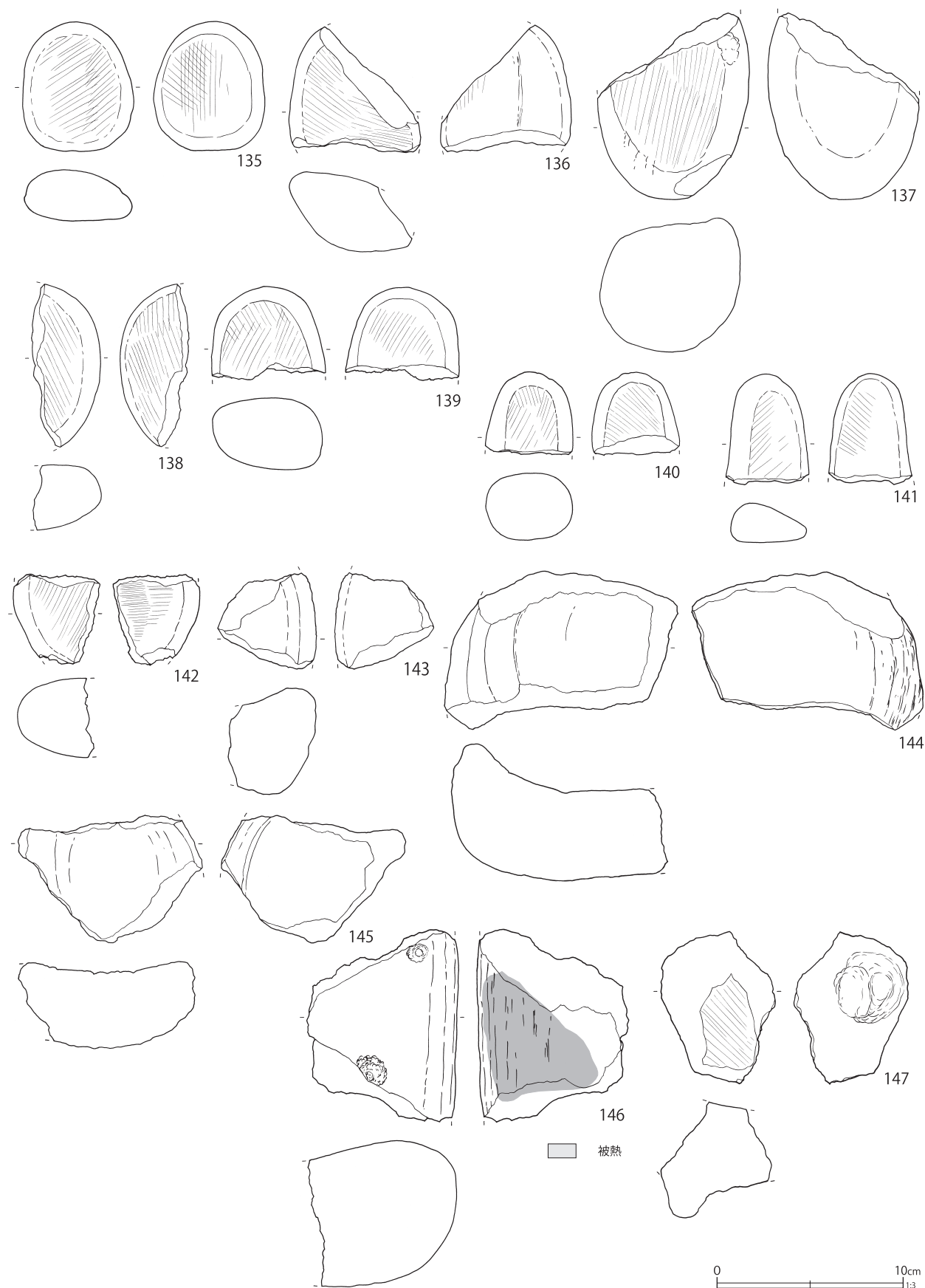
101～147 は出土した石器である。101～106 は石鏃である。105・106 は未製品の可能性が高い。107・109 は石錐である 108・110・111 は搔・削器である。112～114 は原石である。拳大より一回り小さな黒曜石の角礫である。115 は垂飾品の白玉で、縦方向に欠損している。116～118 は磨製石斧である。120～125 は打製石斧である。126・129・131～142 は磨石である。143～147 は石皿である。



第47図 グリッド出土遺物(4)



第48図 グリッド出土遺物(5)



第 49 図 グリッド出土遺物 (6)

第20表 グリッド出土石器観察表(第47～49図)

番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
101	石鏃	黒曜石	1.7	[1.3]	0.3	0.5	SK62	29-2
102	石鏃	黒曜石	[1.8]	1.6	0.5	0.9	SE12	29-2
103	石鏃	黒曜石	[0.9]	[1.3]	[0.3]	0.3	SD42	29-2
104	石鏃	黒曜石	[1.5]	[1.4]	0.5	0.6	SK22 欠損後の調整あり	29-2
105	石鏃(未製品)	黒曜石	2.3	1.7	0.5	1.5	SE2 打面あり	29-2
106	石鏃(未製品)	チャート	3.9	3.2	1.2	13.8	SE3	29-2
107	石錐	黒曜石	1.1	0.8	0.4	0.2	SJ1 C-5 一括	29-2
108	スクレイパー	黒曜石	2.5	1.5	0.5	1.3	SK139 下層	29-2
109	石錐	黒曜石	2.7	2.3	0.7	2.4	C-6	29-2
110	スクレイパー	黒曜石	1.7	2.5	0.6	1.8	SK49	29-2
111	スクレイパー	黒曜石	2.0	2.8	0.7	2.6	SD34 微細剥離痕あり	29-2
112	原石	黒曜石	6.0	4.0	2.8	66.7	SD36	29-2
113	原石	黒曜石	5.1	4.0	3.0	59.5	SD1 No.60	29-2
114	原石	黒曜石	4.4	3.3	2.1	25.1	SK129	29-2
115	白玉	滑石	0.8	1.7	1.5	2.9	表採 ガジリ・穿孔あり	29-2
116	磨製石斧	緑色岩	6.8	4.4	1.8	78.3	地下式坑2 No.13 完形	30-1
117	磨製石斧	砂岩	9.0	7.5	3.9	450.2	SE7 C-4 No.1 全面研磨明瞭 断面楕円形	30-1
118	磨製石斧	緑色岩	[6.0]	[4.2]	[3.4]	107.8	B-1 P1 乳棒状 断面楕円形 欠損あり (一部残存)	30-1
119	敲石	緑色岩	[12.1]	[5.0]	3.7	336.9	SD13 No.1 平面棒状 断面楕円形 欠損あり (一部残存)	30-1
120	打製石斧	ホルンフェルス	8.4	4.8	3.2	104.9	SD1 No.13	30-1
121	打製石斧	砂岩	[7.8]	5.3	1.4	67.0	SD1 平面楕円形 欠損あり (一部残存)	30-1
122	打製石斧	ホルンフェルス	[7.5]	[6.3]	[4.0]	176.0	SD1 欠損あり (一部残存)	30-1
123	打製石斧	ホルンフェルス	10.7	4.2	1.6	81.7	SD1 平面短冊形 完形 自然面あり	30-1
124	打製石斧	ホルンフェルス	11.0	6.0	2.2	147.4	F-5 平面楕円形 完形	30-1
125	打製石斧	ホルンフェルス	10.6	6.4	2.0	138.3	SD1 E-4 No.31 平面分銅形	30-1
126	磨石	砂岩	[5.2]	[6.8]	1.7	84.0	SD1 E-4	30-1
127	礫器	ホルンフェルス	8.7	10.1	3.3	323.0	SD1 B・C-4 完形	30-1
128	敲石	安山岩	[5.4]	[5.2]	[4.1]	150.6	SD36 攪乱 部分的敲打痕明瞭 断面円形 欠損あり (一部残存) 正面剥離あり 基部は研磨あり	30-1
129	磨石	安山岩	[8.2]	[6.8]	[2.1]	119.2	SD1	30-1
130	砥石	砂岩	10.4	10.1	1.4	180.9	F-5 断面隅丸長方形	30-1
131	磨石	安山岩	5.8	[8.4]	4.1	216.9	SD1	30-1
132	磨石	安山岩	[7.0]	6.7	4.2	259.6	B-1 P1	30-1
133	磨石	安山岩	10.2	6.7	3.3	359.2	地下式坑6 完形	30-1
134	磨石	砂岩	9.4	6.1	3.1	258.6	SD1 D-4 完形	30-1
135	磨石	安山岩	6.9	6.0	2.9	147.8	SD1 D-4 完形	30-2
136	磨石	砂岩	6.8	7.3	4.1	210.7	SK140 B-2 欠損あり (一部残存)	30-2
137	磨石	安山岩	[10.0]	8.2	[7.2]	626.8	A-2 一括 欠損あり (一部残存)	30-2
138	磨石	安山岩	[8.7]	[3.7]	3.7	127.5	SD1	30-2
139	磨石	閃緑岩	[5.0]	6.2	3.9	172.1	SD1 D-4 6層	30-2
140	磨石	安山岩	[4.4]	[4.7]	3.6	108.4	SE3 1～4層	30-2
141	磨石	安山岩	[5.9]	[4.5]	2.2	79.0	SK144	30-2
142	磨石	安山岩	[4.8]	[4.7]	4.3	130.4	SD36 上層	30-2
143	石皿	安山岩	[5.2]	[5.3]	5.7	144.8	SD1 欠損あり (一部残存)	30-2
144	石皿	安山岩	[8.5]	[12.6]	[7.4]	765.9	SE8 下層 欠損あり (一部残存)	30-2
145	石皿	安山岩	[8.2]	[8.0]	[5.5]	305.7	SD13 D-3 欠損あり (一部残存)	30-2
146	石皿	閃緑岩	[10.2]	[8.2]	7.9	741.9	SE3 1～4層 欠損あり (一部残存) 一部被熱 黒色化	30-2
147	石皿	安山岩	[8.2]	[6.2]	[6.3]	233.6	SD1 脚部あり 欠損あり (一部残存) 被熱 赤化	30-2

3. 平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構は、第1次調査区北西から住居跡1軒のみが検出された。他に同じ時期の遺構・遺物は少ない。小河川によって樹枝状に開析された小支谷に、数軒で構成される小規模集落が想定される。

(1) 住居跡

第1号住居跡（第50図）

第1次調査区の北東側、C-5グリッドに位置する。重複する第61・62・195号土壌よりも古い。

住居跡の平面形態は長方形を呈し、カマドは北壁に設けられる。住居跡の規模は主軸長3.70m、東西長5.45m、深さ0.05～0.10mを測り、主軸方位はN-1°-Wを指す。住居の北半部には硬化した貼床が確認された。覆土の断面観察では、壁際から堆積した状況が見られる。

カマドは長辺の北壁中央からやや東寄りに設置される。壁を大きく掘り込んで造られ、燃焼部の平面形態は鶏卵形で、奥壁に向かって窄まってい

る。袖は断面の第24・25層が痕跡として捉えられるが、平面では検出されなかった。また、袖の位置にも壁溝が廻ることから、住居内への袖の張り出しは短かったと予想される。カマドの規模は長さ1.55m、幅0.53m、深さ0.20mを測る。

壁溝は住居内を全周し、幅0.13～0.25m、深さ0.10mを測る。

ピットは4基検出された。北東・南東隅のピット1・2は柱穴の可能性がある。カマドの対面の南壁際に位置するピット3・4は、出入口施設との関連が考えられる。特にピット4は、他のピットよりも深い。

遺物は少ない。土師器坏の細片が数点出土した程度で、いずれも図示し得ない。

住居跡の具体的な時期は不詳であるが、台地の小支台に点在するあり方や、燃焼部のほとんどが壁外に張り出すカマド形態から、平安時代の可能性がある。

4. 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、井戸跡12基、溝跡26条、地下式坑7基、土壌210基、竪穴状遺構1基が検出された。

第1・22号溝跡と第13号溝跡は調査区の中央部付近で直角に屈曲し、大きな区画を形成している。

両溝跡の間には幅10～12m程の間隔があき、遺構も極めて希薄なことから、区画に沿った空閑地があったものと考えられる。

区画の外側には土壌と溝跡が分布するが、建物跡や井戸跡等はない。区画溝の外側には、多くの長方形の土壌が溝跡に沿って並ぶ。特に区画溝の外側の第1号溝跡に沿って多く見られる。土壌の規模は異なるが、長軸方位が近似するため、同じ性格を持った土壌群と考えられる。

区画溝の内側には土壌と井戸跡・溝跡・地下式坑などが存在し、外側とは構成が異なる。井戸跡がまとまった分布を示し、水が必要な施設の存在を想起させられる。

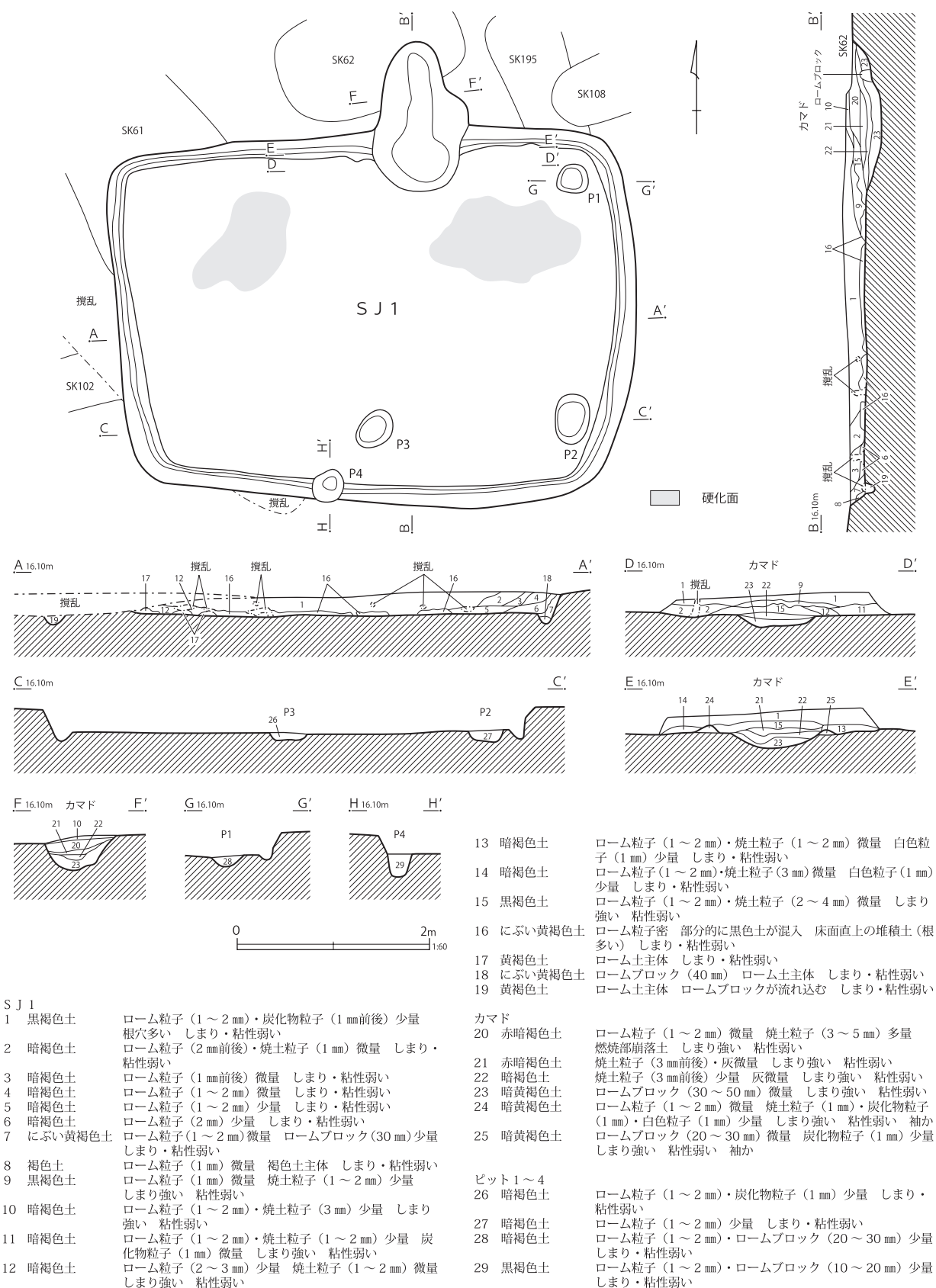
地下式坑は入口の方向に統一性は見られないが、区画の中に設けられた地下貯蔵施設と考えられる。

土壌は方向に規則性は認められず、形態や規模も統一性が無く多様性に富む。

このように、区画溝の内側と外側では遺構の様相が大きく異なり、性格の異なる空間として機能していたと考えられる。

(1) 井戸跡

井戸跡は12基検出され、全てが素掘りの井戸である。いずれも区画溝の西側に位置することか



第 50 図 第 1 号住居跡

ら、区画の内側に水が必要な施設の存在を想定できる。

第1号井戸跡（第51図）

第1次調査区の北西隅、C-1グリッドに位置する。南西部と北西部は調査区域外に続く。想定される平面形態は円形で、断面形は緩やかな漏斗状に掘り込まれる。残存する規模は、長径1.05m、短径0.70mを測る。

出土遺物には、古瀬戸播鉢（第54図1）・常滑焼甕・瓦質土器香炉・板碑片（4）とともに、肥前系陶器京焼風碗（2）・志野水指（3）・肥前磁器鶴頸瓶頸部等がある。肥前磁器の年代から18世紀以降に埋没したものと考えられる。

第2号井戸跡（第51図）

第1号井戸跡の東側、C-2グリッドに位置する。重複する第92号土壌よりも新しい。平面形態は円形、断面形は上端付近の壁の崩落により漏斗状を呈する。規模は長径2.50m、短径2.30mを測る。

出土遺物には、15世紀の内耳鍋やかかわらけが含まれている。また、瀬戸美濃系陶器丸皿（第54図5）・瓦質土器焙烙（7）等の16～17世紀の遺物があることから、17世紀前葉頃に埋没したと考えられる。8は砥石で、側面の成形時のノミ状工具痕が顕著である。一方、表裏面にはこれらと異なる工具痕も認められる。

第3号井戸跡（第51図）

第2号井戸跡の南西側、C-2・3、D-2・3グリッドに位置する。重複する第39号土壌よりも古い。平面形態は不整円形、断面形は上端壁面の崩落により漏斗状を呈し、南東側の崩落が激しい。規模は長径2.30m、短径2.05mを測る。遺物の大半が第2・3層中から出土している。

第54図10～13はかわらけである。10は底径が大きく、見込み部を弱く回転ナデして窪ませる。11は底部に板状圧痕が認められ、見込み部は一方方向からの指頭ナデで仕上げる。14・15は瓦質

土器の播鉢で、酸化気味に焼成される。18は明德五年（1394）銘が残る板碑破片で、異体字のキリーク種子を主尊とする。19は常滑焼を打ち欠いた円盤状製品である。出土遺物から、15世紀後半頃に埋没したと考えられる。

第4号井戸跡（第51図）

第3号井戸跡の東側、C-2グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形に近い円形、断面はほぼ垂直に掘り込まれている。規模は長径1.35m、短径1.21mを測る。

第5号井戸跡（第52図）

第4号井戸跡の東側、C-3グリッドに位置する。重複する第13号溝跡よりも古い。平面形態は楕円形、断面形は上端壁面の崩落により漏斗状を呈し、規模は長径2.30m、短径1.90mを測る。

第6号井戸跡（第52図）

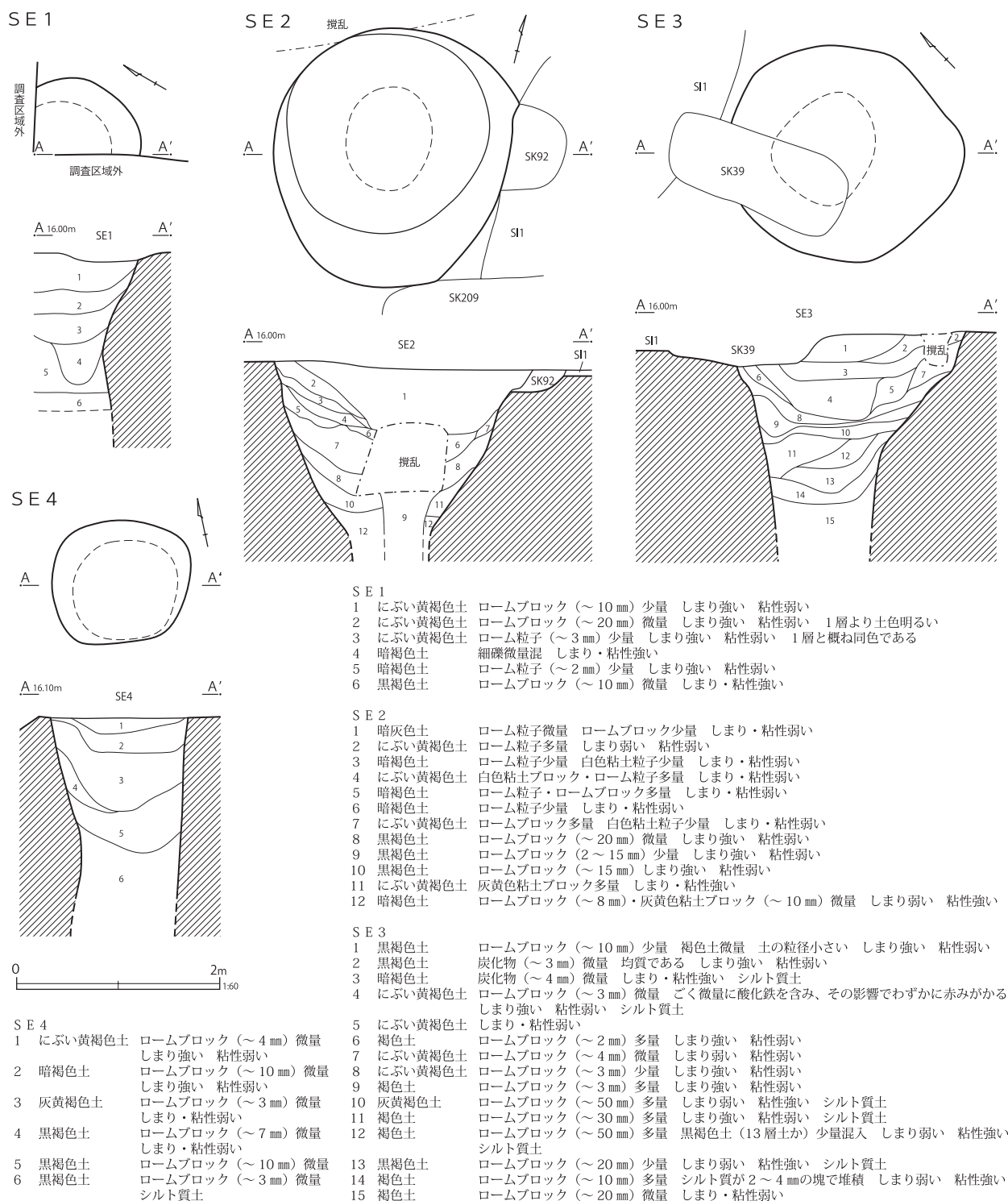
第1次調査区の中央部、E-4グリッドに位置する。第1・22号溝跡と重複する。第1号溝跡の埋没途中に掘られ、第22号溝跡の掘削に伴って埋め戻されたものと推察される。平面形態は円形、断面はほぼ垂直に掘り込まれ、規模は長径1.15m、短径1.05mを測る。

出土遺物には、15世紀頃の内耳鍋も認められるが、黄瀬戸釉を掛けた瀬戸美濃系陶器の皿（第55図25）、胎土が粗く器高の低いかわらけ（27）・瓦質土器焙烙が含まれ、埋没時期は17世紀以降の可能性が高い。

第7号井戸跡（第52図）

第2次調査区の北側、A-1グリッドに位置する。平面形態は円形、断面はほぼ垂直に掘り込まれる。規模は長径1.00m、短径0.90mを測る。

出土遺物は少ないが（第55図）、かわらけ（29）・板碑の破片（30・31）・鉄製品（32）がある。29のかわらけの底部には円孔状の欠失部があるが、意図的な穿孔か否か不明である。30の板碑の銘文は、「応永（1394～1427）」と考えられる。他の板碑は概ね14世紀後半頃と考えられる。



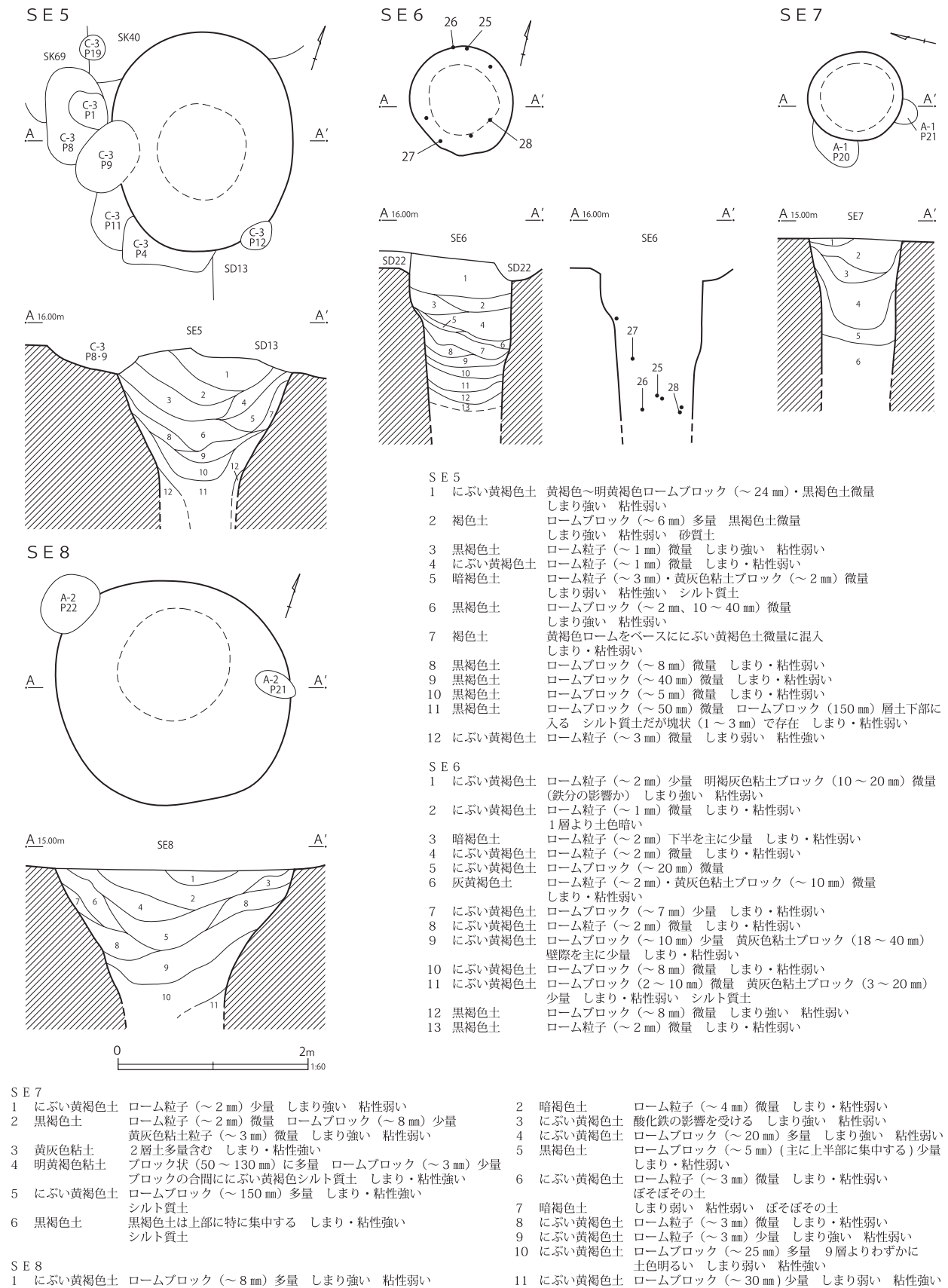
第51図 井戸跡（1）

第8号井戸跡（第52図）

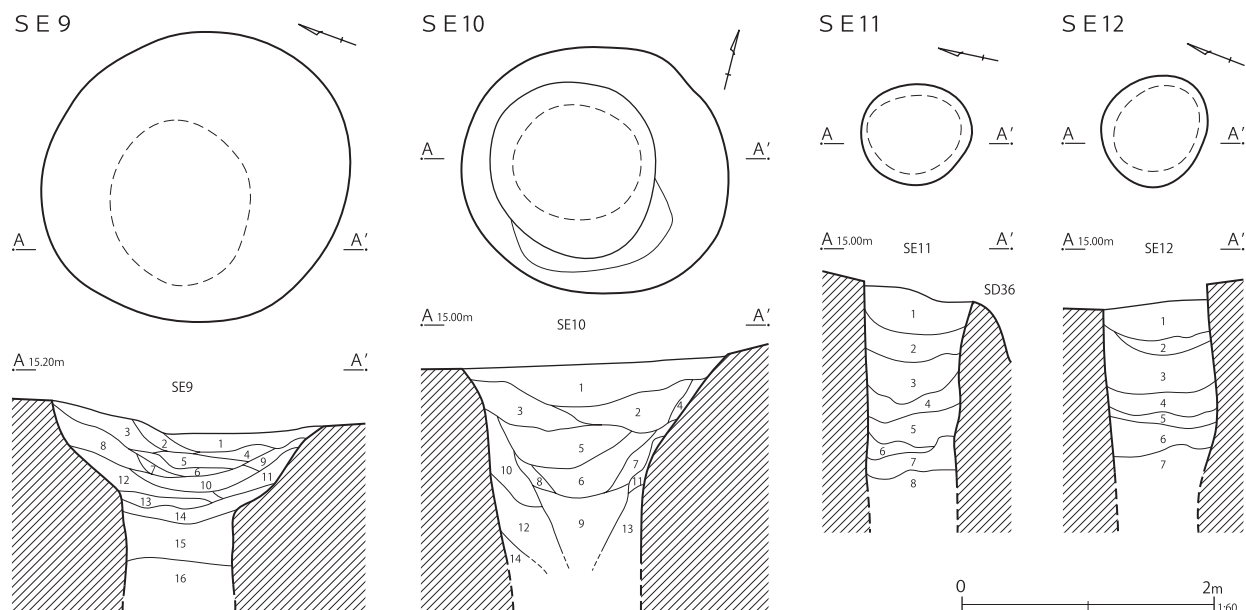
第7号井戸跡の東側、A-1・2グリッドに位置する。平面形態は楕円形、断面形は上端の壁面崩落により漏斗状を呈する。規模は長径2.50m、短径2.35mを測る。

遺物は比較的豊富に出土した（第55・56図）。

33・35・36は古瀬戸製品、34は白磁四耳壺の破片で第6号地下式坑出土の破片と接合したものである。41・42は常滑焼である。37～39・43は在地土器類である。38は羽釜形土器の蓋の可能



第52図 井戸跡（2）



SE 9	
1 暗褐色土	ローム粒子 (1～3mm)・ロームブロック (20～30mm) 少量 しまり・粘性弱い
2 黄褐色土	ローム粒子 (1～3mm)・ロームブロック (30～50mm) 多量 しまり強い 粘性弱い
3 暗褐色土	ローム粒子 (1～2mm) 微量 ロームブロック (30mm) 少量 灰白色粒子 (1～3mm) 微量 しまり・粘性弱い
4 暗褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 少量 ロームブロック (20～30mm)・ 炭化物粒子 (1mm) 微量 しまり・粘性弱い
5 暗褐色土	ローム粒子 (1～3mm)・ロームブロック (20～30mm)・ 炭化物粒子 (1mm) 微量 しまり・粘性弱い
6 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 多量 ロームブロック (20mm前後) 微量 しまり・粘性弱い
7 暗褐色土	ローム粒子 (1～2mm)・焼土ブロック (20mm前後) 少量 しまり・粘性弱い
8 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1～2mm)・ロームブロック (20～30mm) 多量 しまり・粘性弱い
9 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1～2mm)・ロームブロック (20～30mm) 微量 しまり・粘性弱い
10 暗褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 少量 ロームブロック (20～30mm) 微量 しまり・粘性弱い
11 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 多量 ロームブロック (30mm) 少量 白色粘土粒子 (1～2mm) 微量 しまり・粘性弱い
12 暗褐色土	ローム粒子 (1～2mm)・ロームブロック (20～30mm)・白色 粘土粒子 (5～10mm) 微量 しまり・粘性強い
13 暗灰褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 微量 ロームブロック (20mm) 少量 白色粘土塊 (30～50mm) 微量 しまり・粘性弱い
14 にぶい黄褐色土	ロームブロック (30～50mm)・ローム粒子 (1～3mm) 微量 しまり・粘性弱い
15 黄褐色土	ローム土、ロームブロック主体 しまり・粘性弱い
16 黒褐色土	ローム粒子 (2～3mm) 微量 しまり弱い 粘性強い

SE 10	
1 灰褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 微量 灰白色粒子・ヤドロ混じり しまり強い 粘性弱い 埋土
2 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1～3mm) 微量 灰白色粒子少量 しまり強い 粘性弱い 埋土
3 暗褐色土	ロームブロック (30～50mm) 少量 ローム粒子 (2～3mm) 微量 しまり強い 粘性弱い 崩落か埋土
4 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (3～5mm)・ロームブロック (30～50mm) 少量 しまり弱い 粘性弱い 崩落土
5 暗褐色土	ローム粒子 (1～5mm) 微量 しまり強い 粘性弱い 埋土
6 暗褐色土	ローム粒子 (1～5mm) 少量 しまり・粘性弱い 埋土
7 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (5mm前後) 微量 しまり・粘性弱い 崩落・堆積土

8 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (5mm前後) 少量 しまり・粘性弱い 崩落・ 堆積土
9 暗褐色土	ローム粒子 (1～5mm) 微量 しまり・粘性弱い 堆積土
10 暗褐色土	ローム粒子 (5mm前後)・ロームブロック (20～30mm) 多量 しまり・粘性弱い 堆積土
11 にぶい黄褐色土	ロームブロック (50mm前後) 微量 黒色土少量 しまり・ 粘性弱い 崩落土
12 暗褐色土	ロームブロック (20mm前後) 少量 ローム粒子 (1～5mm) 微量 しまり・粘性弱い 崩落土+堆積土
13 暗褐色土	ローム粒子 (5mm前後) 多量 ロームブロック (20～30mm) 少量 しまり・粘性弱い 崩落土
14 暗褐色土	ローム粒子 (3～5mm) 微量 ロームブロック (10～20mm) 少量 しまり・粘性弱い 崩落土

SE 11	
1 黒褐色土	ローム粒子 (～2mm)・焼土粒子 (～1mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
2 黒褐色土	ローム粒子 (～2mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
3 黒褐色土	ローム粒子 (～2mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり強い 粘性強い
4 暗褐色土	ローム粒子 (～2mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり・粘性強い
5 暗褐色土	ローム粒子 (～2mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり・粘性強い
6 黒褐色土	浅黄褐色粘土ブロック (～40mm) 多量 ただし酸化鉄の 影響を受ける しまり・粘性強い
7 暗褐色粘性土	浅黄褐色粘土ブロック (3～5mm)・焼土塊 (～3mm) 微量 しまり・粘性強い
8 黒褐色土	浅黄褐色粘土ブロック (～10mm)・焼土塊 (～3mm) 微量 しまり・粘性強い

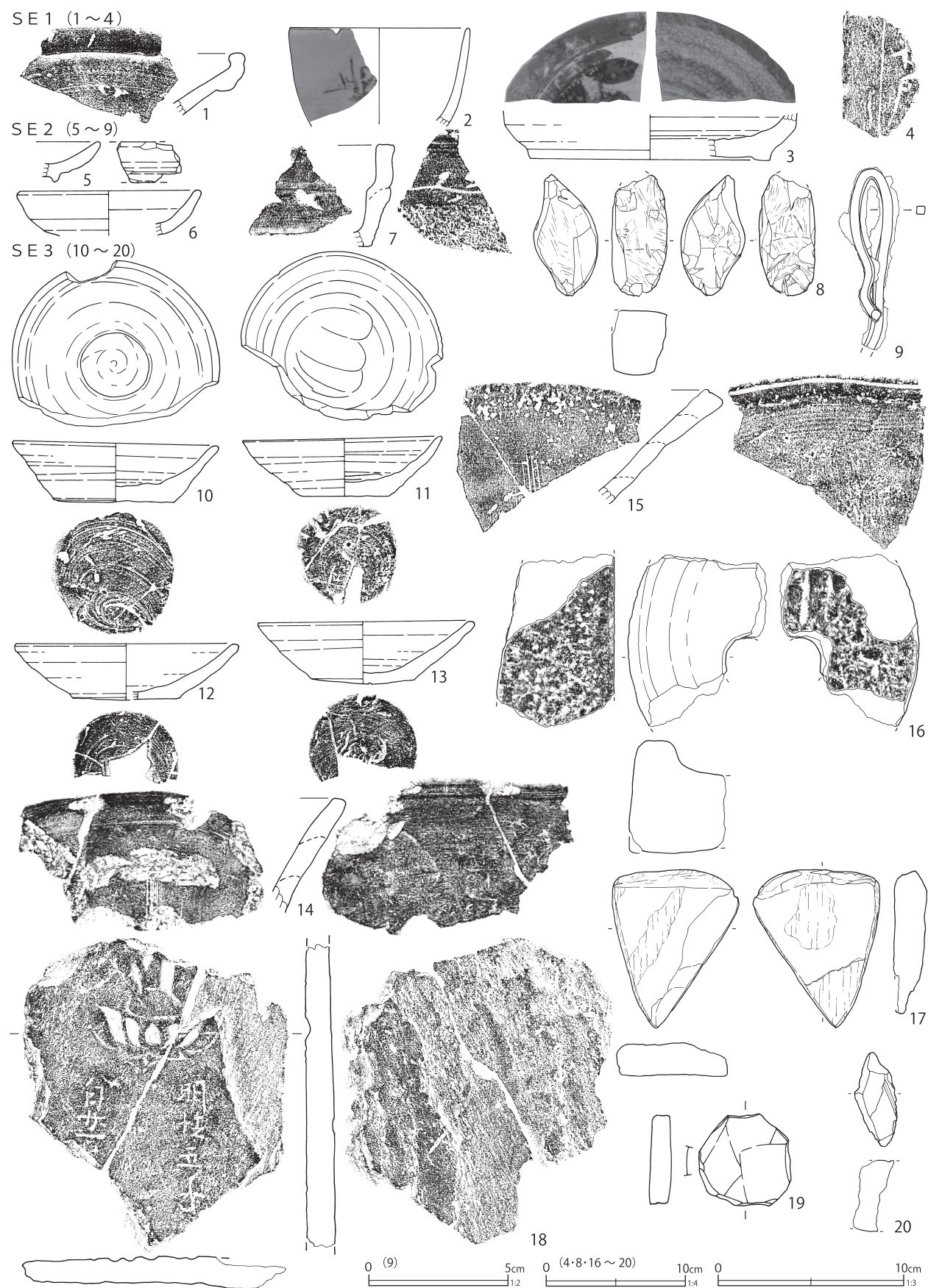
SE 12	
1 暗褐色土	ローム粒子 (～1mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
2 にぶい黄褐色土	ロームブロック (1～6mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
3 暗褐色土	ローム粒子 (～2mm)・炭化物粒子 (～3mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
4 暗褐色土	ロームブロック (～7mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
5 暗褐色土	ロームブロック (～10mm)・炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり・粘性強い
6 灰褐色土	シルト質土をベースに細砂微量混じる 炭化物粒子 (～2mm) 微量 しまり・粘性強い
7 灰褐色粘性土	ロームブロック (～20mm) 少量 6層土に似る

第 53 図 井戸跡 (3)

性がある。39・43 は瓦質土器鉢である。このほか、内耳鍋の可能性のある瓦質土器口縁部細片が 1 点出土している。出土遺物から、15 世紀前半までに埋没した可能性がある。

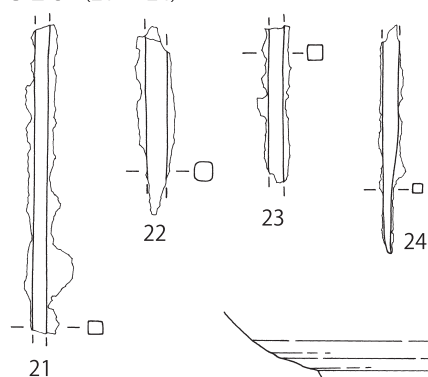
第 9 号井戸跡 (第 53 図)

第 2 次調査区の北東部、Z-3 グリッドに位置する。平面形態は楕円形、断面形は上端崩落によって大きく開く漏斗状を呈し、規模は長径 2.50m、

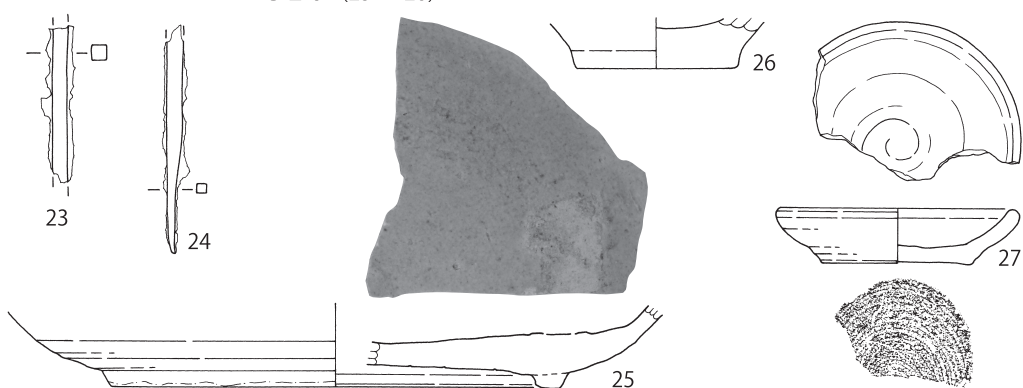


第 54 図 井戸跡出土遺物 (1)

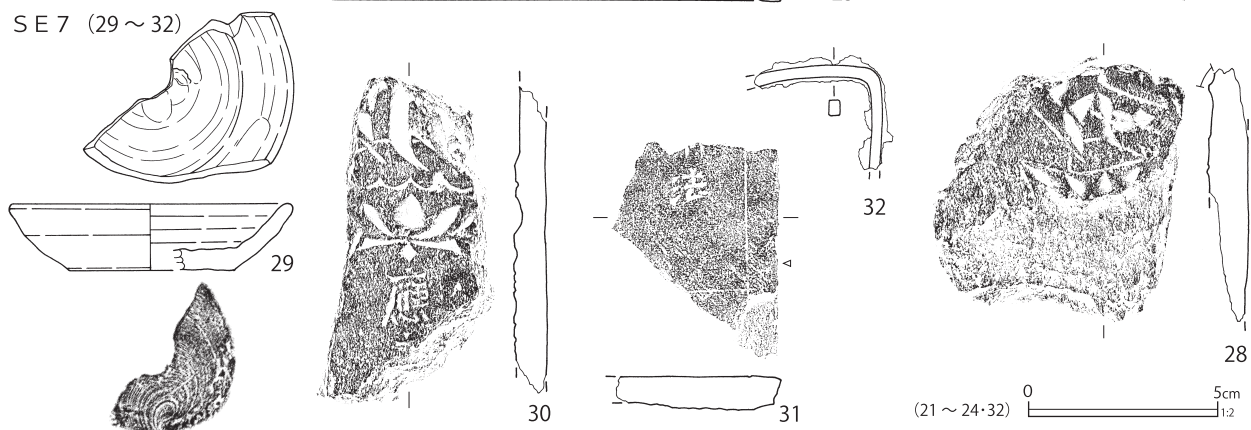
SE 5 (21 ~ 24)



SE 6 (25 ~ 28)

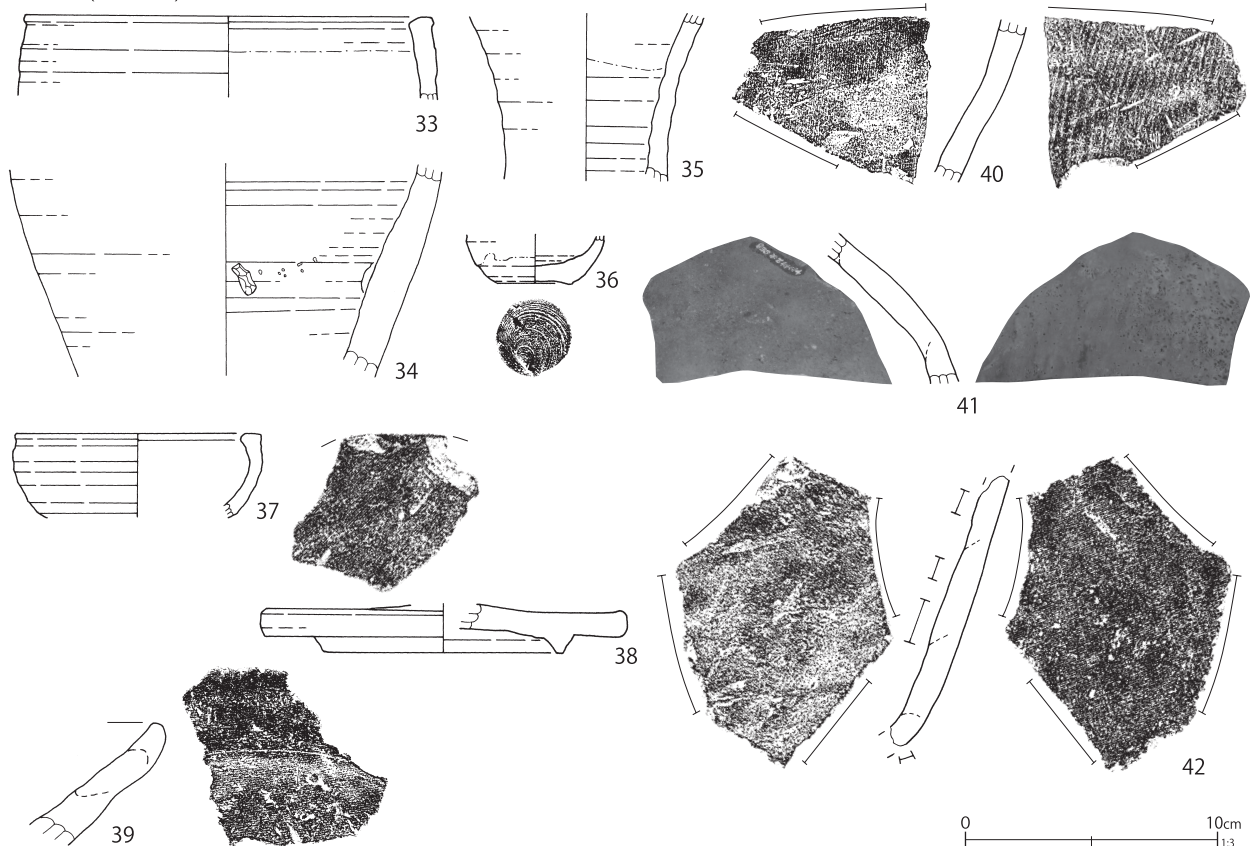


SE 7 (29 ~ 32)



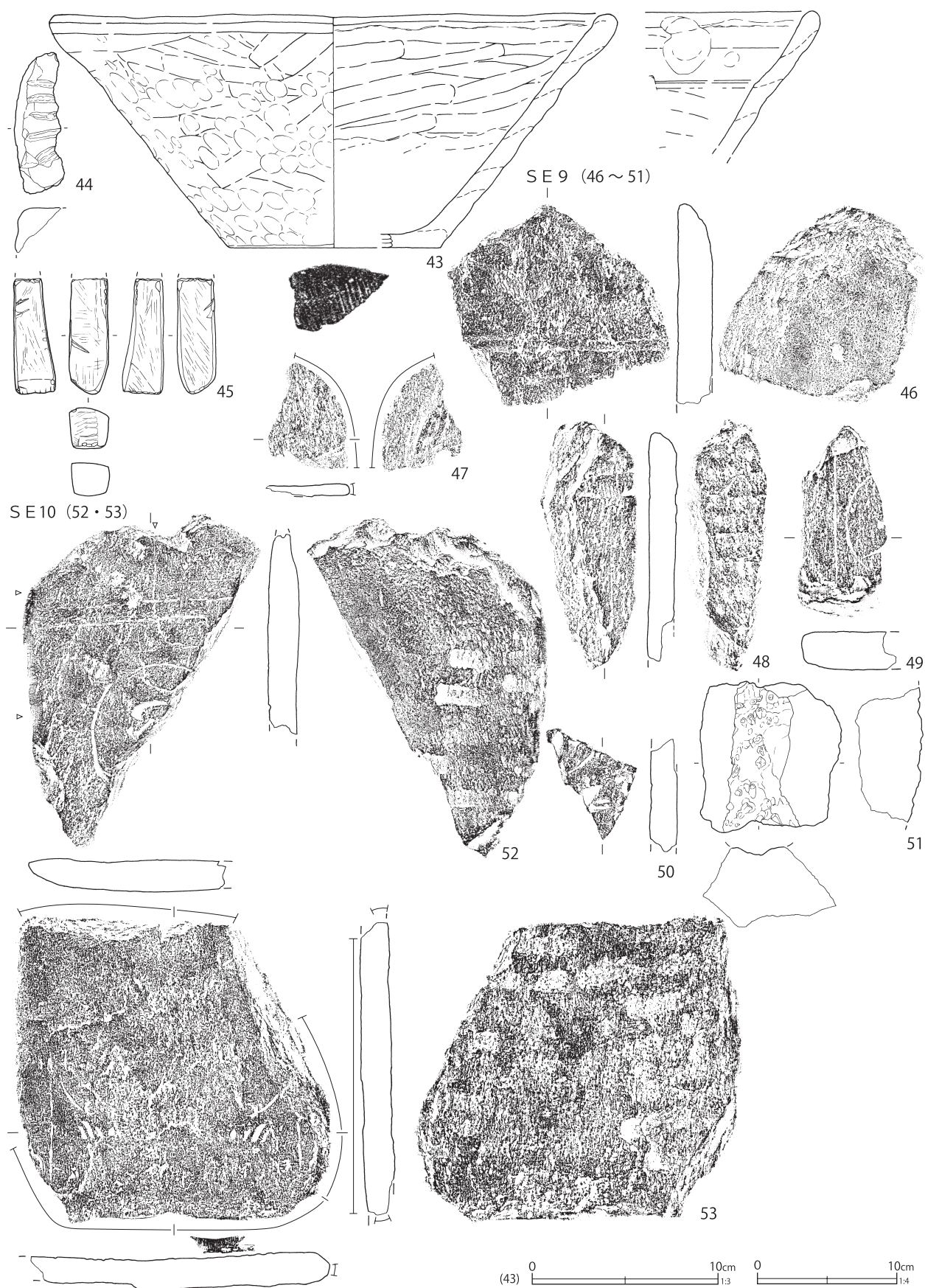
0 5cm
1:2
(21 ~ 24・32)
0 10cm
1:4
(28・30・31)

SE 8 (33 ~ 45)



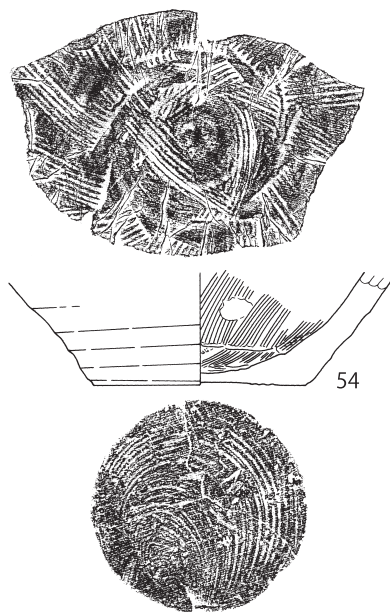
0 10cm
1:3

第 55 図 井戸跡出土遺物 (2)

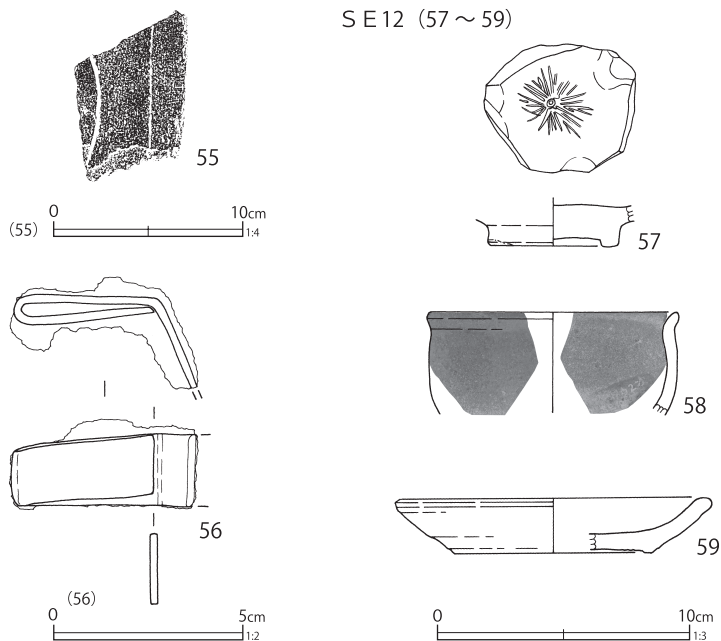


第 56 図 井戸跡出土遺物 (3)

S E 11 (54～56)



S E 12 (57～59)



第 57 図 井戸跡出土遺物 (4)

短径 2.30m を測る。

第 56 図 46～50 は板碑あるいは、緑泥片岩の砥具である。46 の板碑は側縁部加工や二条線の彫刻から 15 世紀中葉以降と考えられる。このほか、瓦質土器内耳鍋の口縁部破片が出土した。器壁は薄手で、体部下位にシワ状痕を残すことから、器高の低い焙烙形のものと思われる。遺物から 16 世紀以降の埋没と考えられる。

第 10 号井戸跡 (第 53 図)

第 2 次調査区の北方にある調査区、X-2・3 グリッドに位置する。平面形態は楕円形、断面形は上端壁面の崩落により漏斗状を呈する。規模は長径 2.05m、短径 2.00m を測る。

第 56 図 52・53 は出土した板碑である。52 は線刻状の二条線を持ち、月輪を伴うキリク種子を主尊として刻まれる。碑面調整も粗雑であり、15 世紀中葉以降に比定される。53 は月輪を伴う脇侍種子と蓮座の一部が遺存する。側面・表面が砥具として二次利用されている。15 世紀前葉以降のものである。他に、かわらけ口縁部細片、15～16 世紀のものとみられる常滑焼甕の破片が各 1 点出土している。

第 11 号井戸跡 (第 53 図)

第 7 号井戸跡の南側、A-1 グリッドに位置する。重複する第 36 号溝跡よりも古い。平面形態は楕円形を呈し、断面はほぼ垂直に掘り込まれる。規模は長径 0.90m、短径 0.80m を測る。

第 57 図 54 は古瀬戸系陶器の挿鉢である。55 は板碑片で、月輪の一部が残る。他にかわらけ細片と瓦質土器（火鉢か）破片が出土している。

第 12 号井戸跡 (第 53 図)

第 2 次調査区の北西端、A-0 グリッドに位置する。平面形態は楕円形を呈し、断面はほぼ垂直に掘り込まれる。規模は長径 0.90m、短径 0.80m を測る。

第 57 図 57 は青磁碗で内面に線刻で花文を描く。58 は肥前系陶器碗、59 は志野小皿で、17 世紀初頭～前葉の所産である。他に大窯 1～2 段階の瀬戸美濃系陶器丸皿細片が出土している。遺物から 17 世紀前葉頃に埋没したと考えられる。

(2) 溝跡

溝跡は 26 条検出され、第 22 表にまとめた。調査区の中央付近に位置する第 1・22 号溝跡は、

第 21 表 井戸跡出土遺物観察表 (第 54 ～ 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
1	陶器	播鉢	—	[3.4]	—	DEH	5	普通	にぶい燈	SE1	古瀬戸 内外面錆釉 内面摺目	36-1
2	陶器	碗	(9.5)	[5.2]	—	—	15	良好	浅黄燈	SE1	肥前系 内外面灰釉 外面鉄絵 17C 後～18C 初 (京焼風碗)	35-2
3	陶器	水指か	—	[2.5]	(12.8)	I	10	良好	灰白	SE1	瀬戸美濃系 内面灰釉 外面灰釉・鉄釉 (総釉) 水注の可能性あり	34-3
5	陶器	丸皿	—	[2.1]	—	EH	5	普通	浅黄	SE2	瀬戸美濃系 内外面灰釉 (総釉) 17C 初	35-3
6	かわらけ	小皿	(9.5)	[2.4]	—	CEIH	10	普通	燈	SE2	胎土砂質	37-2
7	瓦質土器	焙烙	—	[5.4]	—	CHI	5	普通	灰白	SE2	C-2 内外面いぶす 外面下位～底部 シワ状痕	36-2
10	かわらけ	小皿	10.7	3.1	6.4	GHIJ	75	良好	明黄褐	SE3	C-2 1～4層 底部糸切痕 (右) 胎土粉質	31-1
11	かわらけ	小皿	10.5	3.2	4.7	CHI	75	良好	にぶい黄燈	SE3	C-2 1～4層 底部糸切痕 (右) 後、板状圧痕	31-2
12	かわらけ	小皿	(11.7)	3.0	5.7	H	50	良好	にぶい燈	SE3	C-2 1～4層 底部糸切痕 胎土粉質	37-2
13	かわらけ	小皿	(11.3)	3.3	5.7	EHI	60	良好	にぶい燈	SE3	C-2 1～4層 底部糸切痕 内底面 沈線状刻みあり 胎土粉質	31-3
14	瓦質土器	播鉢	—	[6.1]	—	BCEHJ	5	不良	にぶい燈	SE3	C-2 1～4層 内面摺目 (一単位 18 本) 片口の一部遺存	36-2
15	瓦質土器	播鉢	—	[6.0]	—	DHI	5	良好	にぶい燈	SE3	C-2 1～4層 内面摺目 (一単位 8 本) 外面煤付着	36-2
19	陶器	円盤状製品	長さ 4.9	厚さ 1.2	幅 4.9	EI	100	良好	灰褐	SE3	C-2 1～4層 常滑焼甕 外面ヘラナデ 再加工して円盤状とする	35-2
25	陶器	皿	—	[3.3]	(17.7)	GI	15	普通	灰白	SE6	No.2 瀬戸美濃系 内外面灰釉 畳付露胎 内面目跡 1 遺存	35-2
26	かわらけ	小皿	—	[1.9]	(6.2)	DJ	15	普通	燈	SE6	No.3 胎土粉質	37-2
27	かわらけ	小皿	(9.1)	2.2	(5.9)	HI	55	普通	にぶい燈	SE6	No.7 底部糸切痕 (右) 胎土砂質	31-4
29	かわらけ	小皿	(11.0)	2.6	(6.5)	CEIJ	40	普通	にぶい燈	SE7	C4 No.2 底部糸切痕 (左) 胎土粉質	31-5
33	陶器	香炉	(16.0)	[3.2]	—	E	10	良好	灰黄	SE8	上層 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式	35-3
34	磁器 (白磁)	四耳壺	—	[8.4]	—	G	10	良好	灰白	SE8	下層 中国産 内外面施釉 地下式坑 6 と接合	31-6
35	陶器	花瓶	—	[6.6]	—	I	15	良好	灰白	SE8	古瀬戸 内外面灰釉 後期様式	35-3
36	陶器	小壺類か	—	[1.9]	2.9	IK	40	普通	にぶい黄燈	SE8	上層 古瀬戸 内外面灰釉 底部糸切痕 (右)	35-3
37	土師質土器	香炉	(9.6)	[3.3]	—	CDEH	15	普通	にぶい燈	SE8	上層 胎土粉質	37-2
38	瓦質土器	蓋	(14.6)	[1.8]	(9.2)	DEI	20	不良	にぶい黄燈	SE8	下面と破損面に煤付着	36-2
39	瓦質土器	片口鉢	—	[4.8]	—	DE	5	普通	灰黄	SE8	内外面いぶす	36-2
40	陶器	壺甕類	—	[6.4]	—	DIK	5	良好	褐灰	SE8	備前系 破損後二次利用 (砥具)	36-1
41	陶器	壺甕類	—	[5.9]	—	EG	5	良好	黄灰	SE8	常滑 内面指頭圧痕 外面自然釉	36-1
42	陶器	甕	—	[10.7]	—	DGIK	5	良好	灰黄褐	SE8	常滑 破損後二次利用 (転用砥具)	36-1
43	瓦質土器	片口鉢	(30.0)	12.5	(11.4)	BCDE	40	普通	にぶい黄燈	SE8	底部静止糸切痕 内外面薫す 内面一部煤付着	36-2
54	陶器	播鉢	—	[4.4]	8.3	EGH	20	普通	にぶい燈	SE11	古瀬戸 内外面鉄釉 内面摺目 (一単位 8 本) 底部糸切痕 (右) 後期様式	31-7
57	磁器 (青磁)	碗	—	[1.6]	(5.0)	IK	15	良好	褐灰	SE12	中国龍泉窯系 内外面青磁釉 見込み部陰刻文 15C	34-1
58	陶器	碗	(9.7)	[4.1]	—	EI	10	普通	にぶい燈	SE12	肥前系 内外面施釉 17C 初	31-8
59	陶器	小皿	(12.1)	2.1	(7.8)	GI	20	普通	にぶい黄燈	SE12	瀬戸美濃系 内外面長石釉 (志野小皿)	35-3
番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種		遺構名	備考		図版
4	石製品	板碑	[9]	[5]	[0.5]	33.2	緑泥片岩		SE1	枠線・銘文「[] 禅門」		39-1
18	石製品	板碑	23.4	18.8	2.0	1365.2	緑泥片岩		SE3	種子・月輪・蓮座・ケガキ線・銘文「明徳五年 / 八月廿一日」 全面被熱 側縁敲打		
28	石製品	板碑	13.3	13.6	2.05	493.1	緑泥片岩		SE6	No.4 種子 (キリーク・異体字)・蓮座 裏面一部被熱 (赤化) 表面一部二次利用 (砥具)		
30	石製品	板碑	18.4	9.2	1.7	415.1	緑泥片岩		SE7	No.5 種子・蓮座・銘文「應 (永カ)」 石材に長石・黄鉄鉱を含む		
31	石製品	板碑	12.3	9.0	1.7	280.1	緑泥片岩		SE7	No.3 銘文「□法」・ケガキ線 側縁面取り、ケズリ		
46	石製品	板碑	[16.7]	[16.1]	2.45	893.2	緑泥片岩		SE9	二条線 側縁ケズリ		

番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
47	石製品	板碑	9.1	5.9	0.8	54.5	緑泥片岩	SE9	側縁二次利用(砥具) 全面被熱	39-2
48	石製品	板碑	[18.2]	[6.3]	2.0	320.5	緑泥片岩	SE9	二条線・ケガキ線 裏面ノミ痕(幅0.8cm) 石材に長石粒含む 全体被熱 側縁ケズリ	
49	石製品	板碑	[14.0]	[7.0]	2.7	376.1	緑泥片岩	SE9	杵線・月輪・脇待種子 側縁ケズリ	
50	石製品	板碑	[9.9]	[7.2]	1.9	133.4	緑泥片岩	SE9	脇待種子・月輪・蓮座・銘文	
52	石製品	板碑	25.7	17.0	2.25	1037.1	緑泥片岩	SE10	No.1 二条線・月輪・種子(キリーク)・ケガキ 裏面ノミ痕(幅1.05cm) 全面被熱 側縁ケズリ 一部二次利用か	
53	石製品	板碑	22.0	22.3	2.25	1717.5	緑泥片岩	SE10	脇待種子・月輪・蓮座・銘文・杵線 石材に長石粒含む 表面摩耗 全体被熱 裏面ノミ痕(幅1.2cm) 側縁ケズリ 一部二次利用	
55	石製品	板碑	10.3	6.0	0.6	54.8	緑泥片岩	SE11	月輪・杵線の一部 側縁ケズリ	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
8	石製品	砥石	8.7	4.0	4.6	176.9	流紋岩 (緑色系石材)	SE2	平ノミ痕 平面不整長方形 断面長方形 3面使用 使用面に数か所におわたる新規の工具痕あり	38-1
16	石製品	石臼 (上臼)	[12.4]	[9.9]	8.4	974.9	安山岩	SE3	4層 供給孔一部遺存 下面摺目 側面工具小叩き後研磨 欠損あり 全体被熱(黒色化 煤付着)	38-1
17	石製品	砥石	11.3	9.1	2.2	330.2	緑泥片岩	SE3	1～4層 平面三角形 断面長方形 5面使用 完形	38-1
20	石製品	石臼 (下臼)	[6.8]	[3.0]	5.1	43.9	多孔質安山岩	SE3	1～4層 上面摺目 全部被熱後、黒色化	38-1
44	石製品	石臼 (下臼)	[10.1]	[3.0]	[3.2]	69.3	安山岩	SE8	上層 上面摺目 角閃石・白色粒子を多く含む	38-1
45	石製品	砥石	8.3	2.8	2.9	102.4	流紋岩	SE8	平面バチ型 断面長方形 側縁部裏面V字状刃物痕数条 5面使用 欠損あり	38-1
51	石製品	石臼 (上臼)	[10.8]	[10.1]	[6.6]	650.9	牛伏砂岩か	SE9	供給孔ないし軸受け部分 サキノミ状工具による突き加工 欠損あり	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構名	備考	図版	
9	鉄製品	不明品	6.5	0.3	0.3	9.8	SE2			37-3
21	鉄製品	棒状品	8.2	0.4	0.4	5.7	SE5			37-3
22	鉄製品	棒状品	5.0	0.5	0.5	5.2	SE5			37-3
23	鉄製品	棒状品	4.2	0.4	0.4	3.1	SE5			37-3
24	鉄製品	釘か	6.0	0.25	0.25	3.4	SE5			37-3
32	鉄製品	鋸か	3.4	0.4	0.3	3.2	SE7	No.4		37-3
56	鉄製品	不明品	5.0	1.9	0.2	13.4	SE11			37-3

直角に屈曲する大規模な溝跡である。遺物も多数出土している。第1・22号溝跡と並走する第13号溝跡等も関連する溝跡と考えられる。

なお、調査時に溝跡としたが、整理段階で土壌に変更したものが多く、表中に記した。

第1・22号溝跡(第58・59図)

第1・22号溝跡は、B-3・4、C-4、D-4・5、E-3～5、F-3・4グリッドに位置する。北端がB-3・4グリッドから調査区を跨いでE・F-3・4グリッドまで南下し、西側に向かって直角に屈曲し、F-3グリッドに至る。

第1号溝跡と第22号溝跡は、南北方向が重な

り合うように並走する。覆土の堆積状況から、第1号溝跡の埋没途中で戻して整地し、改めて、同じ場所に第22号溝跡が掘り直された状況が捉えられた。走行方向の土層断面では、第32層までは壁際から堆積した様子が見られる。第32層から第6号井戸跡やピットが掘り込まれ、この段階には溝としての機能は失われていた可能性が高い。第22号溝跡は、南北方向は第1号溝跡とほぼ同じ位置が掘り直されているが、東西方向は北側にズレて、第1号溝跡の内側を廻る。第1号溝跡からは15世紀代の遺物が、第22号溝跡からは17世紀代の遺物が出土していることから、第1号溝

跡と第 22 号溝跡が掘削された段階には時間差がある。溝の規模が縮小されているため、掘り直しのほかに溝の痕跡を利用した別の施設を設営した可能性も考えられる。

第 1 号溝跡の検出長は 53.0m、幅 2.20m ～ 4.00m、深さ 0.95 ～ 1.18m を測る。第 22 号溝跡の検出長は 53.0m、幅 0.60m ～ 5.30m、深さ 0.20 ～ 0.80m を測る。

第 22 号溝跡は堆積土中から硬化面が確認され、溝跡の埋没後に、道として利用された可能性がある。硬化面はかなり埋没が進んだ 0.10 ～ 0.15m 程の深さから部分的に検出され、利用期間は短かったと考えられる。

第 12 号溝跡（第 58・60 図）

C－3、D・E－3・4 グリッドに位置し、第 1・22 号溝跡と並走する。南北方向の溝跡で、南端の E－4 グリッドで直角に屈曲し、西に方向を変える。区画溝と考えられる。

検出長は南北 18.0m、東西 2.0m、幅 0.45 ～ 0.75m、深さ 0.03 ～ 0.21m を測る。西方向の延長線上に第 44 号溝跡が位置し、規模が類似していることから、同一の溝跡である可能性が考えられる。

第 13 号溝跡（第 58・60 図）

C・D－3、E－2・3 グリッドに位置し、第 1・22 号溝跡と並走する。C－3 グリッドから南下し、E－3 グリッドで直角に屈曲し、西側に方向を変えて延伸する。

検出長は 26.7m、幅 0.65 ～ 2.00m、深さ 0.28 ～ 0.37m を測る。北側の延長線上に第 35 号溝跡があり、同一遺構の可能性はある。

第 25 号溝跡（第 58・60 図）

第 2 次調査区の南端、B－2・3 グリッドに位置し、東端が第 1・22 号溝跡と垂直に交わる東西方向の溝跡で、第 25 号溝跡が新しい。

検出長は 17.9m、幅 0.5 ～ 1.2m、深さ 0.02 ～ 0.29m を測る。

第 30 号溝跡（第 61・62 図）

第 2 次調査区の東端、Z－3、A－3・4、B－4 グリッドに位置し、第 1・22 号溝跡の延長線上に検出された南北方向の溝跡である。南端は第 1・22 号溝跡によって削平され、北側は調査区域外へと続く。

検出長は 13.1m、幅 1.15m、深さ 0.06 ～ 0.23m を測る。

第 34 号溝跡（第 61・62 図）

第 2 次調査区の北端、Z・A－2・3 グリッドに位置する東西方向の溝跡である。重複する第 142 号土壇よりも新しい。

検出長は 5.70m、幅 1.3 ～ 1.6m、深さ 0.34 ～ 0.52m を測る。

第 35 号溝跡（第 61・62 図）

第 2 次調査区の中央部、A－2・3、B－2 グリッドに位置する南北方向の溝跡である。A－2 グリッドで東にカーブして東西方向の溝となる。

検出長は長さ 18.0m、幅 0.30 ～ 1.40m、深さ 0.04 ～ 0.27m を測る。第 13 号溝跡の延長線上に位置することから、同一遺構の可能性が高い。

第 36 号溝跡（第 61・62 図）

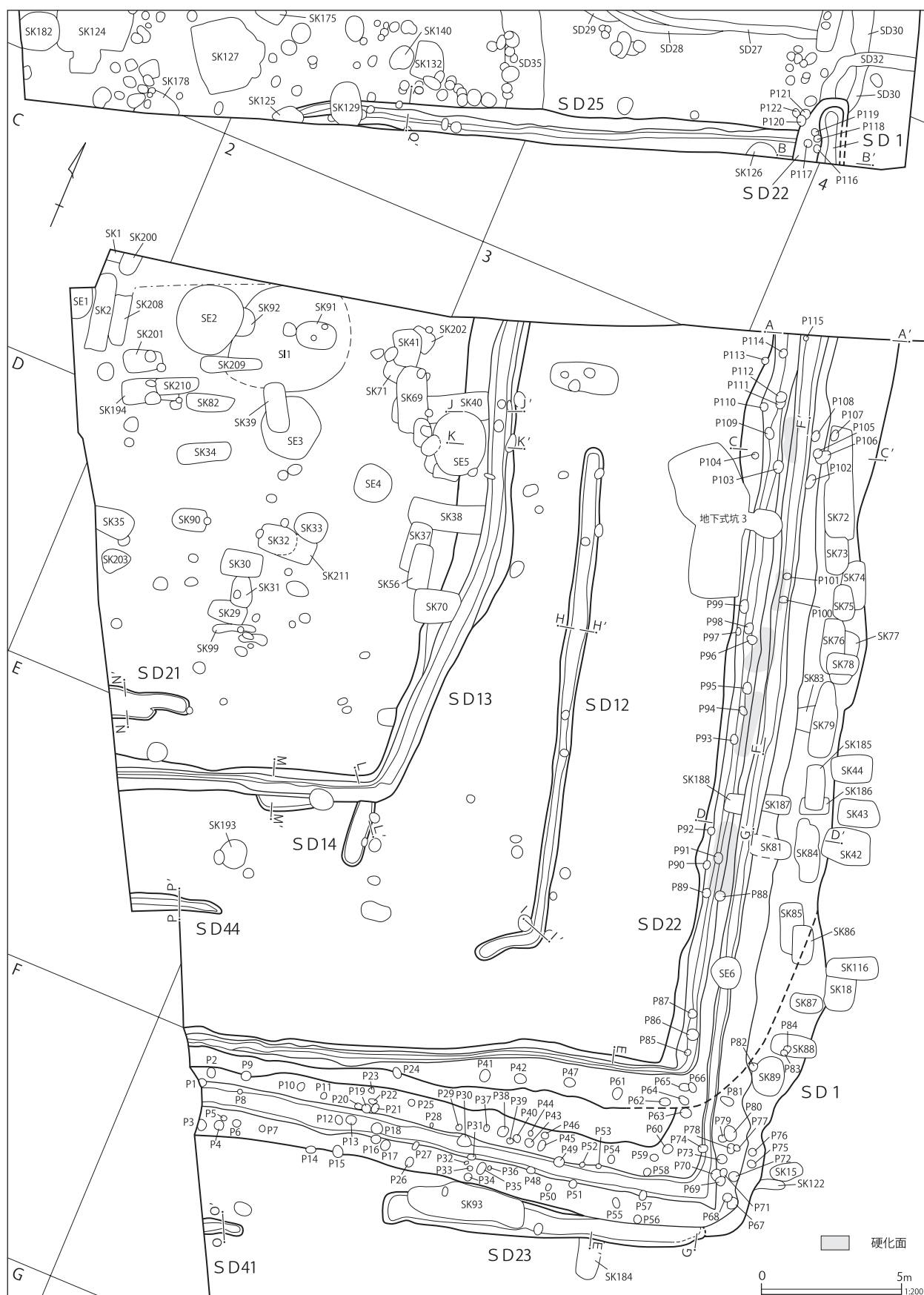
第 2 次調査区の北側、A－2・3 グリッドに位置する東西方向の溝跡である。

検出長は 9.60m、幅 1.00 ～ 3.20m、深さ 0.55 ～ 0.77m を測る。南側にテラス状の広がりを持つ。溝跡の部分は幅 0.70 ～ 1.10m 程の断面形は箱形で、テラス部分の断面形は皿状である。

第 42・43 号溝跡（第 63 図）

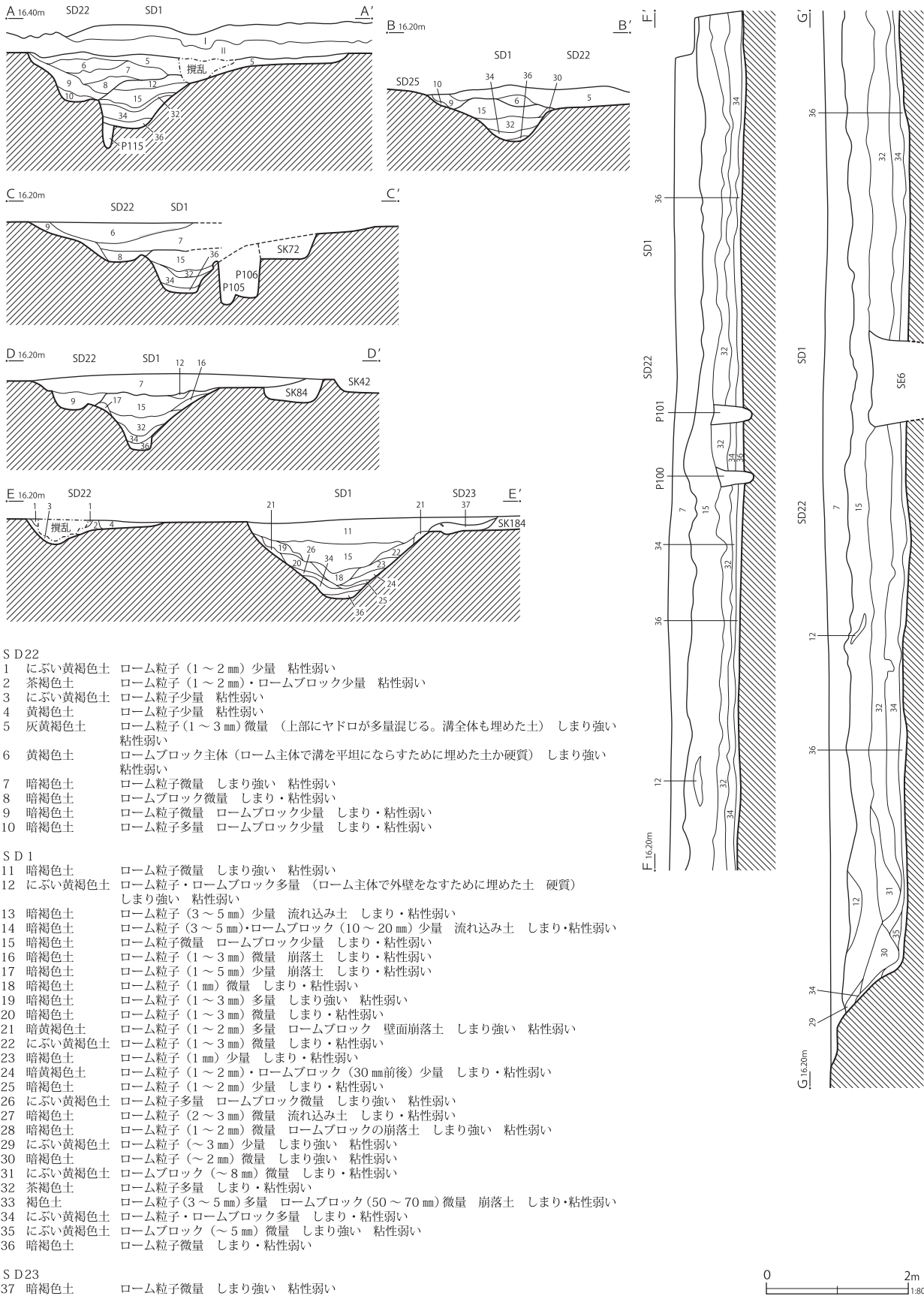
F・G－5 グリッドに位置する南北方向の溝跡である。

第 42 号溝跡は検出長が 11.30m、幅 0.30 ～ 0.70m、深さ 0.05 ～ 0.10m、第 43 号溝跡は検出長が 8.00m、幅 0.50 ～ 1.20m、深さ 0.01 ～ 0.03m を測る。第 1・22 号溝跡の延長線上に位置するが規模の差が大きい。目的は異なるが、連続した区画と考えられる。

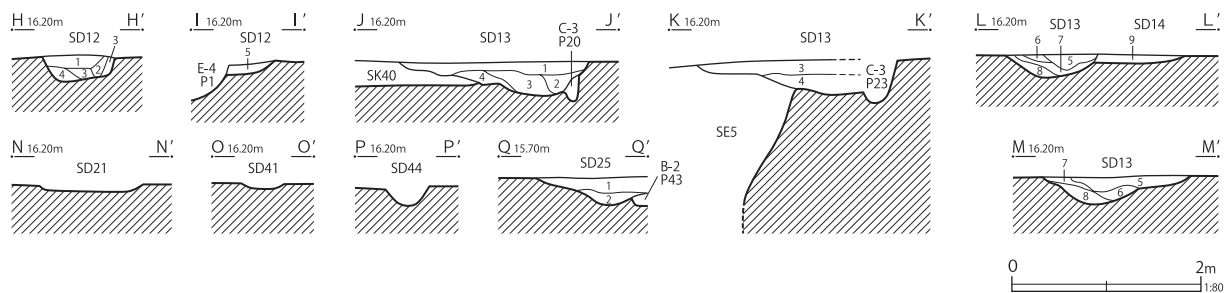


第 58 図 溝跡 (1)

薬師堂遺跡



第 59 図 溝跡 (2)



S D 12

- | | | | | |
|---|---------|---------------|----------|-------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム粒子 (〜3mm) | 微量 | しまり強い 粘性弱い |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒子 (〜4mm) | 微量 | しまり・粘性弱い |
| 3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (〜3mm) | 微量 | しまり強い 粘性弱い |
| 4 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (〜4mm) | 少量 | しまり・粘性弱い |
| 5 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (1〜5mm) | 微量 | ロームブロック (10〜20mm) |
| | | 少量 | しまり・粘性弱い | |

- | | | |
|---|---------|---|
| 6 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (1 ~ 5 mm)・ロームブロック (10 ~ 30 mm) 微量
しまり・粘性弱い |
| 7 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (3 ~ 5 mm)・ロームブロック (10 ~ 30 mm) 少量
しまり・粘性弱い |
| 8 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (3 ~ 5 mm) 少量 ロームブロック (10 ~ 30 mm)
微量 しまり・粘性弱い |

S D 13

- | | | | |
|---|---------|------------------|-----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック（～10mm）少量 | しまり強い 粘性弱い |
| 2 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック（～3mm）微量 | しまり・粘性弱い 砂質土 |
| 3 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック（～4mm）微量 | しまり強い 粘性弱い |
| 4 | にぶい黄褐色土 | ロームブロック（～25mm）少量 | |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒子（1～5mm）微量 | ロームブロック（10～30mm）少量 しまり・粘性弱い |

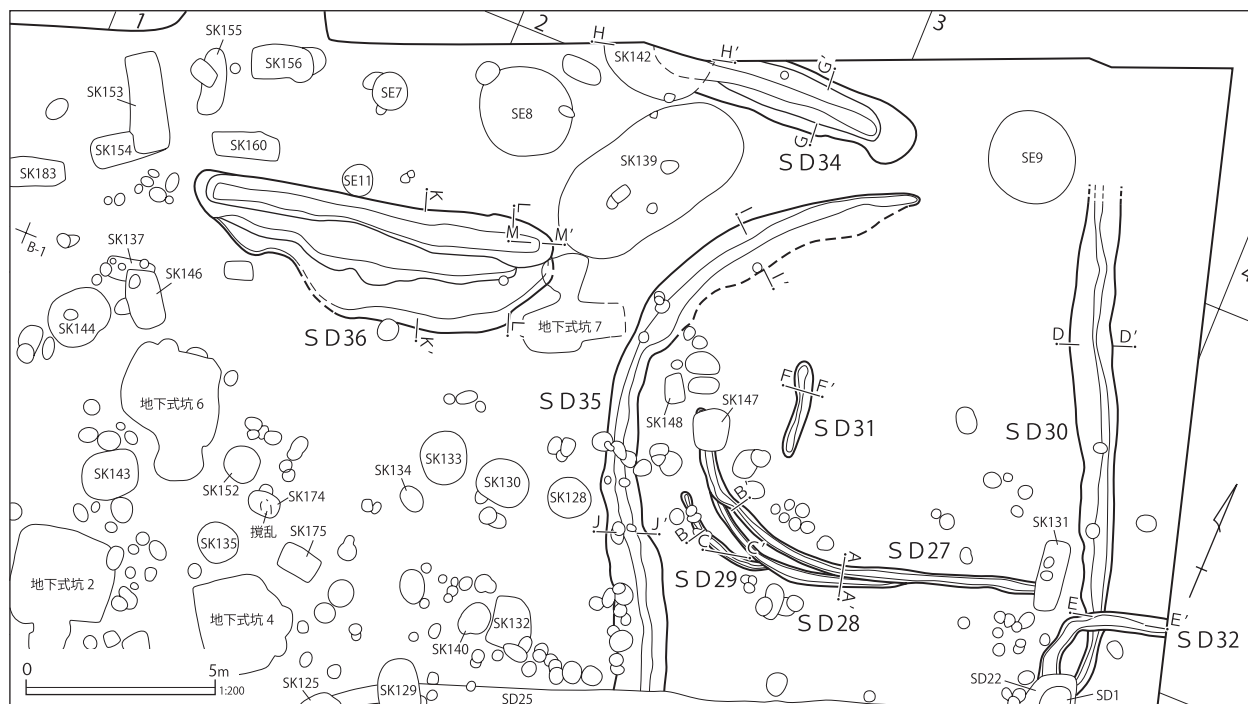
S D 14

- 9 暗褐色土 ローム粒子 (3~5 mm) 微量 ロームブロック (10 mm) 少量
しまり・粘性弱い

S D 25

- 1 暗褐色土 ロームブロック（～12 mm）・ヤドロ粒子（～2 mm）微量
しまり強い 粘性弱い
- 2 暗褐色土 ロームブロック（～5 mm）しまり強い 粘性弱い

第 60 図 溝跡 (3)



第 61 図 溝跡 (4)

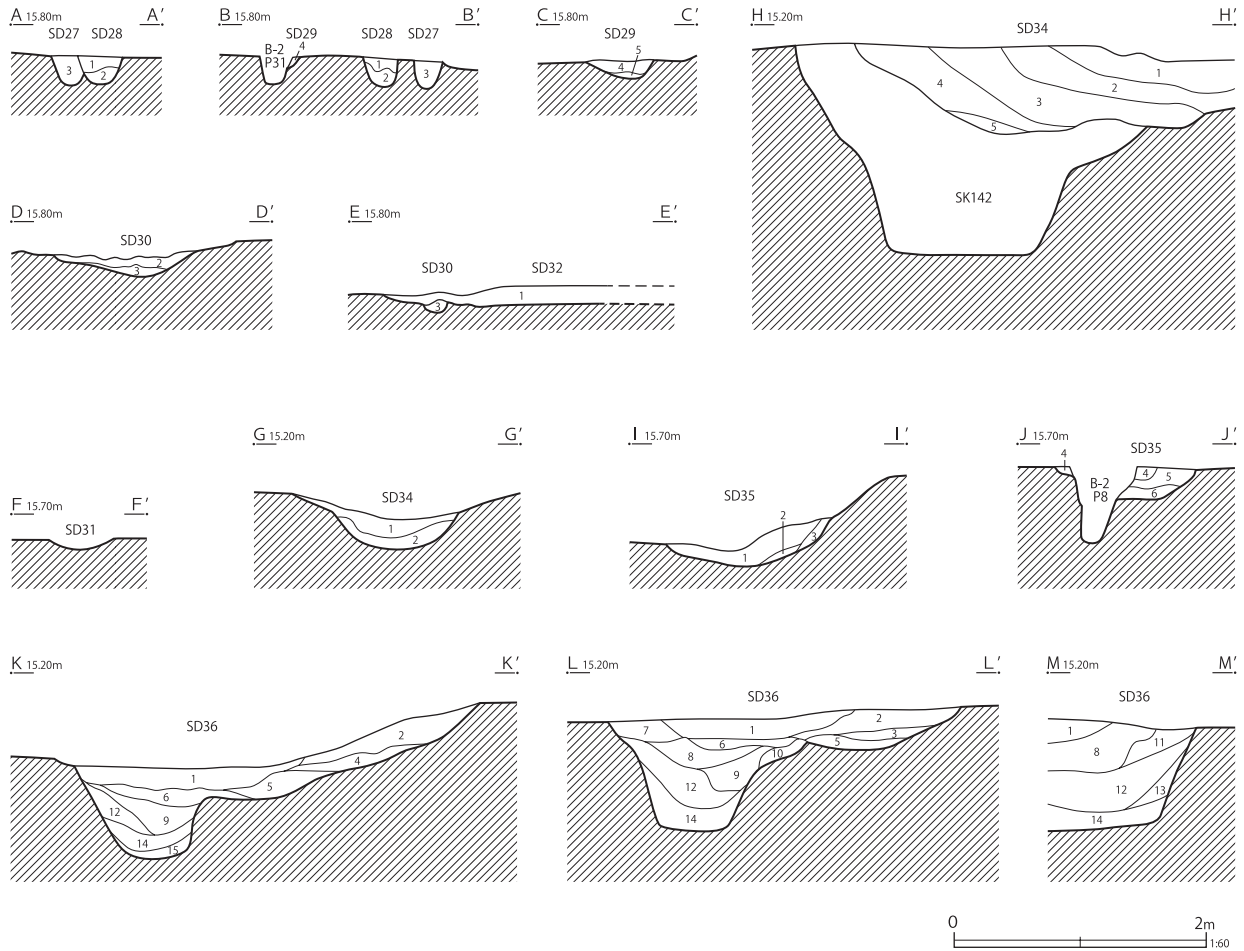
溝跡からの出土遺物は、第 64 図 1 ～第 70 図 124 に示した。

第1号溝跡からは、15世紀後半の遺物が出土した。20・25・34・43は重複する第22号溝跡に伴う遺物の可能性が高い。第70図117は祥符元寶（北宋1009年）で、径24.0mm、厚さ1.3mm、重さ2.70gを測る。

第 22 号溝跡の 3 は 17 世紀中葉に遡り得る肥前磁器で、第 1 号溝跡の東西溝部分で出土した。最上面から出土し、東西溝部分の最終埋没時期を示唆する。17 世紀前葉頃に掘削されたと考えられる。

第12号溝跡では、47に示した古瀬戸平碗のほか、瓦質土器が出土しており、15世紀のものが

薬師堂遺跡



S D28

- 1 黄褐色土 ロームブロック多量 埋め土 しまり強い 粘性弱い
- 2 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm)・ロームブロック (30 mm) 微量 埋め土 しまり強い 粘性弱い

S D27

- 3 黄褐色土 ロームブロック多量 埋め土 しまり強い 粘性弱い

S D29

- 4 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 ロームブロック (5 mm前後) 少量 しまり強い 粘性弱い
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm) しまり強い 粘性弱い

S D32

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 2 mm)・ロームブロック (5 mm前後) 少量 しまり強い 粘性弱い

S D30

- 2 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 ロームブロック (10 mm前後) 少量 しまり・粘性弱い
- 3 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 しまり・粘性弱い

S D34

- 1 にぶい黄褐色土 ロームブロック (3 ~ 30 mm) 少量 しまり・粘性強い
- 2 にぶい黄褐色土 1層土まばらに混じる しまり・粘性強い 溝の側面、底部の一部に黄白色粘土 (しまり・粘性強い) を貼り付けている
- 3 暗褐色土 ロームブロック (~ 30 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い 暗褐色土一部混じる ぼそぼそ 黒褐色土ブロック (10 ~ 30 mm) 微量
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 多量 炭化物粒子 (~ 3 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
- 5 にぶい黄褐色土 ローム・黒褐色土多量 しまり強い 粘性弱い

S D35

- 1 黒褐色土 ローム粒子 (~ 1 mm) 微量 しまり・粘性弱い
- 2 黒褐色土 しまり強い 粘性弱い 崩落土

- 3 暗褐色土 ロームブロック (~ 20 mm) 多量 しまり強い 粘性弱い 崩落土か

- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm)・ロームブロック (20 ~ 40 mm) 微量 しまり・粘性弱い

- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (3 mm前後)・ロームブロック (20 ~ 30 mm) 微量 灰白色粒子微量 しまり強い 粘性弱い

- 6 暗褐色土 ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 少量 堆積土 しまり・粘性弱い

S D36

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (~ 4 mm) 少量 炭化物 (~ 4 mm) 微量 しまり・粘性強い 土質は粘土に近い

- 2 暗褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 少量 炭化物 (~ 1 mm) 微量 しまり・粘性弱い ぼそぼそした土

- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 3 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 4 mm)・炭化物 (~ 1 mm) 微量 シルト質

- 5 にぶい黄褐色土 土粒小さくシルト質土に近い しまり・粘性強い 4層より土色明るい

- 6 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 微量 しまり・粘性強い 土粒小さくシルト質土に近い

- 7 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い 上堆積土

- 8 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い 上堆積土

- 9 灰黄褐色土 ロームブロック (~ 10 mm) 微量 しまり・粘性強い

- 10 黄褐色土 にぶい黄褐色土微量 しまり強い 粘性弱い

- 11 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 3 mm) 少量 酸化鉄の影響を受ける 12層に似るが土色は12層に比べて赤褐色土少ない

- 12 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 3 mm)・赤褐色土 (酸化鉄の影響か) 微量 しまり強い 粘性弱い ぼそぼそした土

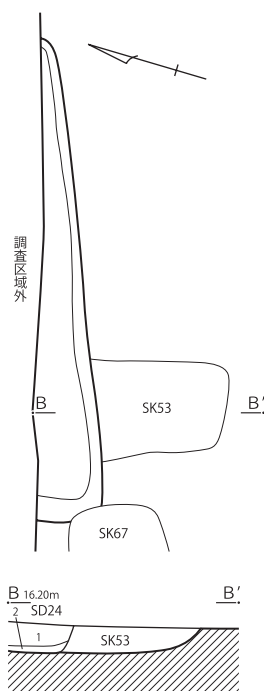
- 13 黒褐色土 ローム粒子 (~ 4 mm) 微量 酸化鉄の影響を受ける 12層に似るが土色は12層より暗い シルト質

- 14 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 5 mm) 多量 しまり・粘性強い

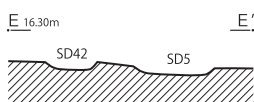
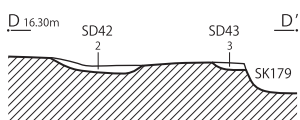
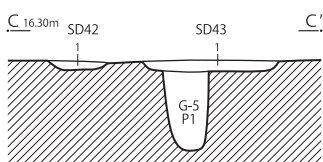
- 15 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 8 mm) 多量 土粒小さく粘土に近い しまり・粘性強い 堆積土 シルト質

第 62 図 溝跡 (5)

第 24 号溝跡

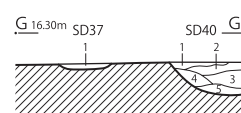
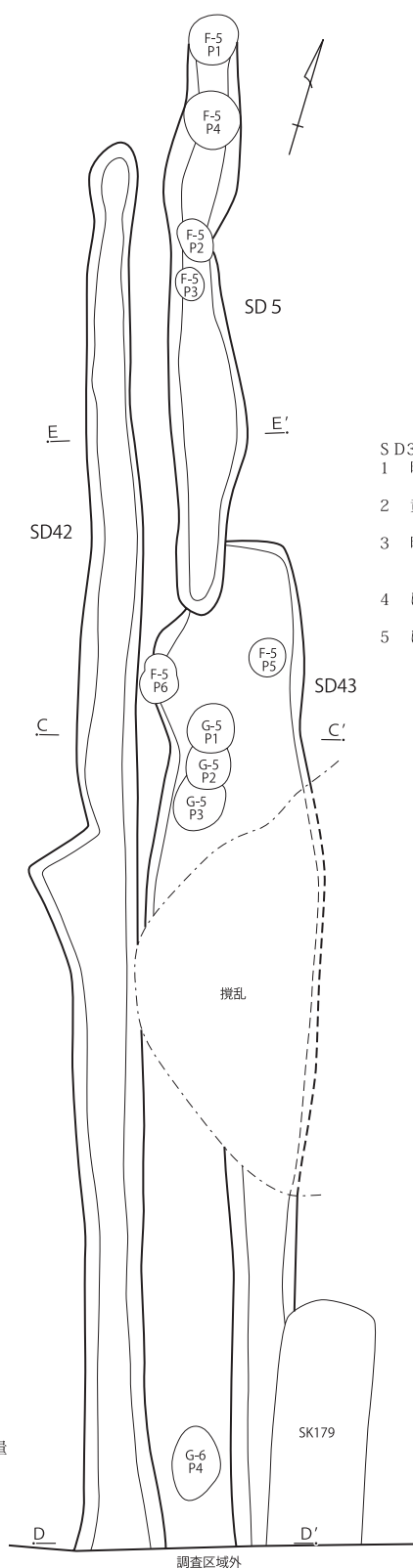


- SD 24
- | | | | |
|---|---------|---------------|------|
| 1 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (～3 mm) | 微量 |
| 2 | 黒褐色土 | しまり強い | 粘性弱い |



- SD 42・43
- | | | | |
|---|---------|----------------|------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒子 (1～3 mm) | 微量 |
| 2 | にぶい黄褐色土 | しまり強い | 粘性弱い |
| 3 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (～4 mm) | 微量 |
| 4 | にぶい黄褐色土 | しまり強い | 粘性弱い |
| 5 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (～4 mm) | 少量 |

第 5・42・43 号溝跡



- SD 37・40
- | | | | |
|---|---------|----------------|-------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒子 (1～2 mm) | 微量 |
| 2 | 黄褐色土 | しまり・粘性弱い | ロームブロック主体 埋め土 |
| 3 | 暗褐色土 | しまり・粘性弱い | ローム粒子 (1～5 mm) 微量 |
| 4 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (1～3 mm) | 微量 |
| 5 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子 (1～3 mm) | 少量 |

第 37・40 号溝跡



平面図
SD37・40

0 2m
1:80

第 63 図 溝跡 (6)

第22表 溝跡一覧表(第58～63図)

No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
1	B-3・4 C-4 D-4・5 E-3・4・5 F-3・4	N-80°-E	N-15°-W	(53.00)	4.00	2.20	1.18	0.95	SD22・25・SK18・116より古 SD23より新 SE6・SK87・88・89・122
2	欠番								SK208に変更
3	欠番								SK217に変更
4	欠番								SK222に変更
5	F-5	N-18°-W		4.80	0.65	0.35	0.05	0.03	SD43
6	欠番								SK224に変更
7	欠番								SK221に変更
8	欠番								SK223に変更
9	欠番								SK218に変更
10	欠番								SK216に変更
11	欠番								SK220に変更
12	C-3 D-3・4 E-3・4	N-15°-W	N-45°-E	19.80	0.75	0.45	0.21	0.03	
13	C・D・E-3 E-2	N-20°-W	N-70°-W	(26.70)	2.00	0.65	0.37	0.28	SD14・SE5・SK40・70より新 SE5・SK38
14	E-3	N-8°-W	N-65°-E	(1.9)～ (2.5)	0.70	0.60	0.17	0.07	SD13より古
15	欠番								SK225に変更
16	欠番								SK213・214に変更
17	欠番								SK215に変更
18	欠番								SK212に変更
19	欠番								SK209に変更
20	欠番								SK210に変更
21	D・E-2	N-17°-W		(2.85)	1.20	0.60	0.10	0.02	
22	B-3・4 C-4 D-4・5 E-3・4・5 F-3	N-70°-E	N-15°-W	(53.00)	5.30	0.60	0.80	0.20	SE25より古 SD1・SK42・44・74～79・83・98・ 180・185～187・地下式坑3より新 SD25・30・32・SE6・SK72・73・81・ 84～86
23	E-4・5 F-3・4・5	N-72°-E		11.50	1.00	0.80	0.14	0.07	SD1より古 SK184より新 SK93
24	B-5	N-72°-E		(3.80)	(0.50)	(0.15)	0.20	0.16	SK53より新
25	B-2・3	N-75°-E		17.90	(1.20)	(0.50)	0.29	0.02	SK129より古 SD1・22・35より新 SK125・126
26	欠番								
27	A-2・3 B-3	N-73°-E	N-35°-W	10.20	0.45	0.25	0.23	0.15	SD28・SK131より古 SK147より新
28	A-2 B-2・3	N-70°-E	N-50°-W	6.20	0.40	0.23	0.24	0.15	SD29より古 SD27より新
29	B-2・3	N-68°-E	N-49°-W	3.20	0.27	0.20	0.10	0.03	SD28より新
30	Z-3 A-3・4 B-4	N-20°-W		(13.10)	1.15	0.30	0.23	0.06	SD32より古 SD22
31	A-3	N-12°-W		2.60	1.00	0.35	0.07	0.04	
32	A-3・4 B-3	N-76°-E	N-18°-W	(4.45)	0.55	0.40	0.12	0.08	SD30より新 SD22
33	欠番								
34	Z・A-2・3	N-88°-E		5.70	1.60	1.30	0.52	0.34	SK142より新
35	A-2・3 B-2	N-30°-W	N-62°-E	18.00	1.40	0.30	0.27	0.04	SD25より古
36	A-1・2	N-78°-E		9.60	3.20	1.00	0.77	0.55	地下式坑7
37	C-7 D-8	N-23°-W		(15.80)	(0.80)	0.40	0.17	0.01	
38	欠番								SK225に変更
39	欠番								SD37と同一
40	D-8	N-25°-W		6.20	(0.80)	(0.20)	0.41	0.01	
41	F-3	N-60°-E	N-80°-E	(1.40)	0.55	0.40	0.10	0.04	
42	F・G-5	N-16°-W		(11.30)	0.70	0.30	0.10	0.05	

No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
43	F・G-5	N-17°-W		(8.00)	1.20	0.50	0.03	0.01	SK179 より古 SD5
44	E-2・3	N-70°-E		(3.20)	0.60	0.30	0.22	0.01	

第23表 第1・22号溝跡内ピット一覧表 (第58図)

No.	グリッド	長径	短径	深さ	No.	グリッド	長径	短径	深さ	No.	グリッド	長径	短径	深さ
1	F-3	0.28	(0.25)	0.18	42	E-4	0.43	0.36	0.40	83	E-5	0.25	0.23	0.71
2	F-3	0.33	0.28	0.71	43	E-4	0.34	0.25	0.42	84	E-5	(0.25)	0.25	0.54
3	F-3	0.36	(0.31)	0.43	44	E-4	0.15	0.15	0.22	85	E-4	0.25	0.21	0.27
4	F-3	0.28	0.26	0.32	45	E-4	0.36	0.19	0.42	86	E-4	0.45	0.40	0.27
5	F-3	0.20	0.18	0.25	46	E-4	0.25	0.25	0.49	87	E-4	0.35	0.30	0.30
6	F-3	0.23	0.20	0.24	47	E-4	0.40	0.32	0.45	88	D-4	0.36	0.33	0.51
7	F-3	0.20	0.16	0.20	48	E-4	0.30	0.20	0.41	89	D-4	0.32	0.30	0.63
8	F-3	0.16	0.16	0.58	49	E-4	0.35	0.32	0.46	90	D-4	0.32	0.27	0.52
9	F-3	0.35	0.32	0.35	50	F-4	0.22	0.16	0.12	91	D-4	0.37	0.32	0.37
10	F-3	0.32	0.25	0.34	51	E-4	0.31	0.26	0.34	92	D-4	0.28	0.25	0.19
11	F-3	0.21	0.20	0.18	52	E-4	0.19	0.18	0.33	93	D-4	0.35	0.26	0.45
12	F-3	0.29	0.25	0.22	53	E-4	0.18	0.18	0.14	94	D-4	0.32	0.25	0.40
13	F-3	0.35	0.28	0.44	54	E-4	0.30	0.25	0.29	95	D-4	0.43	0.35	0.30
14	F-3	0.30	0.22	0.49	55	E-4	0.40	0.25	0.33	96	C-4	0.36	0.28	0.66
15	F-3	0.37	0.35	—	56	F-4	0.30	0.26	0.32	97	C-4	0.25	0.20	0.37
16	F-3	0.36	0.26	0.53	57	E-4	0.34	0.24	0.53	98	C-4	0.40	0.30	0.88
17	F-3	0.39	0.32	—	58	E-4	0.28	0.24	0.31	99	C-4	0.40	0.38	0.58
18	F-3	0.40	0.38	0.46	59	E-4	0.27	0.23	0.24	100	C-4	0.25	0.15	0.17
19	F-3	0.35	0.30	0.30	60	E-4	0.38	0.31	0.40	101	C-4	0.25	0.24	0.29
20	F-3	(0.16)	0.22	0.19	61	E-4	0.40	0.35	0.10	102	C-4	0.48	0.32	0.29
21	E-3	0.25	0.23	0.44	62	E-4	0.40	0.31	0.37	103	C-4	0.45	0.35	0.29
22	E-3	0.30	0.20	0.29	63	E-4	0.43	0.32	0.59	104	C-4	0.25	0.22	0.31
23	E-3	0.20	0.18	0.20	64	E-4	0.40	0.25	0.50	105	C-4	0.35	0.30	0.56
24	E-3	0.38	0.25	0.07	65	E-4	(0.33)	0.28	0.25	106	C-4	0.55	0.45	0.78
25	E-3	0.25	0.22	0.38	66	E-4	0.40	0.28	0.24	107	C-4	0.36	0.25	0.55
26	F-4	0.34	0.26	0.75	67	E-5	0.42	0.35	0.20	108	C-4	0.40	0.30	0.38
27	F-4	0.25	0.16	0.59	68	E-5	0.35	0.30	0.38	109	C-4	0.32	0.30	0.50
28	E-4	0.15	0.10	0.23	69	E-5	0.38	0.30	0.17	110	C-4	0.26	0.25	0.46
29	E-4	0.25	0.20	0.26	70	E-5	0.38	0.35	0.26	111	C-4	(0.23)	0.32	0.26
30	E-4	0.52	0.40	0.94	71	E-5	0.30	0.24	0.24	112	C-4	0.43	0.38	0.32
31	F-4	0.32	0.22	0.35	72	E-5	0.40	0.32	0.59	113	C-4	0.25	0.23	0.52
32	F-4	0.15	0.10	0.22	73	E-5	0.35	0.33	0.37	114	B-4	0.34	0.28	0.52
33	F-4	0.20	0.16	0.15	74	E-4	0.35	0.30	0.51	115	B-4	0.20	0.18	0.16
34	F-4	0.28	0.26	0.19	75	E-5	0.30	0.26	0.39	116	B-3	0.28	0.25	0.32
35	F-4	0.45	0.28	0.40	76	E-5	0.28	0.25	0.47	117	B-3	0.26	0.26	0.71
36	F-4	0.16	0.15	0.20	77	E-5	0.23	0.23	0.37	118	B-3	0.26	0.26	0.51
37	E-4	0.22	0.18	0.35	78	E-5	0.38	0.25	0.43	119	B-3	0.27	0.24	0.56
38	E-4	0.46	0.34	0.38	79	E-5	(0.25)	0.26	0.24	120	B-3	0.42	0.33	0.73
39	E-4	0.20	0.20	0.12	80	E-5	0.55	0.43	0.43	121	B-3	(0.30)	0.33	0.30
40	E-4	0.30	0.25	0.43	81	E-4	0.50	0.35	0.38	122	B-3	(0.30)	0.24	0.29
41	E-4	0.45	0.35	0.10	82	E-5	0.32	0.30	0.15					

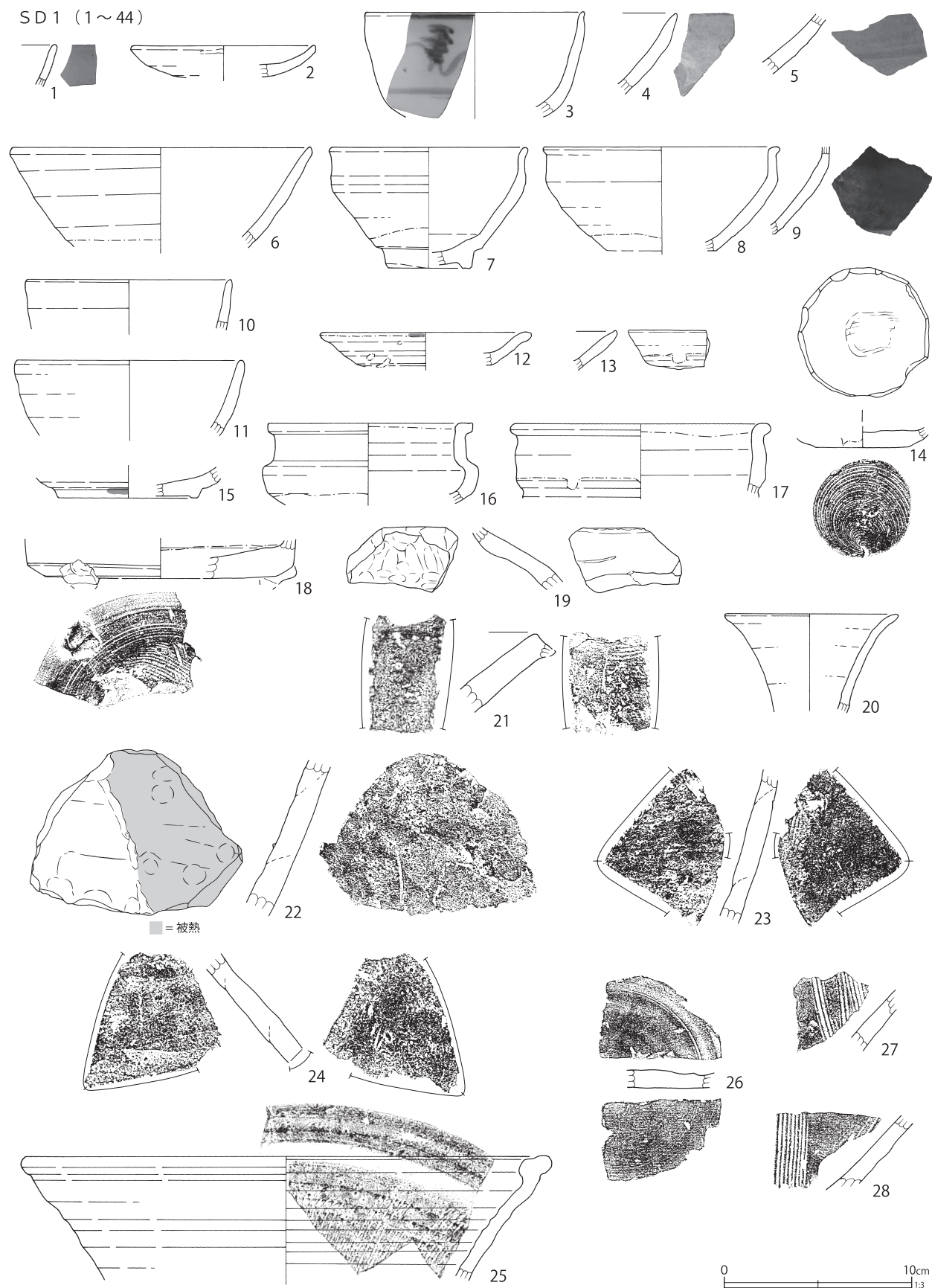
主体である。

第13号溝跡でも15世紀代の陶磁器・土器が主体である。近世瓦片が2点出土しているが、後世の混在品の可能性が高い。

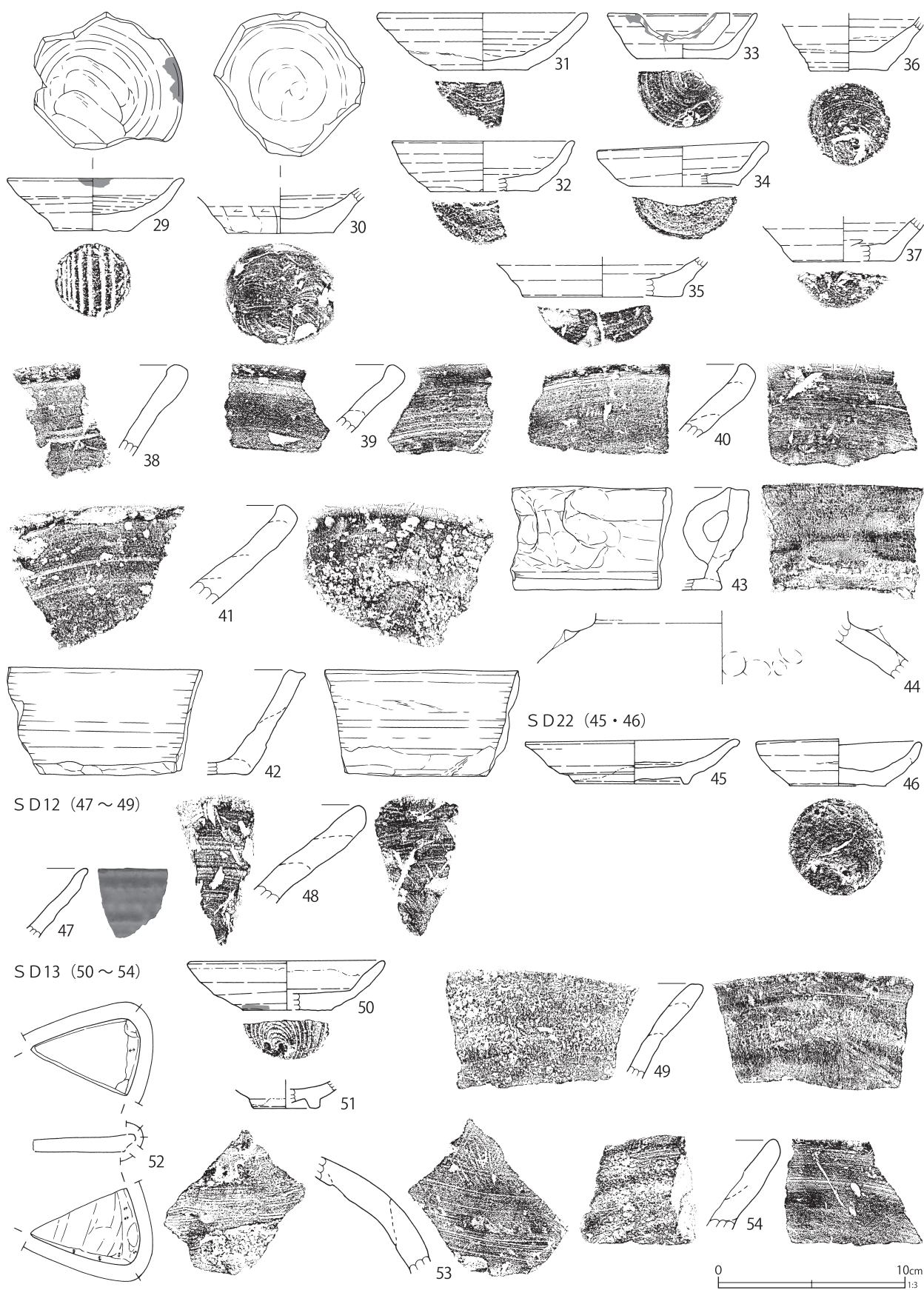
第25号溝跡からは、55・56の17世紀代の陶磁器類が認められ、掲載し得なかった遺物の下限もほぼ同時期である。

第27号溝跡からは57の古瀬戸前期様式の壺

SD 1 (1~44)

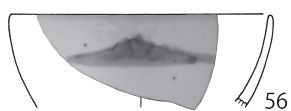
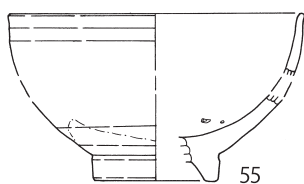


第 64 図 溝跡出土遺物 (1)

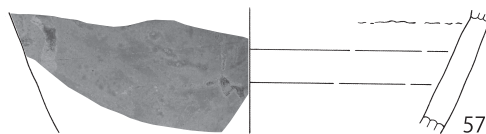


第 65 図 溝跡出土遺物 (2)

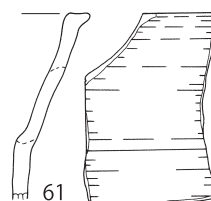
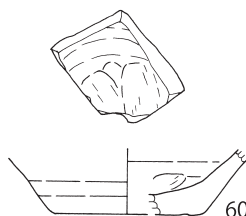
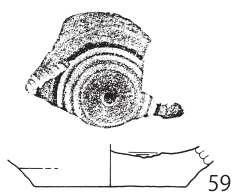
SD25 (55・56)



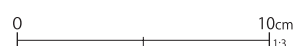
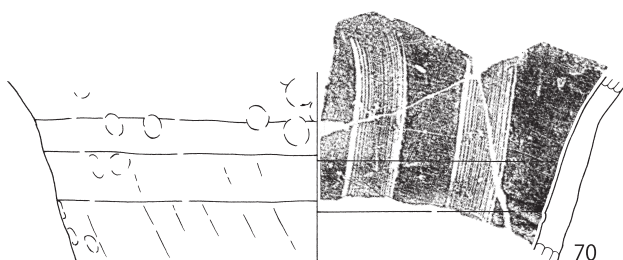
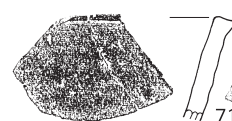
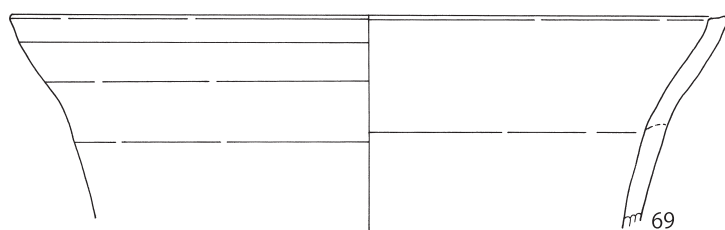
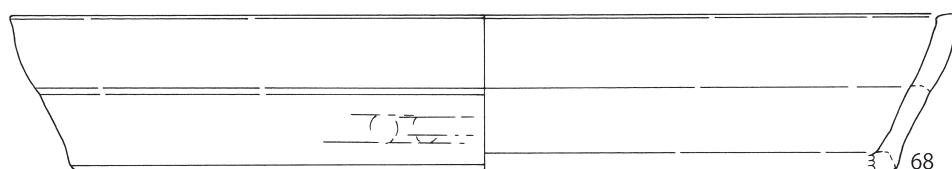
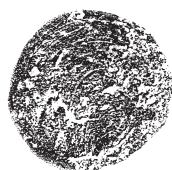
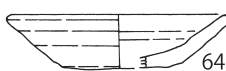
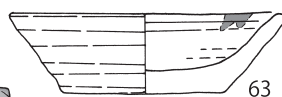
SD27 (57)



SD34 (58～61)

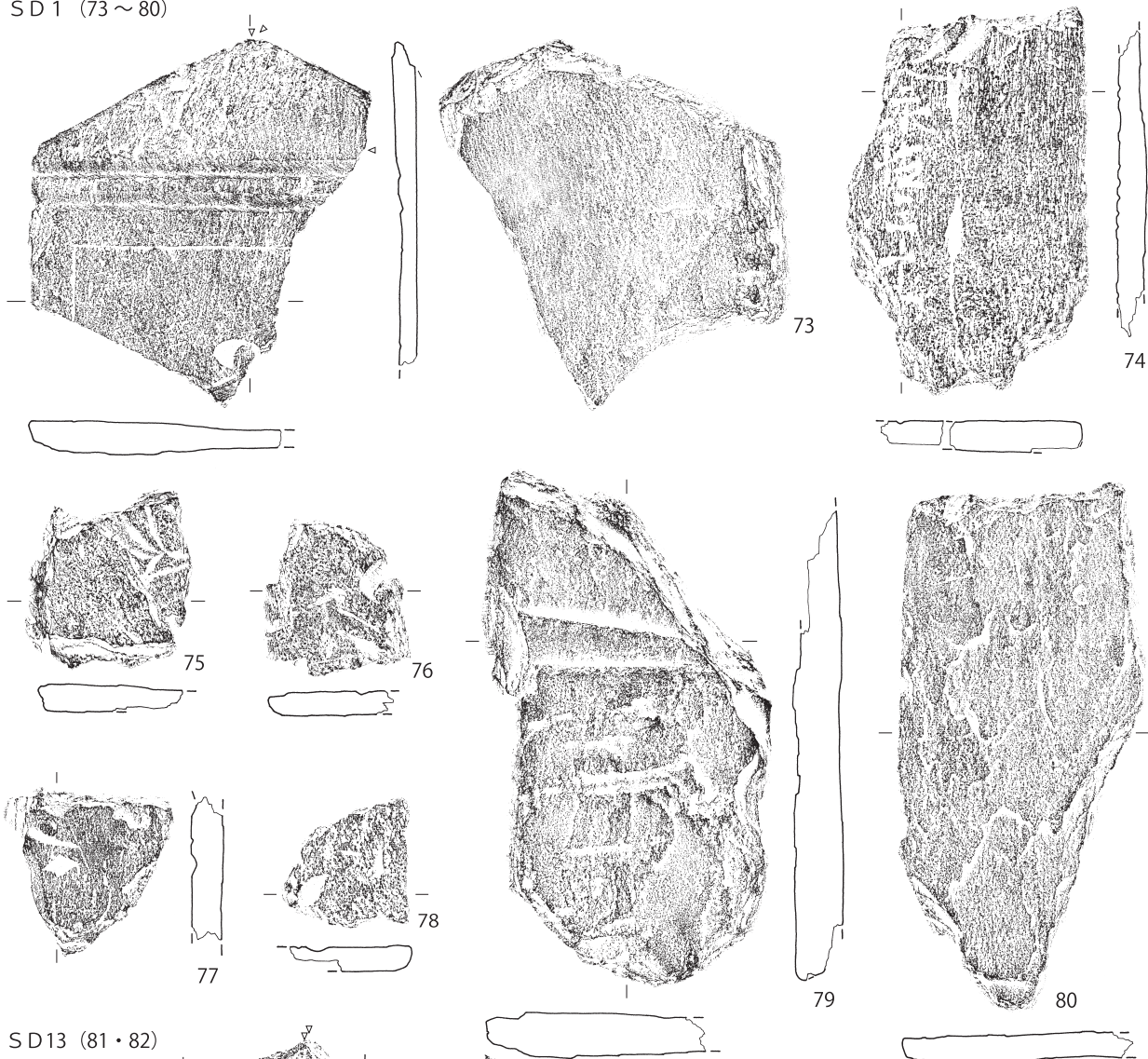


SD36 (62～72)

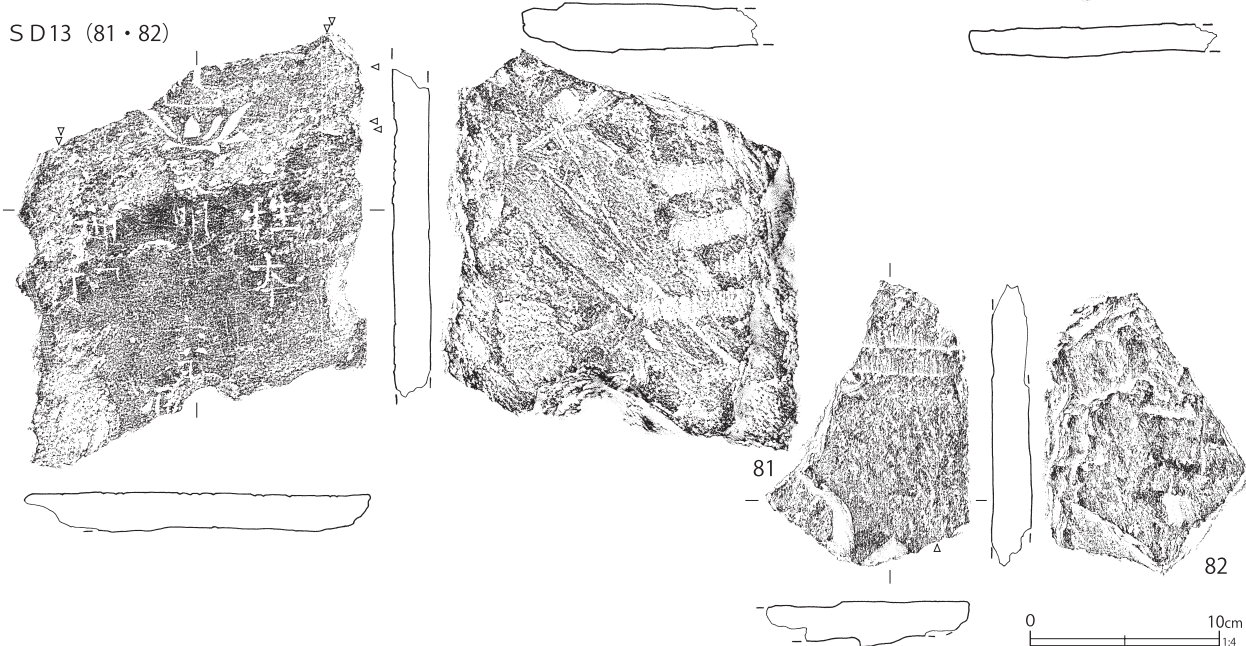


第66図 溝跡出土遺物(3)

SD 1 (73 ~ 80)



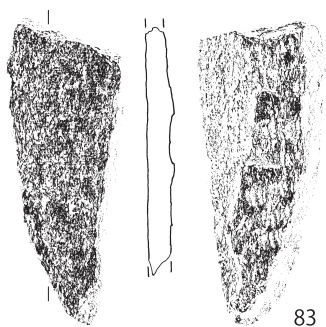
SD 13 (81・82)



第 67 図 溝跡出土遺物 (4)

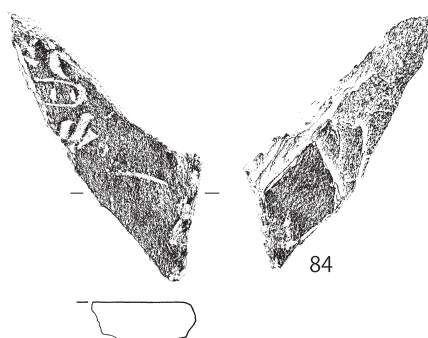
葉師堂遺跡

S D28 (83)



83

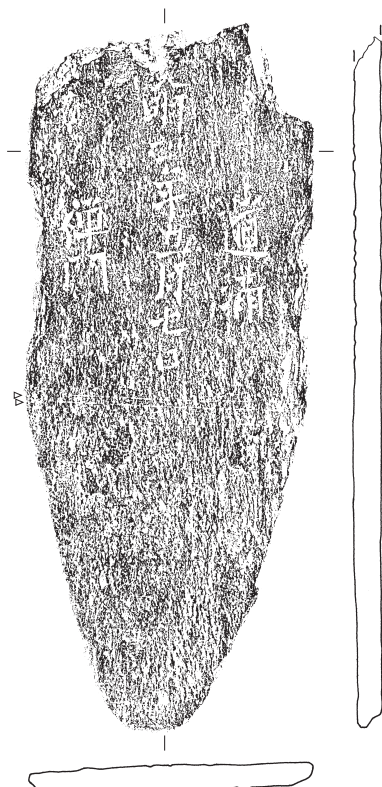
S D33 (84・85)



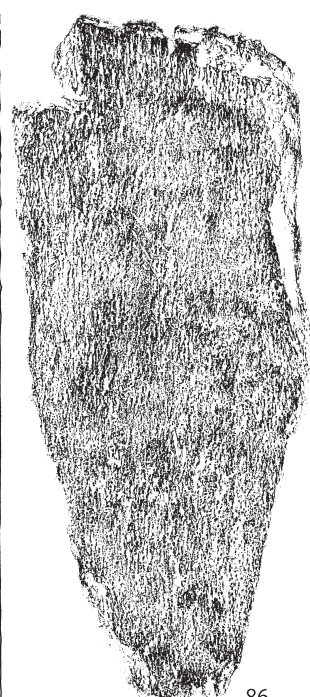
84

85

S D34 (86～92)



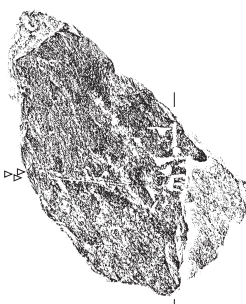
86



87



88



89



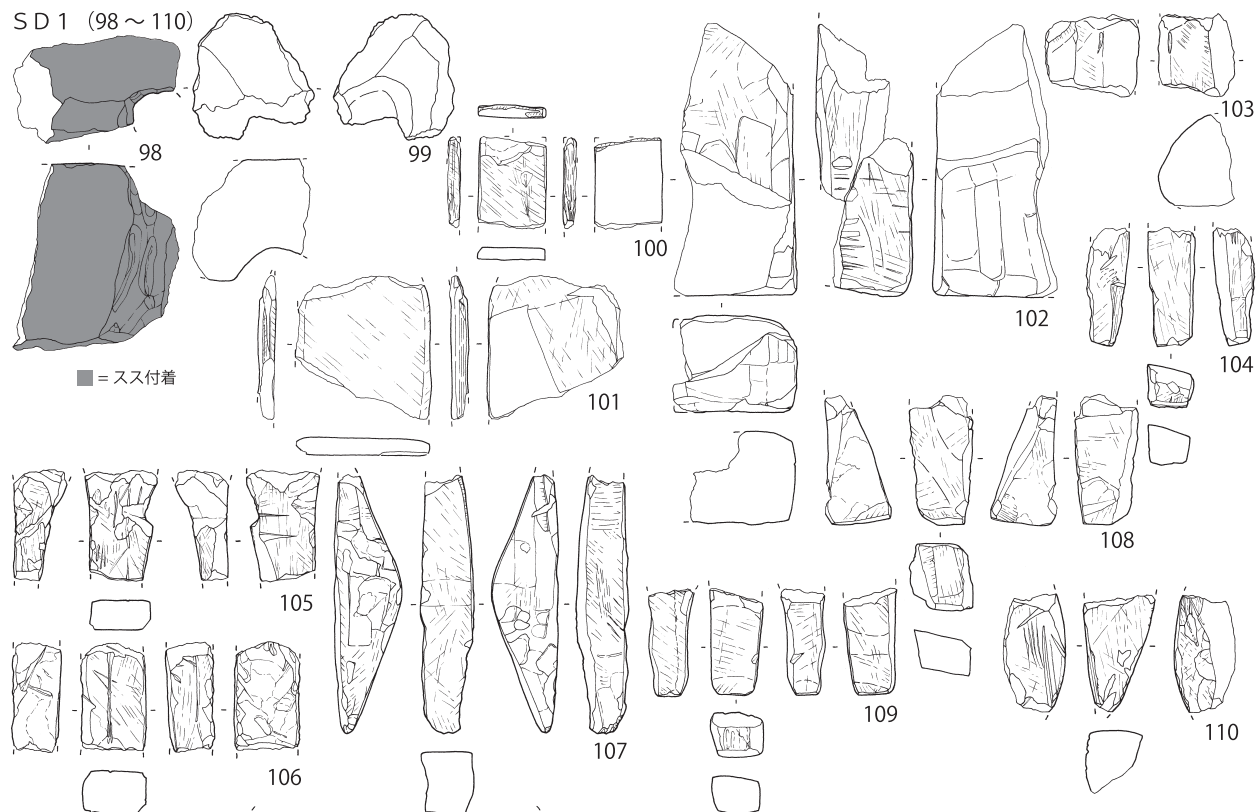
0 10cm
1:4

第 68 図 溝跡出土遺物 (5)

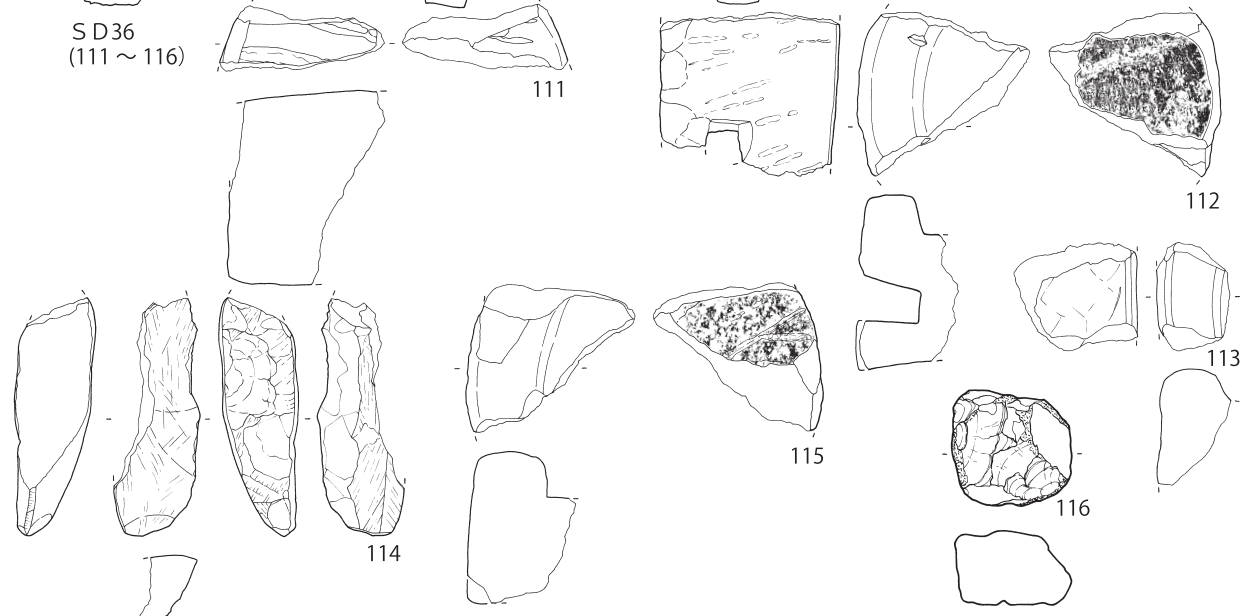


第 69 図 溝跡出土遺物 (6)

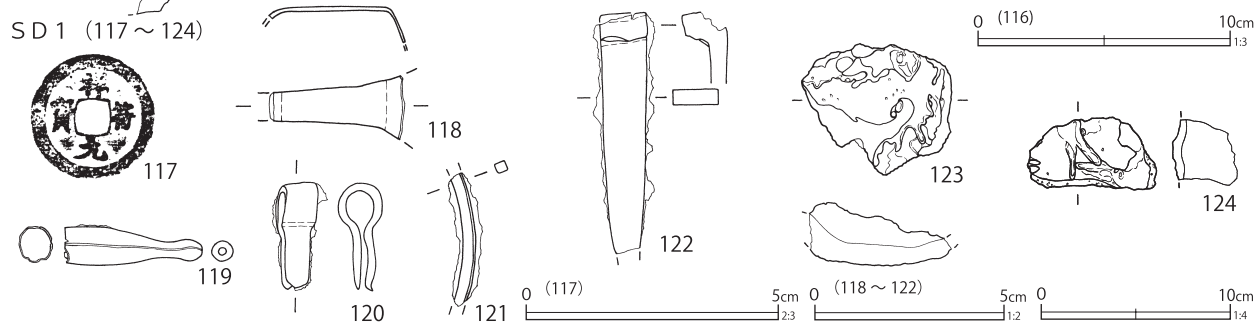
SD 1 (98 ~ 110)



SD36
(111 ~ 116)



SD 1 (117 ~ 124)



第 70 図 溝跡出土遺物 (7)

第24表 溝跡出土遺物観察表(第64～70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
1	磁器(青磁)	碗	—	[2.2]	—	—	5	良好	灰白	SD1	肥前系か 内外面青磁釉	35-1
2	磁器(白磁)	皿	(9.6)	[1.7]	—	K	15	良好	白	SD1	中国邵武窯系 内外面施釉 口唇部外面重ね焼き痕 15C前	34-2
3	磁器	碗	(10.5)	[5.6]	—	—	10	良好	白	SD1	F-3 No.74 肥前系 内外面施釉 外面染付 17C中	31-9
4	陶器	平碗	—	[4.2]	—	I	5	普通	にぶい黄燈	SD1	4層 古瀬戸 内外面灰釉 後IV期	35-1
5	陶器	平碗	—	[3.2]	—	E	5	良好	にぶい黄燈	SD1	No.37 古瀬戸 内外面灰釉・外面下位露胎 後期II～III期	35-1
6	陶器	平碗	(15.8)	[5.3]	—	—	15	良好	にぶい黄燈	SD1	E-4 古瀬戸 内外面灰釉 破損後被熱後期様式	35-1
7	陶器	天目茶碗	(10.2)	6.4	4.4	I	50	普通	浅黄燈	SD1	B・C-4 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C初～前	31-10
8	陶器	天目茶碗	(12.1)	[5.5]	—	K	10	良好	にぶい黄燈	SD1	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C前～中	35-1
9	陶器	天目茶碗	—	[4.6]	—	I	5	良好	にぶい黄燈	SD1	6層 No.4 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 大窯1～2段階か	35-1
10	陶器	丸碗か	(10.8)	[2.7]	—	—	5	良好	灰黄	SD1	C-4 4層 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C	35-1
11	陶器	丸碗	(12.0)	[3.9]	—	H	5	普通	淡黄	SD1	B・C-4 瀬戸美濃系 内外面灰釉 大窯第3段階か	35-1
12	陶器	縁釉小皿	(10.8)	[1.8]	—	E	5	普通	黄灰	SD1	E-4 No.32 古瀬戸 内面灰釉 外面口唇部灰釉 煤付着 後IV新期	35-1
13	陶器	縁釉小皿か	—	[2.1]	—	I	5	良好	灰黄褐	SD1	C-4 4層 内面～外面上位 鉄釉	35-1
14	陶器	縁釉小皿	—	[1.1]	5.0	DE	30	良好	にぶい黄燈	SD1	6層 No.5 古瀬戸 外面上位灰釉 底部糸切痕(右) 内面露胎 後III～IV期	35-1
15	陶器	小皿	—	[1.6]	(7.2)	D	5	普通	灰白	SD1	F-4 4層上 瀬戸美濃系 内外面長石釉 高台煤付着 17C初(志野小皿)	35-1
16	陶器	香炉	(10.7)	[4.3]	—	DI	20	普通	灰黄	SD1	No.25 古瀬戸 内外面灰釉 内面下位煤付着	31-11
17	陶器	香炉	(13.4)	[3.4]	—	EI	5	良好	にぶい黄燈	SD1	B・C-4 瀬戸美濃系 外面鉄釉 17C	35-1
18	陶器	香炉	—	[2.3]	(14.1)	EI	15	良好	褐灰	SD1	E-4 No.33 瀬戸美濃系 内外面周囲灰釉 底部糸切後、周縁ヘラケズリ 底部煤付着	35-1
19	陶器	瓶子	—	[3.3]	—	D	5	良好	灰黄褐	SD1	E-4 古瀬戸 外面灰釉 ヘラ描き 14C	35-1
20	陶器	壺か	(9.0)	[5.3]	—	I	30	良好	暗灰黄	SD1	B・C-4 6層 No.2 産地不詳 内外面施釉 内面下位露胎 胎土炆器質	31-12
21	陶器	片口鉢	—	[4.2]	—	DEL	5	良好	灰褐	SD1	F-3 No.54 常滑 内面ヨコナデ 外面縦工具ナデ 転用砥具	35-1
22	陶器	甕	—	[8.2]	—	DE	5	良好	にぶい赤褐	SD1	4層 No.6 常滑 内面ナデ 外面工具ナデ 16C 激しく被熱	35-1
23	陶器	甕	—	[8.1]	—	DEGI	5	良好	褐灰	SD1	常滑 内面ヨコナデ 外面工具ナデ 押印	35-1
24	陶器	甕	—	[5.8]	—	DEI	5	良好	褐灰	SD1	No.59 常滑 外面自然降灰 内面ヨコナデ 14～15C 転用砥具	35-1
25	陶器	播鉢	(27.6)	[6.6]	—	DE	15	良好	黄灰	SD1	B・C-4 6層 No.3 丹波系か 内面摺目(一単位8本) 胎土炆器質	35-1
26	陶器	播鉢か	—	[1.0]	—	H	5	普通	浅黄燈	SD1	E-4 瀬戸美濃系 底部鉄化粧 内外面錆釉	35-1
27	陶器	播鉢	—	[3.2]	—	E	5	普通	浅黄燈	SD1	E-4 瀬戸美濃系 内外面錆釉 内面摺目(一単位4本) 16C	35-1
28	陶器	播鉢	—	[3.9]	—	EI	5	良好	浅黄燈	SD1	E-4 4層 瀬戸美濃系 内外面錆釉 内面摺目 15～16C	35-1
29	かわらけ	小皿	(9.2)	2.8	3.9	CHI	65	良好	浅黄燈	SD1	D-4 9層 底部糸切(右)後、板状圧痕 口縁煤付着	31-13
30	かわらけ	小皿	—	[2.4]	5.6	CIJ	60	普通	にぶい燈	SD1	底部糸切痕(不規則) 胎土粉質	35-1
31	かわらけ	小皿	(11.1)	3.0	(4.8)	CH	20	普通	にぶい黄燈	SD1	E-4 No.34 底部糸切痕 胎土粉質	35-1
32	かわらけ	小皿	(9.5)	2.7	(5.5)	CI	30	普通	燈	SD1	B・C-4 底部糸切後、ヘラナデか 胎土砂質	35-1
33	かわらけ	小皿	(7.8)	2.9	(4.8)	CEJ	50	普通	にぶい燈	SD1	No.32 底部糸切痕(右) 口縁部を打ち欠き、灯明具として利用(煤付着) 胎土粉質	31-14
34	かわらけ	小皿	(8.7)	[2.8]	(5.8)	CHI	45	良好	燈	SD1	No.12 6層 底部糸切痕 胎土砂質	31-15
35	かわらけ	小皿	—	[2.1]	(8.4)	CJ	20	普通	燈	SD1	C-4 底部糸切痕 胎土粉質	35-1
36	かわらけ	小皿	—	[2.8]	4.0	GI	80	普通	にぶい黄燈	SD1	底部糸切痕(右)	31-16
37	かわらけ	小皿	—	[2.3]	(5.2)	CI	25	不良	灰黄	SD1	4層 底部糸切痕(右) 内底面ヨコナデ やや瓦質に焼成	35-1
38	瓦質土器	鉢	—	[4.8]	—	CDEH	5	普通	黄灰	SD1	10層 内外面ヨコナデ 外面指頭圧痕	35-1
39	瓦質土器	鉢	—	[3.6]	—	DEH	5	普通	灰白	SD1	C-4 内外面ヨコナデ 強いいぶす	35-1
40	瓦質土器	鉢	—	[3.9]	—	DE	5	普通	灰白	SD1	No.1 6層 内外面ヨコナデ 外面下位指頭圧痕	35-1
41	瓦質土器	鉢	—	[5.3]	—	DEHJL	5	普通	にぶい赤褐	SD1	F-3 内外面ヨコナデ 片口部一部遺存酸化	35-1

薬師堂遺跡

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
42	瓦質土器	焙烙	—	5.7	—	ACEI	5	良好	にぶい燈	SD1	4層 内外面ヨコナデ 外面下位～底部外縁ヨコヘラナデ	35-1
43	瓦質土器	焙烙	—	5.5	—	CEI	5	良好	にぶい燈	SD1	No.51 内外面ヨコナデ 内耳1遺存1下端ヨコヘラナデ	35-1
44	瓦質土器	釜	—	[3.6]	—	CDE	5	普通	灰	SD1	B・C-4 内面指頭圧痕 外面ヨコナデ内外面いぶす	35-1
45	陶器	皿	11.2	2.4	6.0	D	60	良好	灰黄	SD22	E-4 No.4 瀬戸美濃系 内外面灰釉 内底面直重ね焼痕 17C 中	31-17
46	かわらけ	小皿	8.6	2.5	5.1	CI	100	良好	燈	SD22	底部糸切痕(左) 胎土砂質・硬質 口縁部わずかに煤付着	31-18
47	陶器	平碗	—	[3.9]	—	I	5	良好	灰白	SD12	古瀬戸 内外面灰釉	35-3
48	瓦質土器	鉢	—	[5.2]	—	CDE	5	普通	灰	SD12	D-3 内外面強いヨコナデ 外面下位指頭圧痕	37-1
49	瓦質土器	鉢	—	[5.1]	—	BD	5	普通	にぶい赤褐	SD12	C-3 内外面指頭圧痕後にヨコナデ	37-1
50	陶器	緑釉小皿	(9.8)	2.6	(4.7)	DE	40	良好	にぶい黄燈	SD13	No.4 古瀬戸 底部糸切痕(右) 内外面上位灰釉 内底面露胎 後Ⅲ～Ⅳ期中国邵武窯系 内外面施釉 高台部露胎 15C	32-1
51	磁器(白磁)	皿	—	[1.4]	(3.4)	—	15	普通	淡黄	SD13	D・E-3 内面灰釉 底部工具ナデ 破損後二次利用(転用砥具)	34-2
52	陶器	盤類	—	[0.9]	—	I	5	良好	にぶい黄燈	SD13	渥美 内面指頭ナデ 外面縦ヘラナデ後、回転ナデ 12C	36-1
53	陶器	壺甕類	—	[6.3]	—	IL	5	普通	灰黄	SD13	口縁部強いヨコナデ 内面使用による摩耗	36-1
54	瓦質土器	鉢	—	[4.7]	—	CDE	5	普通	黄灰	SD13		37-1
55	陶器	碗	—	[3.4]	(4.9)	I	15	普通	灰白	SD25	肥前系 内外面銅緑釉 高台内挟り状 17C 前	35-2
56	磁器	碗	(10.2)	[3.6]	—	—	15	良好	白	SD25	B-2 肥前系 内外面施釉 外面染付 17C 後	35-2
57	陶器	壺類	—	[5.0]	—	I	5	良好	にぶい黄燈	SD27	古瀬戸 内面強いナデ 外面灰釉刷毛塗り 前期様式	35-3
58	かわらけ	小皿	7.5	2.2	4.3	EH	90	普通	燈	SD34	Z-2 No.5 底部糸切痕(右) 胎土粉質	32-2
59	かわらけ	小皿	—	[1.6]	(6.0)	H	20	普通	灰白	SD34	Z-2 底部糸切痕(右) 内底面同心円状カキメ 胎土粉質	37-2
60	かわらけ	小皿	—	[2.7]	(5.6)	CI	10	普通	浅黄燈	SD34	底面板状圧痕 内底面指頭ナデでくぼむ 15C 後～16C 前	37-2
61	瓦質土器	鍋	—	[7.3]	—	BCHI	5	良好	灰褐	SD34	内外面ナデ 胎土に雲母状の片岩細粒を多量 酸化焼成 16C	37-1
62	磁器(青花)	坏か	—	[1.2]	—	—	5	良好	白	SD36	上層 中国景德鎮窯系 内外面染付 口縁部を輪花状にする 碗ないし坏 15～16C	34-2
63	かわらけ	小皿	10.5	3.1	6.4	EH	100	普通	にぶい燈	SD36	A-1 No.1 底部糸切痕(左) 胎土粉質 口縁タール付着	32-3
64	かわらけ	小皿	8.5	2.2	4.2	AHI	75	普通	灰黄褐	SD36	上層 底部糸切痕(右) 全体煤けている	32-4
65	かわらけ	小皿	(7.4)	1.9	(4.0)	DEGH	20	良好	燈	SD36	上層 底部糸切痕 胎土硬質	37-2
66	かわらけ	小皿	(7.0)	[1.9]	—	H	10	普通	灰黄褐	SD36	北テラス	37-2
67	かわらけ	小皿	—	[2.2]	5.9	CIJ	20	普通	にぶい褐	SD36	上層 底部糸切痕 胎土粉質	37-2
68	瓦質土器	焙烙	(37.2)	6.1	(32.1)	CGI	5	普通	褐灰	SD36	上層 内外面ヨコナデ 外面下位指頭圧痕を強くナデ消す 外面若干煤付着 内外面ヨコナデ	37-1
69	瓦質土器	鍋	(28.1)	[8.4]	—	CEGHI	5	普通	褐灰	SD36	上層 内面摺目(一単位18本)	37-1
70	土師質土器	播鉢	—	[7.4]	—	CEG	15	普通	にぶい燈	SD36	上層 還元焼成 内外面強いヨコナデ	37-1
71	瓦質土器	鍋	—	[3.9]	—	I	5	良好	褐灰	SD36	上層 内外面ヨコナデ 外面下位指頭圧痕 還元焼成	37-1
72	瓦質土器	鉢	—	[5.6]	—	DE	5	普通	灰	SD36		37-1
番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版		
73	石製品	板碑	[20.9]	[18.5]	1.9	815.9	緑泥片岩	SD1	No.49 種子(キリーク)・二条線・枠線・側縁上面面取り・ケガキ線 側縁ケズリ ノミ痕(幅0.75 cm)			
74	石製品	板碑	[19.0]	[14.8]	1.8	982.1	緑泥片岩	SD1	No.41・(F3) No.53 蓮座・銘文「永徳三年」石材に長石含む 側縁ケズリ			
75	石製品	板碑	[10.6]	[8.7]	1.6	199.4	緑泥片岩	SD1	線刻蓮座 石材に磁鉄鉱含む 側縁ケズリ			
76	石製品	板碑	[9.8]	[7.7]	1.4	165.1	緑泥片岩	SD1	No.26 種子(キリーク)・蓮座 石材に長石含む 側縁一部ケズリ			
77	石製品	板碑	[10.1]	[8.8]	1.8	214.9	緑泥片岩	SD1	No.7 種子(キリーク) 破損後被熱			
78	石製品	板碑	[8.6]	[7.0]	1.4	122.3	緑泥片岩	SD1	蓮座 石材に長石含む 側縁ミガキ(再利用の可能性あり)			
79	石製品	板碑	[29.3]	[17.0]	2.8	1814.8	緑泥片岩	SD1	No.69 基部正面ノミ痕(ノミ幅0.9 cm) 身部と基部の境は段差になる 側縁ケズリ			
80	石製品	板碑	[30.8]	14.1	1.5	1028.1	緑泥片岩	SD1	No.35 基部破片 器面摩耗 石材に長石粒を含む 側縁敲打、一部ケズリ			

番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
81	石製品	板碑	[24.1]	[18.6]	2.0	964.7	緑泥片岩	SD13	No.2 種子・蓮座・銘文「性本ノ文明六年〔ノ禪門〕二重のケガキ線 側縁敲打、一部粗いケズリ	39-3
82	石製品	板碑	[16.2]	10.9	2.3	512.0	緑泥片岩	SD13	No.3 二条線・種子（キリーク）石材に長石粒を含む 裏面ノミ痕（幅1.1cm）被熱 側縁ケズリ	
83	石製品	板碑	[16.5]	6.5	1.4	191.5	緑泥片岩	SD28	No.1 表面全体剥離 裏面ノミ痕（幅0.8cm）	
84	石製品	板碑	[15.5]	[9.8]	1.9	222.7	緑泥片岩	SD33	種子（キリーク）・蓮座 全体被熱 側縁ケズリ 一部二次利用か	
85	石製品	板碑	[7.8]	[5.3]	[0.75]	37.7	緑泥片岩	SD33	種子 二条線 裏面剥離 全面被熱	
86	石製品	板碑	[37.7]	[15.5]	1.5	1664.4	緑泥片岩	SD34	一括 銘文「道満ノ文明四年五月七日ノ禪門」、ケガキ 石材に長石粒含む 側縁ケズリ一部敲打	39-4
87	石製品	板碑	[27.8]	[12.6]	1.5	981.3	緑泥片岩	SD34	一括 基部破片 側縁敲打 一部ケズリ	
88	石製品	板碑	[11.5]	[13.0]	1.7	429.3	緑泥片岩	SD34	一括 銘文「〔 〕十六日」 ケガキ線 側縁一部ケズリ 被熱	
89	石製品	板碑	[20.5]	15.6	2.4	1130.3	緑泥片岩	SD34	一括 基部破片 ケガキ線 側縁ケズリ 裏面ノミ痕（幅1.1cm）	
90	石製品	板碑	[44.2]	20.4	2.6	2713.6	緑泥片岩	SD34	一括 基部・枠線・銘文「〔 〕年（己未）」 石材に黄鉄鉱・長石含む 基部と裏面ノミ痕（幅1.1cm）一部被熱	
91	石製品	板碑	[16.4]	[12.5]	2.6	773.7	緑泥片岩	SD34	一括 銘文「□□ノ文□（安カ）〔 〕」 石材に長石粒含む 側縁ケズリ	
92	石製品	板碑	[16.2]	[9.7]	1.9	413.0	緑泥片岩	SD34	一括 銘文「□和二年」 裏面転用 石材に黄鉄鉱・長石含む	
93	石製品	板碑	[23.1]	[18.7]	2.45	1301.1	緑泥片岩	SD36	上層 二条線・枠線 光明真言 石材に長石粒含む 側縁敲打、一部ケズリ	
94	石製品	板碑	[23.7]	[11.0]	上1.95 下2.05	771.3	緑泥片岩	SD36	種子・蓮座・脇待種子・枠線 裏面ノミ痕（幅0.75cm）表面被熱 側面・裏面の一部を転用（砥具）	
95	石製品	板碑	[14.6]	[7.9]	1.2	240.5	緑泥片岩	SD36	上層 種子・蓮座 裏面剥離	
96	石製品	板碑	[14.0]	[7.9]	2.3	371.3	緑泥片岩	SD36	上層 銘文「□禪」 側縁ケズリ	
97	石製品	板碑	[14.5]	[7.5]	1.35	243.0	緑泥片岩	SD36	上層 転用	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
98	石製品	石臼（上臼）	[5.6]	[8.8]	[9.8]	434.8	砂岩	SD1	No.48 供給孔部分破片 孔側面に工具痕 欠損あり 被熱 黒色化 煤付着 供給孔推定径4.0cm	38-2
99	石製品	石臼（上臼か）	[6.6]	[6.4]	6.4	281.8	砂岩	SD1	No.5 軸受け孔破片 欠損あり	38-2
100	石製品	砥石	[4.8]	3.6	0.7	19.5	粘板岩	SD1	C-4 4層 平面長方形 断面長方形 4面使用 欠損あり 全部被熱 赤色化	38-2
101	石製品	砥石	[7.6]	[7.2]	1.0	72.6	結晶片岩	SD1	C-4 4層 平面長方形 断面長方形 5面使用 欠損あり 全部被熱 赤色化	38-2
102	石製品	砥石	[14.4]	[6.6]	5.1	313.6	凝灰岩	SD1	No.2 平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 2面使用 欠損あり	38-2
103	石製品	砥石	[4.3]	[4.1]	[5.0]	94.7	凝灰岩か	SD1	工具痕あり 平面不明 断面形不明 2面遺存 欠損あり	38-2
104	石製品	砥石	[6.2]	2.5	2.2	34.3	流紋岩	SD1	9層 櫛歯タガネ痕ないしは平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 表面・側縁部V字状刃物痕数条 4面遺存 破損後 全面被熱 黒色化 表面工具痕と使用の研磨あり	38-2
105	石製品	砥石	[5.8]	3.8	2.8	62.0	流紋岩	SD1	F-3 9層 平面バチ形 断面長方形 刃物痕（V字状）表裏に多数あり 4面遺存 欠損あり 後世の傷が多い	38-2
106	石製品	砥石	[5.7]	3.5	7.6	79.8	流紋岩か	SD1	4層 工具痕あり 平面長方形 断面長方形 欠損あり	38-2
107	石製品	砥石	[13.6]	2.8	3.5	149.1	流紋岩	SD1	B・C-4 平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 5面使用 ほぼ完形	38-2
108	石製品	砥石	[6.8]	3.3	3.5	72.6	流紋岩	SD1	No.29 E-4 平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 4面使用 欠損あり	38-2
109	石製品	砥石	[5.7]	2.8	2.3	51.3	流紋岩	SD1	B・C-4 端面に平ノミ痕か 平面長方形 断面長方形 側縁部V字状刃物痕1条 4面使用 欠損あり 上面に石材の片理による割れ目あり	38-2
110	石製品	砥石	[6.2]	3.8	3.3	71.9	流紋岩	SD1	C-4 断面長方形 側縁部V字状刃物痕多数 3面遺存 欠損あり 一部被熱 黒色化	38-2
111	石製品	石臼（下臼）	[3.5]	[8.6]	10.2	263.3	砂岩	SD36	上面摺目 摩耗 側面先ノミ状工具による突き痕 下面摩耗（二次利用か） 黄褐色の砂岩使用 欠損あり 一部被熱 黒色化	38-3

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
112	石製品	石臼（上臼）	[8.6]	[9.1]	9.6	722.2	角閃石・安山岩	SD36	上層 上面研磨 側面サキノミ状工具で削って調整 下面摺目、使用により摩耗 煤付着 欠損あり 破損後一部被熱 黒色化 煤付着 推定径 (25.6) cm	38-3
113	石製品	石臼（上臼）	[6.1]	5.7	[6.6]	147.2	砂岩	SD36	上層 側面工具痕か 上端部は研磨 礫岩に近い黄褐色の砂岩を使用 欠損あり	38-3
114	石製品	砥石	[12.6]	[4.6]	4.2	160.9	流紋岩	SD36	上層 平ノミ痕か 4面以上使用 欠損あり 一部被熱 黒色化	38-3
115	石製品	石臼（上臼）	[7.8]	[8.9]	8.0	409.2	多孔質安山岩	SD36	側面はサキノミ状工具で削って調整 上面は研磨か 下面摺目 白色粒子を多く含む安山岩を使用 欠損あり	38-3
116	石製品	火打石	4.5	4.7	3.0	92.4	チャート	SD36	上層 完形	38-3
番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	銭貨名		遺構名	備考	図版
117	銅製品	銭貨	24.0	1.3	2.70	祥符元寶（北宋 1009 年）		SD1	E-4 No. 28	38-7
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構名	備考	図版	
118	鉄製品	不明銅製品	[3.5]	1.6	0.1	3.1	SD1	E-4 4層	37-3	
119	鉄製品	煙管吸口	3.6	小口径 0.9	口付径 0.25	2.3	SD1	No. 47	37-3	
120	鉄製品	不明品	2.9	0.9	0.2	4.3	SD1	E-4 一括	37-3	
121	鉄製品	釘か	[3.5]	0.3	0.3	2.0	SD1	C-4 4層	37-3	
122	鉄製品	楔か	[6.3]	1.2	0.4	15.1	SD1	D-4	37-3	
123	鉄製品	鋳造炉炉壁	[6.9]	[7.9]	3.1	88.6	SD1	No. 15 磁着あり	38-6	
124	鉄製品	鋳造炉炉壁	[6.8]	[3.8]	3.1	46.3	SD1	F-4 4層 磁着なし	38-6	

類が出土しているが、瓦質土器焙烙の底部もあり、最終埋没は 17 世紀代以降の可能性がある。

第 30 号溝跡では図示し得る遺物は出土していないが、17 世紀前葉の古瀬戸鉢片が認められる。

第 34 号溝跡は 58 ～ 60 のかわらけ、61 の瓦質土器鍋があり、15 世紀後半頃の様相を示す。

第 35 号溝跡では図示し得る遺物は出土していない。瓦質土器鉢・かわらけとともに、肥前磁器細片 2 点が出土しているが、南部で重複する第 25 号溝跡から混入した可能性もある。

第 36 号溝跡では、全体として 15 世紀以前の遺物が多いが、68 の瓦質土器焙烙が伴う。同様の焙烙破片が数点出土しており、16 世紀後葉～17 世紀前葉に埋没したものと考えられる。

（3）地下式坑

地下式坑は第 1 次調査区で 2 基、第 2 次調査区で 5 基確認された。調査区の北西を中心に分布する。

第 1 号地下式坑（第 71 図）

D-2 グリッドで検出された。確認面では堅坑が検出された。掘り下げた結果、主室部は天井が

残ったままの状態検出された。崩落の危険があったため堅坑のみ調査した。主室部は奥行きは計測のみ行った。そのため主室部の形状は推定である。

平面形態は長方形の主室部の西壁中央部に、円形の堅坑が取り付くと推測される。堅坑の規模は長径 1.15m、短径 1.00m、深さ 1.22m を測る。廃棄直後に埋め戻されたようである。

第 75 図 1 ～ 3 は出土した土器・陶磁器類である。1・2 は在地産土器のかわらけ・焙烙で、いずれも 16 世紀末～17 世紀前葉のものである。2 の体部下位にはシワ状の痕跡が認められ、一部がヨコナデで消される。3 は白磁四耳壺の底部である。同一個体とみられる胴部片が、第 8 号井戸跡と第 6 号地下式坑から出土している。第 77 図 44 ～ 48 は板碑破片で、砥具に転用されたものが多い。

第 2 号地下式坑（第 71 図）

第 2 次調査区の南西側、C-4 グリッドに位置する。重複する第 182 号土壌より古い。主室部は方形に掘り込まれ、南側に方形の堅坑が取り付く。主室部は長軸 2.70m、短軸 2.65m、深さ 0.96m を

測り、堅坑は長さ 0.80m、幅 1.00m 程を測る。主軸方位は $N - 15^{\circ} - W$ を指す。主室部の床面は堅坑部壁面に向けて僅かに高くなる。階段等の施設はなく、堅坑壁面は直線的に立ち上がる。第 14 ～ 17 層が主室部の天井の崩落に伴う層と推定される。覆土中から出土した遺物は、埋没の過程で混入したものと考えられる。

第 75 図 4 ～ 12 は出土した土器・陶磁器類である。4 は中国産の天目茶碗と考えられる。胎土は緻密で混入物はほとんど無い。褐色の鉄釉が施されている。全体としては在地産土器の出土量が多く、ほぼ 15 世紀後半を前後する時期に位置付けられる。第 77 図 49 ～ 51 は出土した板碑破片である。49 は 14 世紀後葉～ 15 世紀前葉、ほかは 14 世紀代のものである。

第 3 号地下式坑（第 72 図）

C - 3・4 グリッドに位置する。重複する第 1 号溝跡より新しく、第 22 号溝跡よりも古い。1 つの堅坑に南北 2 つの主室部が設けられる。堆積状況から南側主室部が先に造られ、埋没した後に同じ堅坑を利用して北側主室部が設けられたと考えられる。堅坑を軸とすると主軸方位は $N - 73^{\circ} - E$ を指す。北側主室部と南側主室部は方向が異なり、堅坑と南側主室部はほぼ直交するが、北側主室部は西に振れる。

規模は堅坑が長径 1.08m、短径 1.00m、深さ 0.75m、北側主室部は長軸 2.92m、短軸 2.45m、深さ 1.40m、南側主室部は長軸 2.65m、短軸 1.85m、深さ 1.34m を測る。階段等の施設はなく、堅坑の壁面はほぼ垂直に立ち上がる。主室部の掘り込みは北側主室部のほうが僅かに深い。床面は主室部から堅坑壁面に向かって少し高くなり、壁面で垂直に立ち上がる。土層で黄褐色土層・にぶい黄褐色土層とされているものが主室部の天井の崩落層と推察される。

第 75 図 13 ～ 16 は出土した土器・陶磁器類である。14 は中世の瓦質土器で、他は近世の遺物

と考えられる。13 は志野水指ないし水注の底部片と思われる。第 1 号井戸跡の遺物（第 54 図 3）と同一個体の可能性が高い。

第 4 号地下式坑（第 73 図）

B - 1・2 グリッドに位置する。方形の主室部の東側に楕円形の堅坑が取り付く。主軸方位は $N - 34^{\circ} - W$ を指す。床面は堅坑壁面から主室部に向かって緩やかに下がり、堅坑と主室部の間には 0.20m 程の段差を設けて主室部が低くなる。主室部の規模は主軸長 1.95m、幅 2.55m、深さ 0.80m を測り、堅坑は長径 0.85m、短径 0.55m、深さ 0.50m を測る。第 8 層が主室部天井の崩落土と考えられる。

第 75 図 16 ～ 19 に出土遺物を示す。16 は陶器茶入で、胎土は緻密で炆器質である。17 はスサ入り粘土を焼成した土壁材と思われる。被熱している。

第 5 号地下式坑（第 73 図）

A - 0 グリッドに位置し、重複する第 145 号土壙より古い。北側と西側が調査区域外へと続くため全体像は不明であるが、主室部は方形になると推測される。

主軸方位は $N - 87^{\circ} - E$ を指す。東側の第 150 号土壙は、主室部の東壁中央付近に位置し、底面が第 5 号地下式坑に向かって傾斜することから堅坑であった可能性がある。主軸長は残存部分で 2.30m、幅は 1.60m、深さ 1.22m を測る。第 22・23 層が天井の崩落土と推定される。第 2 号地下式坑と同様に覆土中から遺物が多く出土し、埋没途中に混入したものと考えられる。

第 75 図 21 ～ 25 は、出土した土器・陶磁器類である。21 は白磁皿であり、乳白色の釉がかかる。22 は青花碗の細片と思われ、外面のみ絵付けされる。第 77 ～ 79 図 52 ～ 57 は板碑である。53 はほぼ完形で、永正十三年（1517）銘を刻む。54・56 も 16 世紀前半を前後する時期のものである。57 は板碑とは断定できないが、表裏面とも研磨されている。